

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	日本文学 (読替科目: 文学を読む) 岩本 真理子 他	1学期	1	2	316
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目: 西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	332
		1年			
	地中海世界の歴史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1
		1年			
	東洋史 (読替科目: 東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	333
		1年			
	日本史 (読替科目: 日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	331
		1年			
	女性史 富安 兆子	2学期	1	2	2
		1年			
	女性と社会 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	320
	1年				
哲学入門 (読替科目: 倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	336	
	1年				
哲学の諸問題 堺 正憲	2学期	1	2	3	
	1年				
倫理学原論 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	325	
	1年				
応用倫理学 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	317	
	1年				
文化と社会 (読替科目: 人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	282	
	1年				
人権の歴史 (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	318	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	人権と社会 (読替科目:人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	319
		1年			
	現代と思想 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	315
		1年			
	経済と社会 (読替科目:グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	329
		1年			
	現代社会と経営 (読替科目:企業と社会) 山岡 敏秀	1学期	1	2	324
		1年			
	社会学の考え方 (読替科目:社会学) 稲月 正	1学期	1	2	334
		1年			
	現代社会の解説 (読替科目:現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	326
		1年			
	社会生活と法 柴田 滋	2学期	1	2	4
		1年			
	市民と法 (読替科目:法律の読み方) 小野 憲昭 他	2学期	1	2	291
		1年			
	現代日本の政治 松田 憲忠	2学期	1	2	5
		1年			
	大衆化と政治 (読替科目:市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	323
		1年			
日本国憲法概論 (読替科目:日本国憲法) 植木 淳	2学期	1	2	335	
	1年				
国際学入門 (読替科目:国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	283	
	1年				
現代の国際関係 (読替科目:国際紛争と国連) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	328	
	1年				
政策の構想 中道 壽一	2学期	1	2	6	
	1年				
まちづくり論 古賀 哲矢	2学期	1	2	7	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	地域開発 三宅 博之	1学期	1	2	8
	1年				
	くらしの中の化学物質 (読替科目:くらしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	313
	1年				
	地球...その生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	311
	1年				
	地球と生命 (読替科目:自然史へのいざない) 重信 幸彦 他	2学期	1	2	312
	1年				
	現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 小松 佐穂子	1学期	1	2	314
	1年				
	遺伝と生命 山根 明弘	2学期	1	2	9
	1年				
	薬とくらし 森 正明	2学期	1	2	10
	1年				
	栄養とくらし (読替科目:自己管理論)	2学期	1	2	290
1年					
自然と社会の共生論 (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	310	
1年					
国際社会と日本 (読替科目:国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	330	
1年					
現代世界の展望 (読替科目:現代の国際情勢) 金 鳳珍	1学期	1	2	327	
1年					
支えあう世の中 (読替科目:共生の作法) 山本 光英 他	2学期	1	2	321	
1年					
北九州を知る (読替科目:北九州学) 小野 憲昭	2学期	1	2	322	
1年					
■外国語教育科目	英語I (読替科目:英語I) 葛西 宏信	1学期	1	1	337
	比1-A				
	英語I (読替科目:英語I) 下條 かおり	1学期	1	1	338
比1-B					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	英語I (読替科目: 英語I) 野上 良子	1学期	1	1	339
		比1 - C			
	英語I (読替科目: 英語I) 新藤 照夫	1学期	1	1	340
		比1 - D			
	英語II (読替科目: 英語II) ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	341
		比1 - A			
	英語II (読替科目: 英語II) 下條 かおり	2学期	1	1	342
		比1 - B			
	英語II (読替科目: 英語II) 野上 良子	2学期	1	1	343
		比1 - C			
	英語II (読替科目: 英語II) 新藤 照夫	2学期	1	1	344
		比1 - D			
	英語III (読替科目: 英語III) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	345
		比1 - A			
	英語III (読替科目: 英語III) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	346
		比1 - B			
	英語III (読替科目: 英語III) Stephanie A.Houghton	1学期	1	1	347
	比1 - C				
英語III (読替科目: 英語III) 船方 浩子	1学期	1	1	348	
	比1 - D				
英語IV (読替科目: 英語IV) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	349	
	比1 - A				
英語IV (読替科目: 英語IV) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	350	
	比1 - B				
英語IV (読替科目: 英語IV) Stephanie A.Houghton	2学期	1	1	351	
	比1 - C				
英語IV (読替科目: 英語IV) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	352	
	比1 - D				
ドイツ語I (読替科目: ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	385	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	386
		比1年			
	ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III) 岩本 真理子	1学期	1	1	387
		比1年			
	ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV) 岩本 真理子	2学期	1	1	388
		比1年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 坂田 由紀	1学期	1	1	393
		比1年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 坂田 由紀	2学期	1	1	394
		比1年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 山下 広一	1学期	1	1	395
		比1年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 山下 広一	2学期	1	1	396
		比1年			
	スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 辻 光博	1学期	1	1	401
		比人1年			
	スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 辻 光博	2学期	1	1	402
		比人1年			
	スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 岡住 正秀	1学期	1	1	403
		比人1年			
スペイン語IV (読替科目:スペイン語IV) 岡住 正秀	2学期	1	1	404	
	比人1年				
ロシア語I (読替科目:ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	381	
	済営比人1年				
ロシア語II (読替科目:ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	382	
	済営比人1年				
ロシア語III (読替科目:ロシア語III) ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	383	
	済営比人1年				
ロシア語IV (読替科目:ロシア語IV) ナタリア・シェスタコーワ	2学期	1	1	384	
	済営比人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	中国語I (読替科目：中国語I) 板谷 秀子	1学期	1	1	369
		比1年			
	中国語I (読替科目：中国語I) 正野 留加	1学期	1	1	370
		比1年			
	中国語II (読替科目：中国語II) 板谷 秀子	2学期	1	1	371
		比1年			
	中国語II (読替科目：中国語II) 正野 留加	2学期	1	1	372
		比1年			
	中国語III (読替科目：中国語III) 王 占華	1学期	1	1	373
		比1年			
	中国語III (読替科目：中国語III) 王 曉芳	1学期	1	1	374
		比1年			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 王 占華	2学期	1	1	375
		比1年			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 王 曉芳	2学期	1	1	376
		比1年			
	朝鮮語I (読替科目：朝鮮語I) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	377
		比1年			
	朝鮮語II (読替科目：朝鮮語II) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	378
		比1年			
朝鮮語III (読替科目：朝鮮語III) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	379	
	比1年				
朝鮮語IV (読替科目：朝鮮語IV) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	380	
	比1年				
英語V (読替科目：英語V) 薬師寺 元子	1学期	2	1	353	
	比2 - A				
英語V (読替科目：英語V) 杉山 智子	1学期	2	1	354	
	比2 - B				
英語V (読替科目：英語V) 伊藤 晃	1学期	2	1	355	
	比2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	英語V (読替科目: 英語V) 船方 浩子	1学期	2	1	356
		比2 - D			
	英語VI (読替科目: 英語VI) デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	357
		比2 - A			
	英語VI (読替科目: 英語VI) 伊藤 晃	2学期	2	1	358
		比2 - B			
	英語VI (読替科目: 英語VI) 杉山 智子	2学期	2	1	359
		比2 - C			
	英語VI (読替科目: 英語VI) 船方 浩子	2学期	2	1	360
		比2 - D			
	英語VII (読替科目: 英語VII) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	361
		比2 - A			
	英語VII (読替科目: 英語VII) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	362
		比2 - B			
	英語VII (読替科目: 英語VII) デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	363
		比2 - C			
	英語VII (読替科目: 英語VII) 船方 浩子	1学期	2	1	364
		比2 - D			
	英語VIII (読替科目: 英語VIII) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	365
		比2 - A			
英語VIII (読替科目: 英語VIII) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	366	
	比2 - B				
英語VIII (読替科目: 英語VIII) デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	367	
	比2 - C				
英語VIII (読替科目: 英語VIII) ロバート・マーフィ	2学期	2	1	368	
	比2 - D				
ドイツ語V (読替科目: ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	389	
	済営比2年				
ドイツ語VI (読替科目: ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	390	
	済営比2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	ドイツ語VII (読替科目：ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	391
		済営比2年			
	ドイツ語VIII (読替科目：ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	392
		済営比2年			
	フランス語V (読替科目：フランス語V) 中川 裕二	1学期	2	1	397
		済営比2年			
	フランス語VI (読替科目：フランス語VI) 中川 裕二	2学期	2	1	398
		済営比2年			
フランス語VII (読替科目：フランス語VII) 山下 高之	1学期	2	1	399	
	済営比2年				
フランス語VIII (読替科目：フランス語VIII) 山下 高之	2学期	2	1	400	
	済営比2年				
■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	11
		1年			
	ネットワーク通信 廣渡 栄寿	1学期	1	2	12
		1年			
■健康管理教育科目	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	284
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	1	285
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	286
		1年			
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	1	287
		1年			
スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	288	
	1年				
スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	1	289	
	1年				
生涯スポーツI (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 磯貝 浩久	1学期	1	1	292	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツI (テニス) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (テニス)) 原田 守治	1学期	1	1	293
		1年			
	生涯スポーツI (バスケットボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バスケットボール)) 原田 守治	1学期	1	1	294
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 美山 泰教	1学期	1	1	295
		1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	296
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	297
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	298
		1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 高西 敏正	1学期	1	1	299
		1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 徳永 政夫	1学期	1	1	300
		1年			
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	301	
	1年				
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 原田 守治	2学期	1	1	302	
	1年				
生涯スポーツII (バスケットボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 原田 守治	2学期	1	1	303	
	1年				
生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	304	
	1年				
生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	305	
	1年				
生涯スポーツII (サッカー) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	306	
	1年				
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	307	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	308
		1年			
	生涯スポーツII (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	2学期	1	1	309
		1年			
生涯スポーツIII 徳永 政夫	1学期	2	1	13	
	2年				
生涯スポーツIV 加倉井 美智子	2学期	2	1	14	
	2年				
■留学生特別科目	日本語A (読替科目: 日本語A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	405
		留学生 1年			
	日本語A (読替科目: 日本語A) 小林 浩明	1学期 (ペア)	1	2	406
		留学生 1年			
	日本語B (読替科目: 日本語B) 則松 智子 他	1学期 (ペア)	1	2	407
		留学生 1年			
	日本語C (読替科目: 日本語C) 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	408
		留学生 1年			
	日本語D (読替科目: 日本語D) 清水 順子 他	2学期 (ペア)	1	2	409
		留学生 1年			
日本事情 (社会) A (読替科目: 日本事情 (社会) A) 山崎 勇治	1学期	1	2	410	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B (読替科目: 日本事情 (社会) B) 山崎 勇治	2学期	1	2	411	
	留学生 1年				
■専門基礎教育科目 ■基礎演習科目	比較文化基礎演習 1 馬場 美佳	1学期	2	2	15
		2年			
	比較文化基礎演習 2 芳之内 雄二	2学期	2	2	16
		2年			
日本文化基礎演習 1 馬場 美佳	1学期	2	2	17	
	2年				
日本文化基礎演習 2 芳之内 雄二	2学期	2	2	18	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目 ■基礎演習科目	欧米文化基礎演習 1 馬場 美佳	1学期	2	2	19
		2年			
	欧米文化基礎演習 2 芳之内 雄二	2学期	2	2	20
		2年			
■概論科目	比較文学概論 (読替科目: 比較文学概論) 田部井 世志子	2学期	1	2	265
		1年			
	異文化間コミュニケーション論 (読替科目: 異文化間コミュニケーション概論) 十時 康	2学期	1	2	152
	1年				
	文化人類学 (読替科目: 比較民族学) 成末 繁郎	1学期	1	2	109
		1年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化科目	日米文化比較 (読替科目: 日米文化比較) 十時 康	2学期	2	2	112
		2年			
	日仏文化比較 (読替科目: 日仏文化比較) 水本 弘文	2学期	2	2	113
		2年			
	日中文化比較 (読替科目: 日中文化比較) 馬 叢慧	1学期	2	2	114
		2年			
	比較中国思想 (読替科目: 比較中国思想) 連 清吉	集中	2	2	110
		2年			
	比較美術 (読替科目: 比較美術) 五月女 晴恵	1学期	2	2	108
		2年			
	比較メディア文化 (読替科目: メディア文化概論) 真鍋 昌賢	1学期	2	2	266
		2年			
	比較日本古典文学 (読替科目: 比較日本古典文学) 園田 豊	2学期	2	2	106
	2年				
比較ドイツ文学 (読替科目: 比較ドイツ文学) 岩本 真理子	2学期	2	2	107	
	2年				
比較ジェンダー論 (読替科目: 比較ジェンダー論) 吉崎 邦子	2学期	2	2	111	
	2年				
言語学概論 山路 奈保子	1学期	2	2	21	
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較基礎科目	日本の宗教と思想 (読替科目：日本の宗教文化) 佐藤 真人	2学期	2	2	118
		2年			
	日本の近代思想 (読替科目：日本の近代思想) 内山 一幸	1学期	2	2	134
		2年			
	日本の歴史と風土 (読替科目：日本の生活文化) 八百 啓介	2学期	2	2	120
		2年			
	日本文学史(古典) (読替科目：日本文学史(古典)) 大場 卓也	1学期	2	2	121
		2年			
	日本語学概論(音声・文字・方言) (読替科目：日本語学概論I) 堀尾 香代子	1学期	2	2	116
		2年			
	日本語学概論(語彙・敬語・文法) (読替科目：日本語学概論II) 堀尾 香代子	2学期	2	2	117
		2年			
	日本の古典文学(物語) (読替科目：日本の古典文学I) 大場 卓也	集中	2	2	123
		2年			
	日本の古典文学(詩歌) (読替科目：日本の古典文学II) 河北 靖	2学期	2	2	124
		2年			
	日本の近代文学 (読替科目：日本の近代文学) 馬場 美佳	1学期	2	2	125
		2年			
	日本の現代文学 (読替科目：日本の現代文学) 赤塚 正幸	1学期	2	2	126
		2年			
日本古代の演劇・芸能 (読替科目：日本の芸能文化) 佐藤 真人	1学期	2	2	119	
	2年				
日本の美術(絵画) (読替科目：日本の美術) 五月女 晴恵	1学期	2	2	127	
	2年				
日本の美術(彫刻) 五月女 晴恵	2学期	2	2	22	
	2年				
日本の宗教と美術 (読替科目：日本の宗教と美術) 五月女 晴恵	2学期	2	2	128	
	2年				
日本の大衆文化論 (読替科目：日本の大衆文化) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	122	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較基礎科目	日本の都市文化論 (読替科目：日本の都市文化) 内山 一幸	2学期	2	2	129
		2年			
	日本文学概論(古典) (読替科目：日本文学概論(古典)) 河北 靖	1学期	2	2	115
		2年			
	日本語史(古代語) 堀尾 香代子	1学期	2	2	23
		2年			
	日本語表現法I (読替科目：日本語表現法I) 加藤 宏文	1学期	2	2	130
		2年			
	日本語表現法II (読替科目：日本語表現法II) 加藤 宏文	2学期	2	2	131
		2年			
	日本語音声学I (読替科目：日本語音声学I) 矢野 準	1学期	2	2	132
		2年			
	日本語音声学II (読替科目：日本語音声学II) 矢野 準	2学期	2	2	133
		2年			
	アメリカの宗教と思想 新村 昭雄	2学期	2	2	24
		2年			
	アメリカの歴史と風土 (読替科目：アメリカの歴史と文化) 前田 譲治	1学期	2	2	139
		2年			
	アメリカ文化論 (読替科目：アメリカ文化論) ダニエル・ストラック	2学期	2	2	140
	2年				
アメリカ文学概論 (読替科目：アメリカ文学概論) 新村 昭雄	1学期	2	2	135	
	2年				
アメリカの現代文学 (読替科目：アメリカの現代文学) 前田 譲治	2学期	2	2	136	
	2年				
アメリカの18-19世紀文学 (読替科目：アメリカの18-19世紀文学) 新村 昭雄	2学期	2	2	137	
	2年				
アメリカの大衆文化論 (読替科目：アメリカの大衆文化) 前田 譲治	2学期	1	2	138	
	1年				
英語学概論 (読替科目：英語学概論) 北峯 裕士	1学期	2	2	147	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較基礎科目	英語史 (読替科目: 英語史) 松崎 徹	2学期	2	2	149
	2年				
	英文法(技術) (読替科目: 英文法I) 田村 水幸	1学期	2	2	150
	2年				
	英文法(応用) (読替科目: 英文法II) 野島 啓一	2学期	2	2	151
	2年				
	英語音声学実践 (読替科目: 英語音声学) 山内 ひさ子	1学期	2	2	148
	2年				
	イギリスの歴史と風土 (読替科目: イギリスの歴史と文化) 高本 孝子	1学期	2	2	143
	2年				
	イギリス文化論 (読替科目: イギリス文化論) 木原 謙一	1学期	2	2	144
	2年				
	ドイツ文化論 (読替科目: ドイツ文化論) 岩本 真理子	1学期	2	2	146
	2年				
イギリスの現代文学 (読替科目: イギリスの現代文学) 高本 孝子	1学期	2	2	141	
2年					
イギリスの大衆文化論 (読替科目: イギリスの大衆文化) 石井有希子	2学期	1	2	142	
1年					
フランス文学 (読替科目: フランス文学) 水本 弘文	1学期	2	2	145	
2年					
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	153
	1 - a				
	英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	154
	1 - b				
	英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	1	1	155
	1 - c				
英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	156	
1 - d					
英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	157	
1 - e					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文A - 1 (読替科目：英会話・英作文1) アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	158
		1 - f			
	英会話・英作文A - 1 (読替科目：英会話・英作文1) アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	159
		1 - g			
	英会話・英作文A - 1 (読替科目：英会話・英作文1) アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	160
		1 - h			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	161
		1 - a			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	162
		1 - b			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	1	1	163
		1 - c			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	164
		1 - d			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	165
		1 - e			
	英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	166
		1 - f			
英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	167	
	1 - g				
英会話・英作文A - 2 (読替科目：英会話・英作文2) アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	168	
	1 - h				
英会話・英作文B - 1 (読替科目：英会話・英作文3) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	169	
	AES 1				
英会話・英作文B - 1 (読替科目：英会話・英作文3) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	170	
	AES 2				
英会話・英作文B - 1 (読替科目：英会話・英作文3) ポール・ガラフ・スティール	1学期	2	1	171	
	2 - a				
英会話・英作文B - 1 (読替科目：英会話・英作文3) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	172	
	2 - b				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文B - 1 (読替科目: 英会話・英作文3) ドローキス ダニエル	1学期	2	1	173
		2 - c			
	英会話・英作文B - 1 (読替科目: 英会話・英作文3) ドローキス ダニエル	1学期	2	1	174
		2 - d			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) ジョセフ・テイレンシュナイダー	2学期	2	1	175
		AES 1			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	176
		AES 2			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) ポール・ガラフ・ステイール	2学期	2	1	177
		2 - a			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	178
		2 - b			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) ドローキス ダニエル	2学期	2	1	179
		2 - c			
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) ドローキス ダニエル	2学期	2	1	180
		2 - d			
	英会話・英作文C - 1 (読替科目: 英会話・英作文7) クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	181
		AES			
	英会話・英作文C - 1 (読替科目: 英会話・英作文7) デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	3	1	182
		3年			
英会話・英作文C - 1 (読替科目: 英会話・英作文7) ポール・ガラフ・ステイール	1学期	3	1	183	
	3年				
英会話・英作文C - 1 (読替科目: 英会話・英作文7) 三宅 啓子	1学期	3	1	184	
	3年				
英会話・英作文C - 2 (読替科目: 英会話・英作文8) クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	185	
	AES				
英会話・英作文C - 2 (読替科目: 英会話・英作文8) デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	3	1	186	
	3年				
英会話・英作文C - 2 (読替科目: 英会話・英作文8) ポール・ガラフ・ステイール	2学期	3	1	187	
	3年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文C - 2 (読替科目：英会話・英作文8) 三宅 啓子	2学期	3	1	188
		3年			
	アメリカ文化講読1 (読替科目：アメリカ文化講読) 江頭 理江	1学期	1	1	189
		1年			
	アメリカ文化講読2 (読替科目：アメリカ文化講読) 江頭 理江	2学期	1	1	190
		1年			
	(新課程のみ) (読替科目：日本の文献講読) 馬場 美佳	2学期	2	1	194
		2年			
	イギリス文化講読1 (読替科目：イギリス文化講読) 高本 孝子	2学期	1	1	191
		1年			
	イギリス文化講読2 (読替科目：イギリス文化講読) 杉本 美穂	2学期	1	1	192
		1年			
	フランス文化講読1 (読替科目：フランス文化講読) 水本 弘文	1学期	2	1	196
		2年			
	フランス文化講読2 水本 弘文	2学期	2	1	25
		2年			
ドイツ文化講読1 岩本 真理子	1学期	2	1	26	
	2年				
ドイツ文化講読2 (読替科目：ドイツ文化講読) 岩本 真理子	2学期	2	1	197	
	2年				
日本文化英文講読1 (読替科目：日本文化英文講読) 江頭 理江	2学期	1	1	193	
	1年				
日本文化英文講読2 前田 譲治	2学期	1	1	27	
	1年				
日本の古典文学講読1 (読替科目：日本の古典文学講読) 河北 靖	1学期	1	1	195	
	1年				
■演習・卒論科目	演習A - 1 (比較ドイツ文化) (読替科目：演習A - 1 (比較ドイツ文化)) 岩本 真理子	1学期	3	2	198
		3年			
	演習A - 1 (日本文化) (読替科目：演習A - 1 (日本文化)) 五月女 晴恵	1学期	3	2	199
		3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 1 (日本文化) (読替科目: 演習A - 1 (日本文化)) 八百 啓介	1学期	3	2	200
		3年			
	演習A - 1 (日本文化) (読替科目: 演習A - 1 (日本文化)) 佐藤 真人	1学期	3	2	201
		3年			
	演習A - 1 (比較メディア文化) (読替科目: 演習A - 1 (メディア文化)) 真鍋 昌賢	1学期	3	2	202
		3年			
	演習A - 1 (日本古典文学) (読替科目: 演習A - 1 (日本古典文学)) 河北 靖	1学期	3	2	203
		3年			
	演習A - 1 (日本古典文学) (読替科目: 演習A - 1 (日本古典文学)) 園田 豊	1学期	3	2	204
		3年			
	演習A - 1 (日本近代文学) (読替科目: 演習A - 1 (日本近代文学)) 赤塚 正幸	1学期	3	2	205
		3年			
	演習A - 1 (日本近代文学) (読替科目: 演習A - 1 (日本近代文学)) 馬場 美佳	1学期	3	2	206
		3年			
	演習A - 1 (日本語学) (読替科目: 演習A - 1 (日本語学)) 堀尾 香代子	1学期	3	2	207
		3年			
演習A - 1 (アメリカ文学) (読替科目: 演習A - 1 (アメリカ文学)) 新村 昭雄	1学期	3	2	208	
	3年				
演習A - 1 (英米文学) (読替科目: 演習A - 1 (英米文学)) 田部井 世志子	1学期	3	2	209	
	3年				
演習A - 1 (アメリカ文学) (読替科目: 演習A - 1 (アメリカ文学)) 前田 譲治	1学期	3	2	210	
	3年				
演習A - 1 (フランス文化) (読替科目: 演習A - 1 (フランス文化)) 水本 弘文	1学期	3	2	211	
	3年				
演習A - 1 (アメリカ文化) (読替科目: 演習A - 1 (アメリカ文化)) 寺田 由美	集中	3	2	212	
	3年				
演習A - 1 (スペイン史) (読替科目: 演習A - 1 (スペイン史)) 岡住 正秀	1学期	3	2	213	
	3年				
演習A - 1 (ロシア文化) (読替科目: 演習A - 1 (ロシア文化)) 芳之内 雄二	1学期	3	2	214	
	3年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習A - 2 (比較ドイツ文化) (読替科目: 演習A - 2 (比較ドイツ文化)) 岩本 真理子	2学期	3	2	215
		3年			
	演習A - 2 (日本文化) (読替科目: 演習A - 2 (日本文化)) 五月女 晴恵	2学期	3	2	216
		3年			
	演習A - 2 (日本文化) (読替科目: 演習A - 2 (日本文化)) 八百 啓介	2学期	3	2	217
		3年			
	演習A - 2 (日本文化) (読替科目: 演習A - 2 (日本文化)) 佐藤 真人	2学期	3	2	218
		3年			
	演習A - 2 (比較メディア文化) (読替科目: 演習A - 2 (メディア文化)) 真鍋 昌賢	2学期	3	2	219
		3年			
	演習A - 2 (日本古典文学) (読替科目: 演習A - 2 (日本古典文学)) 河北 靖	2学期	3	2	220
		3年			
	演習A - 2 (日本古典文学) (読替科目: 演習A - 2 (日本古典文学)) 園田 豊	2学期	3	2	221
		3年			
	演習A - 2 (日本近代文学) (読替科目: 演習A - 2 (日本近代文学)) 赤塚 正幸	2学期	3	2	222
		3年			
演習A - 2 (日本近代文学) (読替科目: 演習A - 2 (日本近代文学)) 馬場 美佳	2学期	3	2	223	
	3年				
演習A - 2 (日本語学) (読替科目: 演習A - 2 (日本語学)) 堀尾 香代子	2学期	3	2	224	
	3年				
演習A - 2 (アメリカ文学) (読替科目: 演習A - 2 (アメリカ文学)) 新村 昭雄	2学期	3	2	225	
	3年				
演習A - 2 (英米文学) (読替科目: 演習A - 2 (英米文学)) 田部井 世志子	2学期	3	2	226	
	3年				
演習A - 2 (アメリカ文学) (読替科目: 演習A - 2 (アメリカ文学)) 前田 譲治	2学期	3	2	227	
	3年				
演習A - 2 (フランス文化) (読替科目: 演習A - 2 (フランス文化)) 水本 弘文	2学期	3	2	228	
	3年				
演習A - 2 (アメリカ文化) (読替科目: 演習A - 2 (アメリカ文化)) 寺田 由美	2学期	3	2	229	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 (スペイン史) (読替科目: 演習 A - 2 (スペイン史)) 岡住 正秀	2学期	3	2	230
		3年			
	演習 A - 2 (ロシア文化) (読替科目: 演習 A - 2 (ロシア文化)) 芳之内 雄二	2学期	3	2	231
		3年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 岩本 真理子	1学期	4	2	232
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 五月女 晴恵	1学期	4	2	233
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 八百 啓介	1学期	4	2	234
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 佐藤 真人	1学期	4	2	235
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 真鍋 昌賢	1学期	4	2	236
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 河北 靖	1学期	4	2	237
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 大場 卓也	1学期	4	2	238
		4年			
	演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 赤塚 正幸	1学期	4	2	239
		4年			
演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 馬場 美佳	1学期	4	2	240	
	4年				
演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 堀尾 香代子	1学期	4	2	241	
	4年				
演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 新村 昭雄	1学期	4	2	242	
	4年				
演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 田部井 世志子	1学期	4	2	243	
	4年				
演習 B - 1 (読替科目: 演習 B - 1) 前田 譲治	1学期	4	2	244	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 1 (読替科目: 演習B - 1) 水本 弘文	1学期	4	2	245
		4年			
	演習B - 1 (読替科目: 演習B - 1) 岡住 正秀	1学期	4	2	246
		4年			
	演習B - 1 (読替科目: 演習B - 1) 芳之内 雄二	1学期	4	2	247
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 岩本 真理子	2学期	4	2	248
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 五月女 晴恵	2学期	4	2	249
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 八百 啓介	2学期	4	2	250
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 佐藤 真人	2学期	4	2	251
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 真鍋 昌賢	2学期	4	2	252
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 河北 靖	2学期	4	2	253
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 園田 豊	2学期	4	2	254
		4年			
演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 赤塚 正幸	2学期	4	2	255	
	4年				
演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 馬場 美佳	2学期	4	2	256	
	4年				
演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 堀尾 香代子	2学期	4	2	257	
	4年				
演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 新村 昭雄	2学期	4	2	258	
	4年				
演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 田部井 世志子	2学期	4	2	259	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 前田 譲治	2学期	4	2	260
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 水本 弘文	2学期	4	2	261
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 岡住 正秀	2学期	4	2	262
		4年			
	演習B - 2 (読替科目: 演習B - 2) 芳之内 雄二	2学期	4	2	263
		4年			
	卒業論文 (読替科目: 卒業論文) 未定		4	2	264
		4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	28
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	29
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	30
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	31
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	32
		2年			
	英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	3	2	33
		3年			
	英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	2	2	34
	2年				
英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	3	2	35	
	3年				
英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	3	2	36	
	3年				
英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	2	2	37	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 B 山崎 和夫	2学期	3	2	38
		3年			
	国語科教育法 A 加藤 宏文	1学期	2	2	39
		2年			
	国語科教育法 B 加藤 宏文	2学期	2	2	40
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	41
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	42
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	43
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	44
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	45
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	46
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	47
		2年			
教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	48	
	2年				
生徒指導論 楠 凡之	2学期	2	2	49	
	2年				
臨床教育学 楠 凡之	1学期	2	2	50	
	2年				
教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	51	
	3年				
教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	52	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 2	1学期	4	2	53
	見玉 弥生 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	54
	見玉 弥生 他	4年			
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	55
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	56
	税田 慶昭	1年			
	教育心理学	2学期	2	2	57
	柴村 馨	2年			
	教育心理学	2学期	1	2	58
	柴村 馨	1年			
	教育法規	2学期	3	2	59
	見玉 弥生	3年			
	教育法規	2学期	2	2	60
	見玉 弥生	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	61
	弓野 勝族	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	62
	弓野 勝族	2年			
■自由科目	書道I (読替科目：書道)	1学期(ペア)	2	2	267
	大森 アユミ	2年			
	日本語教育学I (読替科目：日本語教育学I)	1学期	2	2	268
	小林 浩明	2年			
	日本語教育学II (読替科目：日本語教育学II)	2学期	2	2	269
	小林 浩明	2年			
	日本語教授法I (読替科目：日本語教授法I)	1学期	3	2	274
	清水 順子 他	3年			
	日本語教授法II (読替科目：日本語教授法II)	2学期	3	2	275
	小林 浩明	3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■自由科目	日本語教育学演習I (読替科目:日本語教育学演習I) 横林 宙世	1学期	3	2	276
	3年				
	日本語教育学演習II (読替科目:日本語教育学演習II) 横林 宙世	2学期	3	2	277
	3年				
	日本語教育実習 (読替科目:日本語教育実習) 小林 浩明	1学期	4	1	278
	4年				
	日本語教育実習 (読替科目:日本語教育実習) 小林 浩明	2学期	4	1	279
	4年				
	生涯学習学 (読替科目:生涯学習学) 恒吉 紀寿	1学期	2	2	270
	2年				
	博物館概論 (読替科目:博物館概論) 太田 正道	1学期	2	2	271
	2年				
博物館経営論・博物館情報論 (読替科目:博物館経営論・博物館情報論) 太田 正道	2学期	2	2	272	
2年					
博物館資料論 (読替科目:博物館資料論) 永尾 正剛	1学期	2	2	273	
2年					
博物館実習I (読替科目:博物館実習I) 竹川 大介	2学期(ペア)	3	1	280	
3年					
博物館実習II (読替科目:博物館実習II) 竹川 大介	1学期(ペア)	4	2	281	
4年					

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	西洋文学 杉本 美穂	1学期	1	2	63
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目:西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	462
		1年			
	東洋史 (読替科目:東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	463
		1年			
	日本史 (読替科目:日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	461
		1年			
	哲学入門 (読替科目:倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	465
		1年			
	応用倫理学 (読替科目:現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	456
		1年			
論理学入門 堺 正憲	2学期	1	2	64	
	1年				
論理学の展開 堺 正憲	2学期	1	2	65	
	1年				
文化と社会 (読替科目:人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	450	
	1年				
経済学概論 田村 大樹	2学期	1	2	66	
	1年				
経済と社会 (読替科目:グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	459	
	1年				
社会学の考え方 (読替科目:社会学) 稲月 正	1学期	1	2	464	
	1年				
現代社会の解読 (読替科目:現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	458	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	大衆化と政治 (読替科目: 市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	457
		1年			
	国家と法 植木 淳	1学期	1	2	67
		1年			
	国際社会と法 二宮 正人	2学期	1	2	68
		1年			
	国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	451
		1年			
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	1	2	69
		1年			
	暮らしの中の化学物質 (読替科目: 暮らしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	454
		1年			
	現代人のこころ (読替科目: 現代人のこころ) 税田 慶昭	1学期	1	2	455
		1年			
人間と宇宙観 岡本 良治	2学期	1	2	70	
	1年				
自然と人間のエコロジー 真鍋 徹	2学期	1	2	71	
	1年				
自然と社会の共生論 (読替科目: 自然学のまなざし) 日高 京子	1学期	1	2	453	
	1年				
国際社会と日本 (読替科目: 国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	460	
	1年				
■外国語教育科目	英語I (読替科目: 英語I) 伊藤 晃	1学期	1	1	466
		比人1年			
	英語II (読替科目: 英語II) 杉山 智子	2学期	1	1	467
		比人1年			
英語III (読替科目: 英語III) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	468	
	比人1年				
英語IV (読替科目: 英語IV) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	469	
	比人1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	ドイツ語I (読替科目:ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	482
		比人夜 1年			
	ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	483
		比人夜 1年			
	ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	484
		比人夜 1年			
	ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	485
		比人夜 1年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 山下 高之	1学期	1	1	486
		比人夜 1年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 山下 高之	2学期	1	1	487
		比人夜 1年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 水本 弘文	1学期	1	1	488
		比人夜 1年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 水本 弘文	2学期	1	1	489
		比人夜 1年			
	スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	490
		比人夜 1年			
	スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	491
		比人夜 1年			
スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 岡住 正秀	1学期	1	1	492	
	比人夜 1年				
スペイン語IV (読替科目:スペイン語IV) 岡住 正秀	2学期	1	1	493	
	比人夜 1年				
ロシア語I (読替科目:ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	478	
	比人夜 1年				
ロシア語II (読替科目:ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	479	
	比人夜 1年				
ロシア語III (読替科目:ロシア語III) 芳之内 雄二	1学期	1	1	480	
	比人夜 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	ロシア語Ⅳ (読替科目：ロシア語Ⅳ) 芳之内 雄二	2学期	1	1	481
	比人夜 1年				
	中国語Ⅰ (読替科目：中国語Ⅰ) 有働 彰子	1学期	1	1	470
	比人夜 1年				
	中国語Ⅱ (読替科目：中国語Ⅱ) 有働 彰子	2学期	1	1	471
	比人夜 1年				
	中国語Ⅲ (読替科目：中国語Ⅲ) 王 占華	1学期	1	1	472
	比人夜 1年				
中国語Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) 王 占華	2学期	1	1	473	
比人夜 1年					
■情報処理教育科目	朝鮮語Ⅰ (読替科目：朝鮮語Ⅰ) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	474
	比人夜 1年				
	朝鮮語Ⅱ (読替科目：朝鮮語Ⅱ) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	475
	比人夜 1年				
	朝鮮語Ⅲ (読替科目：朝鮮語Ⅲ) 金 光子	1学期	1	1	476
	比人夜 1年				
	朝鮮語Ⅳ (読替科目：朝鮮語Ⅳ) 金 光子	2学期	1	1	477
	比人夜 1年				
■健康管理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	72
	1年				
■専門基礎教育科目 ■基礎演習科目	生涯スポーツⅡ (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズⅡ (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	452
	1年				
■専門基礎教育科目 ■基礎演習科目	比較文化基礎演習 1 (読替科目：比較文化入門 1 (日本)) 八百 啓介	1学期	2	2	444
	2年				
■専門基礎教育科目 ■基礎演習科目	比較文化基礎演習 2 (読替科目：比較文化入門 2 (欧米)) 岡住 正秀	2学期	2	2	445
	2年				
■概論科目	比較文化概論 (読替科目：欧米文化概論) 新村 昭雄	2学期	1	2	447
	1年				
■概論科目	日本文化 (読替科目：日本文化概論) 佐藤 真人	1学期	1	2	446
	1年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目 ■概論科目	文化交流史 (読替科目：文化交流史) 八百 啓介	2学期	1	2	448
		1年			
	文化人類学 (読替科目：比較民族学) 成末 繁郎	1学期	1	2	415
		1年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化科目	比較宗教・思想 (読替科目：比較宗教・思想) 新村 昭雄	1学期	2	2	412
		2年			
	比較歴史・風土 (読替科目：比較歴史・文化) 寺田 由美	2学期	2	2	413
		2年			
	比較映像 (欧米) (読替科目：比較映像・文化) 前田 譲治	1学期	2	2	417
		2年			
	比較情報表現論 (読替科目：比較表象文化) 真鍋 昌賢	2学期	2	2	416
		2年			
	比較日本文学 (読替科目：比較日本文学) 赤塚 正幸	2学期	2	2	414
		2年			
	比較社会意識 (読替科目：比較社会意識)	2学期	2	2	418
		2年			
比較社会文化 (読替科目：比較社会文化)	1学期	2	2	419	
	2年				
■比較基礎科目	日本の歴史と社会 (読替科目：日本の歴史と社会) 八百 啓介	2学期	2	2	421
		2年			
	日本文学史 (近現代) (読替科目：日本文学史 (近現代)) 赤塚 正幸	2学期	2	2	422
		2年			
	日本中世の演劇・芸能 佐藤 真人	2学期	2	2	73
		2年			
	日本文学概論 (近現代) (読替科目：日本文学概論 (近現代)) 馬場 美佳	2学期	2	2	420
		2年			
漢文学I (読替科目：漢文学) 榎崎 洋一郎	1学期	2	2	423	
	2年				
漢文学II 榎崎 洋一郎	2学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較基礎科目	アメリカ文化論 (読替科目: アメリカ文化論) 江口 雅子	2学期	2	2	425
	2年				
	アメリカの生活 (読替科目: アメリカの生活文化) 田宮 晴彦	1学期	2	2	426
	2年				
	英語学概論 (読替科目: 英語学概論) 北峯 裕士	1学期	2	2	429
	2年				
	英語史 (読替科目: 英語史) 松崎 徹	2学期	2	2	431
	2年				
	英文法(技術) (読替科目: 英文法) 田村 水幸	1学期	2	2	432
	2年				
英語音声学実践 (読替科目: 英語音声学) 山内 ひさ子	1学期	2	2	430	
2年					
イギリス文化論 (読替科目: イギリス文化論) 石井有希子	1学期	2	2	428	
2年					
イギリス文学概論 (読替科目: イギリス文学概論) 田部井 世志子	1学期	2	2	424	
2年					
イギリスの18-19世紀文学 (読替科目: イギリスの18-19世紀文学) 杉本 美穂	2学期	2	2	427	
2年					
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文A - 1 (読替科目: 英会話・英作文1) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	433
	1年				
	英会話・英作文A - 2 (読替科目: 英会話・英作文2) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	1	1	434
	1年				
	英会話・英作文B - 1 (読替科目: 英会話・英作文3) ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	435
	2年				
	英会話・英作文B - 2 (読替科目: 英会話・英作文4) ジョセフ・ディレンシュナイダー	2学期	2	1	436
2年					
英会話・英作文C - 1 (読替科目: 英会話・英作文7) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	1	437	
3年					
英会話・英作文C - 2 (読替科目: 英会話・英作文8) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	1	438	
3年					

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	アメリカ文化講読 1 (読替科目:アメリカ文化講読) 前田 譲治	1学期	1	1	439	
		1年				
	アメリカ文化講読 2 前田 譲治	2学期	1	1	75	
		1年				
■演習・卒論科目	演習 B - 1 (読替科目:演習 B - 1) 馬場 美佳	1学期	4	2	440	
		4年				
	演習 B - 1 (読替科目:演習 B - 1) 田部井 世志子	1学期	4	2	441	
		4年				
	演習 B - 2 (読替科目:演習 B - 2) 馬場 美佳	2学期	4	2	442	
		4年				
	演習 B - 2 (読替科目:演習 B - 2) 田部井 世志子	2学期	4	2	443	
		4年				
	卒業論文 未定		4	2	76	
		4年				
	■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	77
			1年			
教師論 黒田 耕司		1学期	1	2	78	
		1年				
教育原理 見玉 弥生		2学期	1	2	79	
		1年				
教育原理 見玉 弥生		2学期	1	2	80	
		1年				
教育制度 見玉 弥生		1学期	3	2	81	
		3年				
教育制度 見玉 弥生		1学期	2	2	82	
		2年				
道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	83		
	2年					
道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	84		
	2年					

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	85
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	86
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	87
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	88
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	89
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	90
		2年			
	生徒指導論 楠 凡之	2学期	2	2	91
		2年			
	臨床教育学 楠 凡之	1学期	2	2	92
		2年			
	教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	93
		3年			
	教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	94
	3年				
教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	95	
	3年				
教育実習 2 見玉 弥生	1学期	4	2	96	
	4年				
教育実習 2 見玉 弥生	1学期	4	2	97	
	4年				
教育実習 3 見玉 弥生	1学期	4	2	98	
	4年				
教育実習 3 見玉 弥生	1学期	4	2	99	
	4年				

文学部 比較文化学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	100
	税田 慶昭	2年			
	発達心理学	1学期	1	2	101
	税田 慶昭	1年			
■教科または教職に関する科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	102
	税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	103
	税田 慶昭	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	104
	弓野 勝族	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	105
	弓野 勝族	2年			
■自由科目	書道I (読替科目：書道)	1学期 (ベア)	2	2	449
	大森 アユミ	2年			

地中海世界の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 地中海世界の形成と展開をみながら、自然環境と歴史、文明・文化の交流と衝突の諸相を理解し、現代の世界をその基層から問い直すことを目的とします。

教科書 /Textbooks
 適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 はキーワード
 1回～2回 地中海世界の風土【地中海性気候】【都市】
 3回～4回 都市と帝国①：都市国家の形成と展開【エーゲ文明】【ポリス】
 5回 都市と帝国②：ヘレニズムの展開【アレクサンドロス】【ギリシャ語】
 6回～8回 都市と帝国③：ローマ帝国の形成と展開【パックス・ロマーナ】【街道】
 9回 三つの地中海①：一神教と「三つの地中海」【キリスト教】【イスラム教】
 10回～11回 三つの地中海②：ビザンツ帝国【コンスタンティノポリス/イスタンブル】
 12回 三つの地中海③：中世シチリア王国【ノルマン人】
 13回～14回 三つの地中海④：マグリブとアンダルス【コルドバ】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
 (小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

女性史【昼】

担当者名 /Instructor 富安 兆子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本における女性通史を概観、時に諸外国の女性の状況と対比させながら、日本の女性の現況とその問題点をさぐります。このような作業を通して、女性・男性を問わず、地球規模の変化に対応できる生き方を選択し、人類の未来にとっての望ましい社会創造に貢献し得る行動を生み出す指針となれば、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、毎回、レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

L.S.スタヴリアーノス著、猿谷 要訳『新・世界の歴史、環境・男女関係・社会・戦争から見た世界史』桐原書店。F.エンゲルス著、村井ほか訳『家族・私有財産および国家の起源』大月書店。
 高群逸枝著『女性の歴史 上・下』講談社学芸文庫。辻村みよ子・金城清子著『女性の権利の歴史』岩波書店。水田珠枝著『女性解放思想の歩み』岩波新書。V.クライン著、水田珠枝訳『女とは何か・イデオロギーの歴史』新泉社。M.ウルストンクラフト著、白井亮子訳『女性の権利の擁護』未来社。
 シモーヌ・D・ポーヴォワール著、生島 遼訳『第二の性』岩波文庫。古庄ゆき子編『資料・女性史論争』ドメス出版。石月ほか編『女性史を学ぶ人へ』世界思想社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①女性史を学ぶことの意味
- ②原始共同体における女性
- ③「イ工」無き時代の婚姻・出産・育児・母系社会
- ④文明の開幕と私有財産制
- ⑤国家の成立と「女性の世界史的敗北」
- ⑥古代ギリシャの女性とアジア的社会的な女性
- ⑦市民社会の出現-都市の発生と女性の性的商品化
- ⑧封建制と女性の従属
- ⑨近代社会の成立と女性のめざめ
- ⑩女性論の展開と黎明期の女性たち
- ⑪明治政権と女性政策
- ⑫家父長制の再編と明治民法
- ⑬青鞜・新しい女・婦選運動
- ⑭第二次世界大戦前後の女性
- ⑮女性問題の世界的動向

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点(毎回のミニレポートで、内容把握のレベルと出席を確認)、および、レポート(期末提出)による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

哲学の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

西田幾多郎著『哲学概論』を参考にしながら、「愛知」としての哲学が探求する「知」について理解するとともに、「認識論」と「存在論」の諸問題を考える。講義全体のキーワードは、愛知、認識論、存在論である。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じて参考文献を紹介し、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 哲学とは何か【philosophia】【愛知】
 - 2回 西田幾多郎の哲学の定義(1)
 - 3回 西田幾多郎の哲学の定義(2)
 - 4回 認識論の問題【認識論】
 - 5回 真理の概念(1)
 - 6回 真理の概念(2)
 - 7回 真理の概念(3)
 - 8回 認識の起源(1)
 - 9回 認識の起源(2)
 - 10回 認識の妥当(1)
 - 11回 認識の妥当(2)
 - 12回 存在論【存在論】【形而上学】
 - 13回 存在の量
 - 14回 存在の質
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業で出てきた用語や事柄で理解できない点があれば、質問をしたり、自分で調べたりしてその都度問題を解決しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会生活と法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とするとともに、それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライバティゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本の政治【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
 その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①: 政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②: 政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 7回 政策決定過程-応用①: 税制の政治(理論)
- 8回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 9回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 10回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 11回 政策決定過程-応用②: 税制の政治(事例)
- 12回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①: 今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②: 首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
 日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策の構想【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのために、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5回-6回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7回-8回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9回-10回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11回-13回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 期末試験：有。評価は総合して行う。
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域開発【昼】

基礎教育科目
 共通基礎教育科目
 教養教育科目
 社会科目

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるの？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。環境教育アクティビティを多用します。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成19年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明：：簡単な環境意識度チェック 【環境意識】
- 第2回 環境教育とESD 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 - 7回 環境政策（北九州市を含む）と廃棄物管理 【北九州市】【廃棄物管理】
- 第8回 - 10回 下水処理・上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） 【水質汚濁】
- 第11回 - 12回 大気汚染：： 樹木の蒸散と二酸化炭素吸収度の算定 【大気汚染】
- 第13回 - 14回 環境保全・環境教育に取り組む人々 = エコツーリズムに関わろう！
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

遺伝と生命【昼】

担当者名 /Instructor 山根 明弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「遺伝子」と「生命」のかかわりについて、基礎的なものから最先端の話題まで、わかりやすく解説します。生命科学の技術が飛躍的に進み、遺伝子に関する話題や情報がメディア等に氾濫するなか、遺伝子DNAとはなにか？生命とは？倫理的問題点も含めて理解してもらうことを目的としています。文系の受講者を対象としていますので、専門的な知識をより深くというよりも、人間社会との関わりになるべく重点を置いて進めてゆくつもりです。また「自然史」に関する話題も毎回講義に組入れて、身の回りの生き物の世界とDNAとの深いつながりを意識してもらうつもりです。

教科書 /Textbooks

増補新訂版「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版株式会社（このテキストは、絶対に必要というわけではありませんが、持っているが大変便利です。値段も安く、たくさんの写真や資料が載っています。生物学に興味がある方には特におすすめです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最近のTVニュースや新聞を見ていると「遺伝子」や「DNA」に関する話題が頻繁に取り上げられるようになってきています。この科目の前半では、「遺伝子DNA」「遺伝のメカニズム」「生命の進化」の基礎的な知識やメカニズムをわかりやすく解説し、後半では遺伝子技術と人間社会との接点やその成果について、同時に生じる社会的・倫理的問題点をも含めて紹介していきたいと思います。

(【 】内はキーワード)

第1回～第8回：遺伝子DNA、遺伝の法則、生命についての基礎知識

【DNAって何?】【DNA情報からタンパク質の合成】【生物学のセントラルドグマ】【早すぎた発見、メンデルの遺伝の法則】【遺伝子突然変異】【遺伝病】【三毛猫はメス】【BSE問題】

第9回～第15回：遺伝子技術とわたしたち

【バイオテクノロジー】【遺伝子組み換え作物】【食の安全】【DNA鑑定法】【遺伝子診断】【遺伝子治療】【オーダーメイド医療】【クローン技術と倫理】【個人の遺伝子情報の保護】【iPS細胞】【再生医療】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の修学態度(出席を含む) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学期末試験(論述方式)の結果で成績評価を行います。どれだけ全体像が理解できているかが評価のポイントです。出題内容の一部は、講義の早い段階から教えますので、各自アンテナをたてて情報を収集してください。また、受講者の努力量をより公平に評価するために、出席も重視したいと思っています。従って、毎回出席をとるようにしています。遅刻してきた人は講義を受けることができない場合もあります。総合評価は、出席点40点、筆記試験点60点の100点満点で行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

薬と暮らし【昼】

担当者名 /Instructor 森 正明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①医薬品と生命体との関わりが理解できるように平易に説明する。
- ②遺伝子検査に基づくオーダーメイドの薬物療法の現状について概説する。
- ③医薬品の虚偽・誇大な情報の流布；サプリメントの氾濫；薬害多発の背景と課題についても考察する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。配布レジュメに基づいて授業する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①知っておきたいくすりのQ&A (全日本民医連・編：新日本出版社：2005年)
- ②くすりの効き方は人によって違うの？ (鎌滝 哲也・監：丸善：平成15年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 薬の歴史
- 3回 薬はどのようにして創られるのか
- 4回 薬害と副作用の違い
- 5回 遺伝子とは何か
- 6回 医薬品の創製におけるDNA技術の応用
- 7回 薬の吸収・代謝・分布・排泄について
- 8回 薬物代謝酵素とその遺伝子について
- 9回 薬の効き方の個人差と遺伝子検査
- 10回 生体の恒常性と疾病について；免疫とは何か
- 11回 薬はどのようにして効果を発揮するのか
- 12回 健康食品・サプリメントの功罪
- 13回 麻薬・覚せい剤・大麻等の危険性について
- 14回 オーダーメイドの薬物療法とは
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む)・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメをよく読んでおくこと。また、授業中に指示したことを自己学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ネットワーク通信【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、特別なソフトウェアを用いずに、HTMLによるWebサイト作成演習を行います。また、WWWを利用して、情報検索演習も行います。Webページ作成未経験者や情報検索初心者を対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、ネットワーク通信技術とネットワーク社会の現状を理解し、国際社会・情報社会に適応した、インターネットによる情報収集能力、情報発信能力を習得することです。講義全体のキーワードは、WWW、URL、HTML、情報検索、情報探索、情報発信です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ネットワーク【インターネット】、【電子メール】、【WWW】
- 2回 ネットワーク【ドメイン名】、【IPアドレス】、【DNS】
- 3回 情報検索【ブラウザ】、【URL】、【キーワード検索】
- 4回 情報検索実習 1
- 5回 情報検索実習 2
- 6回 情報検索実習 3
- 7回 HTMLによるWebページ作成方法 1【HTML】、【タグ】
- 8回 HTMLによるWebページ作成方法 2【ハイパーリンク】
- 9回 HTMLによるWebページ作成方法 3【企画書】、【著作権】
- 10回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 11回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 12回 HTMLによるWebページ作成実習 3
- 13回 情報発信【著作権】、【ネチケット】
- 14回 WWWを利用した情報探索【テーマ調査】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

情報検索実習 ... 25%、Webページ作成実習 ... 25%、その他の課題 ... 25%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に学内グループウェアを利用して情報交換を行い、電子メールの利用マナーやネチケットに対する実践的な学習を行います。「情報処理基礎」の内容を把握しておくこと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。

種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加え、興味・関心のある種目を毎時間各自が選択して行う。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ニュースポーツ(1)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 3回 ニュースポーツ(2)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 4回 ニュースポーツ(3)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 5回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 6回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 7回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 8回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 9回 ニュースポーツ(4)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 10回 ニュースポーツ(5)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 11回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 12回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 13回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 14回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル確認テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の体力や体調などを考え、種目を決めて実施する。運動のできる服装と体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅣ【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡ-IIをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。

種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加えて行う中で、興味・関心のある種目を見つけ、今後の生涯スポーツとしての体力・技術の維持向上を図る。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)①
- 3回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)②
- 4回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)①
- 5回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)②
- 6回 バドミントン①
- 7回 バドミントン②
- 8回 バスケットボールと卓球(選択)①
- 9回 バスケットボールと卓球(選択)②
- 10回 ショートテニス①
- 11回 ショートテニス②
- 12回 選択種目①
- 13回 選択種目②
- 14回 選択種目③
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み … 70% スキル獲得テスト … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

設定された種目のどちらかを選択して行う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化基礎演習 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化基礎演習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で参考文献について触れます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化基礎演習 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化基礎演習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で参考文献について触れます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

欧米文化基礎演習 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

欧米文化基礎演習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で参考文献について触れます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化科目

担当者名 /Instructor 山路 奈保子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

言語学の基本的な概念や考え方を学ぶことを通じて、日本語を「世界に数多くある言語のひとつ」として相対化して観察する視点を身につける。

教科書 /Textbooks

使用しない (プリント配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 言語学の対象
- 2回 言語の種類
- 3回 言語学の諸分野
- 4回 音声学・音韻論(1)
- 5回 音声学・音韻論(2)
- 6回 形態論(1)
- 7回 形態論(2)
- 8回 統語論(1)
- 9回 統語論(2)
- 10回 意味論(1)
- 11回 意味論(2)
- 12回 語用論
- 13回 言語と社会
- 14回 言語の変化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 課題... 20% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の美術（彫刻）【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

欽明七年（538）の仏教公伝以来、日本では、金銅像・木彫像・塑像・乾漆像など、さまざまな素材・技法によって仏像が作られてきた。本講義では、飛鳥時代から鎌倉時代までの代表的な仏像を取り上げながら、日本の古代から中世までの仏教彫刻史の流れを概観したいと思う。今年度は、飛鳥時代から天平時代までを考察する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 仏像入門（如来？菩薩？明王？天部？）
- 2回 法隆寺金堂釈迦三尊像をめぐって①
- 3回 法隆寺金堂釈迦三尊像をめぐって②
- 4回 法隆寺救世観音と百済観音をめぐって①
- 5回 法隆寺救世観音と百済観音をめぐって②
- 6回 中宮寺菩薩半跏像と広隆寺菩薩半跏像をめぐって①
- 7回 中宮寺菩薩半跏像と広隆寺菩薩半跏像をめぐって②
- 8回 薬師寺金堂薬師三尊像をめぐって①
- 9回 薬師寺金堂薬師三尊像をめぐって②
- 10回 法隆寺五重塔初層塑像群をめぐって①
- 11回 法隆寺五重塔初層塑像群をめぐって②
- 12回 興福寺十大弟子・八部衆像をめぐって①
- 13回 興福寺十大弟子・八部衆像をめぐって②
- 14回 東大寺の法華堂と戒壇院の諸像をめぐって①
- 15回 東大寺の法華堂と戒壇院の諸像をめぐって②

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（場合によっては期末試験）... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語史（古代語）【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本語の歴史の変遷の様相について学ぶ。なかでも、音韻と文字の歴史を中心としつつ、語彙・仮名遣いについても適宜扱っていく。日本語の音韻・文字の歴史の変遷について、古代から近代に至るまでの変化の過程を正確に跡付けた上で、近代以降の歴史の変遷についても学ぶ。とくに、様々な歴史的变化の「事実」の把握にのみとどまるのではなく、それを促した「原理」にも目を向けてゆくことが大切となる。個々の変化の生じた事情や要因について自ら考える力、個々の変化に対して意味付けを与えてゆく力を養っていくよう努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松村明著『国語史概説』秀英出版
金田弘・宮腰賢『国語史要説』大日本図書
国語学会編『国語史資料集-図録と解説-』武蔵野書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を中心に講義を行なう。
第1回 日本語史研究とは 日本語史と文献資料
第2回 音韻変化と仮名遣いの関係
第3回 中国における漢字と日本における漢字の享受
第4回 万葉仮名の発生と発展 万葉集の資料的価値
第5回 上代特殊仮名遣い 上代の母音と子音
第6回 異体仮名 平仮名と片仮名の発生
第7回 悉曇資料とキリシタン資料 四つ仮名の混同
第8回 八行子音の変遷と八行転呼音
第9回 『伊呂波字類抄』と『節用集』と『下学集』について
第10回 語音配列則の変化 訓点資料
第11回 音便の発生 長音の発生と開音・合音
第12回 拗音の発生と開拗音・直音・合拗音
第13回 ローマ字 国語国字問題
第14回 漢字廃止論と漢字不可廃論・漢字利導説
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの宗教と思想【昼】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

米国同時多発テロにおいて、サムエル・ハンチントンの『文明の衝突』が現実になったと評判になった。現在の世界のイデオロギーは大別して、西欧とアメリカの「西洋文明」、東欧と南欧の「東方正教会文明」、中東と南アジアの「イスラム文明」、東アジアの「中華文明」に分かれている。特に東アジアは、中華文明(中国)・東方正教会文明(フィリピン)・西洋文明(日本など)・イスラム(インドネシア・マレーシア)・仏教文明(タイ・ビルマ・カンボジア)が混在し争っている。超大国アメリカ文明(民主主義・人権・キリスト教)がどのようにイスラム文明と衝突したのか。

教科書 /Textbooks

サムエル・ハンチントン：『文明の衝突と21世紀の日本』（集英社新書）
長谷川三千子：『民主主義とは何なのか』（文春新書）
浅井信雄：『アメリカ50州を読む地図』（新潮文庫）
21世紀研究会編：『常識の世界地図』（文春新書）
岡田光世：『アメリカの家族』（岩波新書）その他、『資料』を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回「アメリカ独立宣言書とアメリカ民主主義」【独立宣言書】【民主主義思想】
- 2回「文明の衝突」(1)【ギリシャ文明】【中華文明】
- 3回「文明の衝突」(2)【西洋文明】【イスラム文明】【日本文明とは】
- 4回「古典民主主義とは何か」【アテネの民主主義】【遊牧民の民主主義】
- 5回「近代民主主義とは何か」【フランス革命】【アメリカ革命】【ロシア革命】
- 6回「アメリカ50州を読む」(1)【東部】
- 7回「アメリカ50州を読む」(2)【中西部】【南部】
- 8回「アメリカ50州を読む」(3)【西部】
- 9回「常識の世界地図」(1)【作法】【マナー】
- 10回「常識の世界地図」(2)【タブー】【誤解】【常識】
- 11回「アメリカ大統領物語」(1)【アメリカ独立戦争】【民主主義思想】
- 12回「アメリカ大統領物語」(2)【南北戦争】【共和党】【リンカーン】
- 13回「アメリカ大統領物語」(3)【世界大戦】【民主党】【二大政党制】
- 14回「アメリカの家族」(1)【アメリカの家族とは】【古典的家族観】
- 15回「アメリカの家族」(2)【新しい家族観】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(30%)とレポート(70%)によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文化講読 2 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

フランスに関する幅広い情報をフランス語で学びます。フランス語レベルは仏検3～2級程度。現在のフランスの姿を知ることができます。キーワード・・・フランスをフランス語で学ぶ。

教科書 /Textbooks

『時事フランス語2010年度版』（ミシェル・サガズ著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の「フランス文化講読1」の続きを読みます。進み方は原則1回1課。毎回復習の小テストを実施。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 14課：石の値段
- 2回 15課：フランス名物ストライキ？
- 3回 16課：是か非か 国外退去
- 4回 17課：国歌侮辱罪？
- 5回 18課：原発大国フランス
- 6回 19課：デルデデル
- 7回 20課：EUの牽引車ふらんす？
- 8回 プリント使用1
- 9回 プリント使用2
- 10回 プリント使用3
- 11回 プリント使用4
- 12回 プリント使用5
- 13回 プリント使用6
- 14回 プリント使用7
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※履修中に仏検3級合格者には最低Cを、準2級合格者にはBを、2級合格者にはAを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化講読 1 【昼】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本とドイツの文化の違いをテーマとしたドイツ語テキストを読むことによって、比較文化の手法を学びながら、ドイツ語能力をアップさせる。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ人と音
- 2回 「すする音」は嫌がられる
- 3回 ドイツ人はケチ?
- 4回 身振りの違い
- 5回 日本人の支払い方
- 6回 ドイツ人の支払い方
- 7回 ドイツ人とサンドイッチ
- 8回 日本のパンはまずい?
- 9回 日本人の時間表現
- 10回 ドイツ人の時間感覚
- 11回 ドイツ人は保守的か?
- 12回 ドイツ人の革新性
- 13回 どこが上座か?
- 14回 ドイツ人の座席の選び方
- 15回 ドイツと日本・習慣の違いのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での参加度... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語読解能力があることが前提。必ず独和辞典を携帯すること。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化英文講読 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
高橋正夫『英語教育学概論』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論 ①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論 ②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論 ③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を
①Notional/Functional Syllabusから概括
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理から概括
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷の観点から概括
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくこと。
授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心にして、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心にして、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 30%、 課題... 20%、 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする

教科書 /Textbooks

高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』金星堂。プリント教材

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫『英語教育学概論』金星堂
望月・山田 編著 『私の英語授業』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice 【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task 【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業(中学校)
 - 14回 模擬授業(高校)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動...30%、課題...20%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求される。教壇に立つ立場を踏まえて授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」にとって、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Aでは、自己に「きゝ」、他者に「きゝ」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。Bでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに中学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 なぜ【「きく」】なのか。
- 第2回 「きく」は、何を創造するのか。
- 第3回 ことばにとり、「沈黙」とは何か。
- 第4回 「表現」と「理解」は、通底する。
- 第5回 一語の価値を「きゝ」分ける。
- 第6回 「きい」たものを、つなぐ。
- 第7回 「国語」にとり「学力」とは何か。
- 第8回 【「主題意識」】を確認し合う。
- 第9回 「教材」を、透視し開発する。
- 第10回 分からないからこそ、「問う」。
- 第11回 「問い」に体系をつける。
- 第12回 【「評価」】は、「評定」とは違う。
- 第13回 学習者に「きく」。
- 第14回 「生活語」の沃野に「きゝひたる」
- 第15回 まとめ こんな指導者になりたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本年度は、中学校国語科教員をめざす者を対象とする。履修後は「国語科教育法B」を受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「国語」にとって、「学力」とは、「ことばを通して生きぬく力」である。Aでは、自己に「きゝ」、他者に「きゝ」、児童・生徒に「問う」ことを通し、自己変革を保障する教育力を、獲得する。Bでは、「教材」を自在に開発し、学習指導目標を明確にした上、授業構想を確立する力を、模擬授業により錬磨する。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

■おもに中学校国語科教員をめざすために■

- 第1回 【「学習指導要領」】とは、何か。
- 第2回 「教科書」「で」指導する。
- 第3回 教材透視・教材開発・授業構想。
- 第4回 模擬授業(1) 【学習指導目標】
- 第5回 模擬授業(2) 焦点化
- 第6回 模擬授業(3) 独自の価値
- 第7回 模擬授業(4) 「問う」
- 第8回 模擬授業(5) 一歩先へ
- 第9回 模擬授業(6) 【集団思考】
- 第10回 模擬授業(7) 評言
- 第11回 模擬授業(8) 【単元学習】
- 第12回 模擬授業(9) 評価のことば
- 第13回 模擬授業(10) 学習指導目標改革
- 第14回 【授業計画】の再構築
- 第15回 まとめ 指導者への決意

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国語科教育法A」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】		
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】		
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】		
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】		
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】		
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】		
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】		
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】		
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】	10回 教材研究と授業構想	【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】		
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】		
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】		
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】		
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】		

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋文学【夜】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、シェイクスピアの劇作品を紹介する。シェイクスピアは語りつくされた、と思う人は、シェイクスピアを知らない人である。現在もなお、新説が次々に提唱され、シェイクスピア観は常に新しく変貌し続けている。
 近年はまた、新しい解釈にもとづく映画化がつつぎ、日本の若者世代にも広く認知されている。講義では、テキストと映像を通して作品に触れ、英国の文化、社会、宗教、制度、加えて、大陸文化との交流に関する認識を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

河合 祥一郎 編著『シェイクスピアは誘う』 小学館
 * 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講することを義務とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序
- 第2回 初期歴史劇 『リチャード三世』
- 第3回 初期喜劇 『じゃじゃ馬馴らし』
- 第4回 宮内大臣一座創立期 『ロミオとジュリエット』
- 第5回 宮内大臣一座創立期 『夏の夜の夢』
- 第6回 宮内大臣一座創立期 『ヴェニスの商人』
- 第7回 円熟喜劇 『十二夜』
- 第8回 四大悲劇 『ハムレット』
- 第9回 『ハムレット』
- 第10回 四大悲劇 『オセロオー』
- 第11回 四大悲劇 『リア王』
- 第12回 『リア王』
- 第13回 四大悲劇 『マクベス』
- 第14回 口マンズ劇 『テンベスト』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の出席状況、小テストと提出物、定期試験の成績で総合的に評価する。
 20 % 20 % 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* テキストの指定された箇所を毎回熟読してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学入門【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
人文科目

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では演繹的論証について考察しますが、先ず、命題論理学の基本的な事柄を学び、その後、述語論理学に話を広げます。講義全体のキーワードは、演繹的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

クワイン『論理学の方法』、ヒルベルト/アッケルマン『記号論理学の基礎』などの定評ある論理学教科書が図書館にそれぞれ数部ずつ用意してあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名辞
- 2回 命題
- 3回 論証
- 4回 演繹的論証の妥当性(1)
- 5回 演繹的論証の妥当性(2)
- 6回 真理値表(1)
- 7回 真理値表(2)
- 8回 論理式
- 9回 恒真式(トートロジー)
- 10回 真理分析と推論(1)
- 11回 真理分析と推論(2)
- 12回 論理回路
- 13回 命題関数
- 14回 量化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学の展開 【夜】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では帰納的論証について考察しますが、先ず、演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴の違いを理解して、その後、帰納的一般化の最も単純な種類、類推、因果関係に基づく推論、仮説、などについて考察します。講義全体のキーワードは、帰納的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

W.C.サモン著/山下正男訳『論理学 三訂版』(培風館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論証
- 2回 演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴
- 3回 帰納における正しさ
- 4回 枚挙による帰納
- 5回 不十分な統計
- 6回 かたよった統計
- 7回 統計的三段論法
- 8回 権威に基づく論証
- 9回 類推
- 10回 因果関係に基づく論証
- 11回 ミルの方法(1)
- 12回 ミルの方法(2)
- 13回 因果関係に関する虚偽と対照実験
- 14回 仮説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学概論【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
社会科目

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

もともと、経済を形成しているのは普通の人々の日常生活である。しかし今日、我々が経済について耳にする情報は、日々の生活感覚からは程遠いものとして聞こえてくる。そこで、両者を結び付ける役割を期待されているのが経済学の体系のはずなのであるが、実際にはかえって一般の人々の理解を遠ざけているというのが実状であろう。

本講義は、経済学専攻以外の学生を対象としたものであり、「経済学入門」ではない。理論体系の解説ではなく、社会における経済的領域と非経済的領域の境界線を散見することによって、日常感覚と経済現象との間のある種の断絶を埋める試みである。「市場社会」という用語をキーワードに、経済学的な社会観のようなものを示し、最終的には今日喧しい「マーケット」の問題について言及することになる。身近で当たり前と思われるような経済現象の中に、時々刻々と変動している国際経済の広がりを見出すことが目標である。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 経済学概論概説 (講義の概要)
- 2回～3回 市場社会とは【経済】【政治】【文化】
- 4回～6回 市場社会の基礎理論【分業】【富】【知識】
- 7回～8回 市場社会の形成【産業革命】【交換】
- 9回～10回 市場社会の転換【大恐慌】【フォーディズム】
- 11回～13回 市場社会の現在【IT革命】
- 14回 21世紀の市場社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業が始まるまでに、「経済」についての関心を育てておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家と法【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」を中心として判例を研究する。受講者が少人数になることが予想されるため、受講者の興味・関心を斟酌して、素材を決定する。受講者の人数によっては、受講者自身が判例報告をする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス - 公法判例の読み方
- 第2回 判例①
- 第3回 判例②
- 第4回 判例③
- 第5回 判例④
- 第6回 判例⑤
- 第7回 判例⑥
- 第8回 判例⑦
- 第9回 判例⑧
- 第10回 判例⑨
- 第11回 判例⑩
- 第12回 判例⑪
- 第13回 判例⑫
- 第14回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況に関して概説する
- 第15回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況について概説する

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(あるいはレポート) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と法 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義は、国家、国際機構や個人によって織りなされる国際関係が、どのような法によって規律されているのかを体系的に理解してもらうことを目的とします。国際関係を規律する主要な法体系としての国際法に加え、個別事例や特定テーマをもとに、当該事案の一般的な理解のために必要とされる、国際機構法、関連国内法令にも言及し、学生に包括的な取り組みの重要性を訴えます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際法入門』（有斐閣・2004）
 ○国連憲章（以下のサイト<http://www.unic.or.jp/know/kensyo.htm>にあります。各自、それを印刷し、毎回、授業のときに持って来てください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の理解に必要な参考資料は、適宜、配布します。参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
 第I部「安全保障」
 第2回 国連 激動の60年 第3回 新たなる脅威と安全保障
 第4回 国連安全保障理事会の改革 第5回 中間試験①
 第6回 解説と講評&個別指導
 第II部「人権・人道 難民」
 第7回 世界の難民問題の現状 第8回 難民の定義と難民問題の恒久的解決
 第9回 難民問題についての日本の対応 第10回 中間試験②
 第11回 解説と講評&個別指導
 第III部「二極化された世界 環境・貿易・開発」
 第12回 グローバリゼーションの光と影 第13回 地球温暖化 ポスト京都へ向けた動き
 第14回 政府開発援助(O DA)のあり方 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
 中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
 なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回~4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回~8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回~11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回~13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と宇宙観【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 良治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「星」、「宇宙」など、慣れた言葉への思い込みや誤解を解きほぐし、ものごとを考える判断基準系の批判的検証を通じて、自己と外界の相互関係について複眼的思考力の養成に資する一助とすること。(前半)宇宙観がどのように誕生、変化してきたか、また宇宙における人類の位置付けがどのように変化してきたかを概観する。(後半)日本や東アジアの宇宙観、宗教における宇宙観、言語・文学と宇宙観、音楽と宇宙観など宇宙と人間との多面的な関わり合いを考察する。

教科書 /Textbooks

講義プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上陽一郎「宇宙像の変遷」(講談社, 学術文庫, 1996年)
 C.セーガン「コスモス(上, 下)」(朝日新聞社, 朝日文庫, 1984年)
 佐藤文隆「宇宙論への招待」(岩波新書, 1988年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(上)東洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(下)西洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回宇宙観の進化【宇と宙、コスモス、ユニバース、進化する宇宙】
- 第2回古代の宇宙観【神話的、哲学的宇宙観】
- 第3回地球中心モデル【プトレマイオス、円軌道、等速運動】
- 第4回中世の宇宙観【地球中心、有限、不変、存在の連鎖】
- 第5回近代の宇宙観1【太陽中心宇宙、楕円軌道】
- 第6回近代の宇宙観2【無限宇宙、万有引力、地上と天界の統一】
- 第7回現代の宇宙観1【天国と地獄としての太陽系、星の誕生と進化】
- 第8回現代の宇宙観2【ハッブルの法則、ビッグバン宇宙】
- 第9回現代の宇宙観3【インフレーション宇宙、宇宙の進化】
- 第10回日本の伝統的宇宙観【恐れと恵みの自然、花鳥風月、安藤昌益、三浦梅園、合理性】
- 第11回宗教的宇宙観【キリスト教、ヒンドウ教、仏教、儒教】
- 第12回言語・文学と宇宙観【宇と宙、世界】
- 第13回音楽と宇宙観【ピタゴラスと和音、自由七科、ケプラー、バッハ、ベートベン】
- 第14回時間と空間【時間意識の4つの形態、状態変化と時間、運動と空間】
- 第15回宇宙と人間【宇宙における生命、自然の階層構造、宇宙原理と人間原理】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義の要約または感想(20%)
 出席回数は3分の2以上を原則とする。
 前半レポート(40%)、後半レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然と人間のエコロジー【夜】

担当者名 真鍋 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

自然の仕組みを理解するための道具としての『生態学』の基礎知識を解説する。これを踏まえ、現在の主要な環境問題である「生物多様性」をめぐる諸問題や、ヒトとの関わり合いを通じて形成・維持されてきた「二次的自然」の意義等を紹介する。これらの講義をとおして、自然の特質や自然とヒトとの関係を自ら分析し判断できる素地を形成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本生態学会(編)「生態学入門」東京化学同人、を推薦する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 自然界の捉え方 【分類学】【生態学】【5界説】【環境】【適応】
 - 第3～6回 生態学の基礎1 【生活史】【個体群】【群集】【生態遷移】【生物間相互作用】【環境形成作用】【ニッチ】【攪乱】
 - 第7～10回 生態学の基礎2 【生態系】【生態ピラミッド】【物質循環】【食物網】【景観構成要素】【生態系機能】【生態系サービス】
 - 第11～13回 生物多様性を考える
【二次的自然】【外来種】【里地里山】【絶滅危惧種】【自然再生】
 - 第14回 生態学的にみた北九州の自然
【大陸系生物】【二次林】【二次草原】【溜池】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
 (ノート・参考書持参可の試験を実施する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本中世の演劇・芸能【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

九州地域においては神楽が盛んに演じられており、数ある伝統芸能の中でもなじみ深い芸能である。神楽は古代から今日に至るまで多様な展開を示し、渡来芸能や中世・近世の諸芸能の影響を受けて大きな変容を遂げるに至った芸能でもある。古代において神楽は神祭りそのものであり、靈魂の再生のための宗教的芸能であった。今日九州各地に伝承される神楽も中世末から近世初頭にかけて形成されたものと思われるが、古代の神楽の本質を受け継いでいる。日本の代表的な芸能である神楽を古代・中世に遡ってその展開を追ってみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藝能史研究会編『日本芸能史 1』(法政大学出版)
- 『日本の古典芸能 1 神楽』(平凡社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要・レポートについて
- 2回 神楽とは何か 【神楽】
- 3回 九州の神楽(1) 椎葉神楽を中心に
- 4回 九州の神楽(2)
- 5回 民間の神楽 出雲流神楽(1)
- 6回 民間の神楽 出雲流神楽(2) 大元神楽
- 7回 民間の神楽 湯立神楽(1) 奥三河の花祭り
- 8回 民間の神楽 湯立神楽(2) 遠山の霜月祭り
- 9回 民間の神楽 山伏神楽と太神楽
- 10回 宮廷の神楽
- 11回 石清水八幡宮の神楽について
- 12回 天岩戸神話について 【神話】
- 13回 鎮魂祭と神話 【鎮魂祭】
- 14回 鎮魂祭の意義
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む) ... 60% レポート ... 40%
(ただしレポートを提出しなかった受講者には単位を認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートでは神楽の実地見学を課する。授業内容と密接に関連するので、しっかり見学・調査してきてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文学II 【夜】

担当者名 /Instructor 植崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

古代中国（春秋戦国時代）の乱世に、多種多様に展開した「諸子百家」の思想は、その後の中国には見られなかった自由な思想の饗宴の様相を呈するものであるが、その余風は中国のみにとどまるものではなく、日本の文化にも広く深い影響を与えている。この授業では、諸子百家や、その文化的母体である「経書」などの読解を通して、東洋文化の根幹に対する理解を養うこと目標とする。

教科書 /Textbooks

野村茂夫・宇佐美一博共編『中国思想文選』（学術図書出版、1987年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 五経の世界【四書五経】【六芸】
- 3回 五経の世界②【四書五経】【六芸】
- 4回 孔子①【論語】【仁】
- 5回 孔子②【論語】【礼】
- 6回 老子①【道】【柔弱謙下】
- 7回 老子②【徳】【無為自然】
- 8回 墨子【兼愛】【非攻】
- 9回 孟子【四端】【性善説】【王道】
- 10回 荀子【性悪説】
- 11回 荘子【無用】【万物斉同】
- 12回 名家【白馬非馬】
- 13回 韓非子【信賞必罰】【形名参同】
- 14回 その他の諸子百家【農家】【小説家】【陰陽家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（授業中のレポートなど） ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストに付せられた解説や、授業中に配布するレジユメに、よく目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読2 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 4年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 授業形態 /Class Format クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。

②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。

③子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か 【教育実習】 【実習校】
- 2回 教育実習の1日 【教育実習の実態】
- 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) 【教科指導】 【学級経営】
- 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) 【教科指導】 【学級経営】
- 5回 子どもの問題状況と生徒指導 【生徒指導】 【子どもの理解】
- 6回 授業観察の方法 【観察記録】 【観察方法】
- 7回 学級経営について 【学習指導要領】 【チームサポート】
- 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ 【体験学習】 【働きかけ】
- 9回 子どもの人権と教育 【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- 11回 模擬授業①(中学・高校別) 【授業構成】 【導入】
- 12回 模擬授業②(中学・高校別) 【指導技術】 【発問】
- 13回 模擬授業③(中学・高校別) 【指導技術】 【説明】
- 14回 模擬授業④(中学・高校別) 【指導技術】 【指示・助言】
- 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本古典文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本古典文学は中国文学の影響を多く受けていますが、両者の作品を鑑賞しながら、その影響関係を見ていきます。さらに、その両者の作品から影響を受けた作品を鑑賞し、それらがどのように日本化されているかを考えます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『剪燈新話』(瞿佑作、平凡社)
- 『江戸怪談集 中』(高田衛編・校注、岩波書店)
- 『新註 雨月物語』(高田衛・稲田篤信編著、勉誠社)
- 『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(中村幸彦他編著、日本古典文学全集、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「愛卿伝」(1) 【作品背景】
- 3回 「愛卿伝」(2) 【講読】
- 4回 「愛卿伝」(3) 【まとめ】
- 5回 「遊女宮城野」(1) 【作品背景】
- 6回 「遊女宮城野」(2) 【講読】
- 7回 「遊女宮城野」(3) 【「愛卿伝」との比較】
- 8回 「遊女宮城野」(4) 【まとめ】
- 9回 「浅茅か宿」(1) 【作品背景】
- 10回 「浅茅か宿」(2) 【講読】
- 11回 「浅茅か宿」(1) 【導入】
- 12回 「浅茅か宿」(2) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 13回 「浅茅か宿」(3) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 14回 「浅茅か宿」(4) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】
- 15回 「浅茅か宿」(5) 【講読と「愛卿伝」「遊女宮城野」との比較】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、授業に臨む態度...20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布プリントをあらかじめ読んで、講義に臨むと良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較ドイツ文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学のみならず、ドイツの芸術各分野で重要な役割を果たしている「ファウスト」について、他国の作品も参考にしながら多角的に考察する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ファウストとは何者か
- 2回 実在のファウストと時代背景
- 3回 民衆本『ファウスト』
- 4回 民間伝承のファウスト
- 5回 イギリスに渡ったファウスト伝説
- 6回 クリストファー・マーロウ『フォースタス博士の悲劇』
- 7回 ファウストとメフィストの変化
- 8回 ゲーテ『ファウスト』
- 9回 『ファウスト第一部』のグレートヒエン悲劇とメフィストの役割
- 10回 『ファウスト第二部』の複雑さ
- 11回 『ファウスト第二部』における救済
- 12回 ハイネのパレエ劇『ファウスト』
- 13回 映画『ファウスト』
- 14回 その他のファウスト作品群
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名
/Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本絵画史においては、古くから「やまと絵」と「唐絵」という対概念が存在したが、これらの概念の意味するところは時代によって異なる。本講義では、各時代において、「やまと絵」・「唐絵(漢画)」という言葉が、どのような絵画を指し示していたかを、具体的な作品を提示しながら確認して行く。また、それによって、日本絵画は中国絵画から、どのような影響を受け、どのように自家薬籠中のものとしていったかを概観する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「やまと絵」の誕生
- 2回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と神護寺所蔵「山水屏風」をめぐって①
- 3回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と神護寺所蔵「山水屏風」をめぐって②
- 4回 平等院鳳凰堂扉絵をめぐって①
- 5回 平等院鳳凰堂扉絵をめぐって②
- 6回 「一遍聖絵」をめぐって①
- 7回 「一遍聖絵」をめぐって②
- 8回 「一遍聖絵」をめぐって③
- 9回 「春日権現験記絵巻」をめぐって①
- 10回 「春日権現験記絵巻」をめぐって②
- 11回 「春日権現験記絵巻」をめぐって③
- 12回 漢画とやまと絵①
- 13回 漢画とやまと絵②
- 14回 漢画とやまと絵③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(場合によっては期末試験) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらうことで学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは世界各地の音楽PVである。これらのPVを「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」・「Rockの浸透力」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回はジェンダーに関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュディス・バトラー 1999年 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社。
Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
Marilyn Strathern 1988 The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回～3回 象徴論からみた文化の概念の解説とジェンダーの概念の解説【シンボル】【ジェンダー】
 - 4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ・DVD【女子割礼】【伝統】
 - 5回～7回 ジェンダー パート1：ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって【バックラッシュ】【家長制】
 - 8回 グローバル化を考える1：ヒップホップの感染力【政教分離】
 - 9回～11回 ジェンダー パート2：脱エスノセントリズムの試み-ポスト構造主義フェミニズムとポストコロニアル・フェミニズム【生物学的基盤主義】【身体】【社会構築主義】
 - 12回 グローバル化を考える2：世界のアイドル【美の基準】
 - 13回～14回 ジェンダー パート3：民族誌を読む。マダガスカルとタイの民族誌を予定。【パフォーマティブ】【反相対主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 連 清吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代から近代にかけて中国文化の受容を平易に説明し、日本的中国学理解の在り方を究明する。講義では京都の中国研究者の主張を説明しながら中国文明の本質を明白にしようとする。

教科書 /Textbooks

配付資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古川幸次郎編『東洋学の創始者たち』講談社、1976年10月
礪波護編『京大東洋学の百年』京都大学出版会、2002年5月

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (「」はキーワード)
- 1回 授業説明：日本における中国文化の受容「受容」「選別」「融合」「創出」
 - 2回 中国文化は漢字文化(宮崎市定)「漢字」「漢字文化」
 - 3回 漢字と漢字文化圏「六書」「当用漢字」「漢字文化圏」
 - 4回 中国文学は中国文明の核(狩野直喜)「儒雅」「風神」
 - 5回 文字の魔術：詩文のリズム、メロディー、ハーモニー(古川幸次郎)「韻律」「対句」
 - 6回 唐詩の世界：中国人の心象風景の描写「賦比興」「緻密」「飛躍」
 - 7回 戦国は中国思想の黄金時代(貝塚茂樹)「百家争鳴」「稷下論議」「布衣卿相」
 - 8回 儒家と道家は中国思想の二本柱(金谷治)「人間社会」「人間学」「自然凝視」
 - 9回 孔子の思想：論語字義「仁」「学」「君子」
 - 10回 子所雅言：儒家の人間学「古典素養」「社会実用」
 - 11回 自然無為：老子の発想の転換「自然無為」「水」「柔弱」
 - 12回 万物斉同：荘子説話の主人公「自然凝視」「本来の生き方」「再生」「多様性」
 - 13回 小国寡民：東洋の理想郷「安居楽俗」「桃源郷」「山水画」「原風景」「終身雇用」
 - 14回 通変史観：中国人の歴史意識(内藤湖南)「通」「変」「独断」
 - 15回 史記の世界：身振りの文学(宮崎市定)「都市文化」「事実と物語」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況：50% 期末試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配付する資料をよく読み込んでおくこと。また、授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較ジェンダー論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 吉崎 邦子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ジェンダーの平等を実現する男女共同参画社会を推進するために必要な個人の意識を点検するとともに、日本や諸外国に於ける男女の関係性について様々な統計資料に基づき多角的に考察する。また社会制度や法律のあり方について理解できるよう法的識字能力(リーガル・リテラシー)を高めるために、ジェンダー関連の法律を概観する。
キーワードは、国連・日本・韓国等のジェンダー主流化施策、ジェンダーと法、社会制度、性別役割分業意識、HDI, GDI, GEM、男女共同参画社会基本法、女性差別撤廃条約、セクシュアリティ等。

教科書 /Textbooks

金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣アルマ、2005。1800円+税
プリント(国連の女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、男女雇用機会均等法ほか)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

奥山和弘『「男だてら」に「女泣き」』文芸社
井上輝子他編『女性のデータブック』有斐閣
内閣府男女共同参画局編『男女共同参画白書』
犬伏由子編『女性学キーマン』有斐閣
吉岡睦子・林陽子『実務ジェンダー法講義』民事法研究会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)
1-2回 授業概要、ジェンダー論の基本的考え方 【ジェンダー】【ジェンダー学など】
3-4回 ジェンダー統計【ジェンダー統計】【国際社会の比較】【ジェンダー主流化】
【HDI, GDI, GEM】
5-6回 家族とジェンダーにかかわる制度や法律【近代家族】【育児・介護休業法】
【固定的性別役割】【女性と年金】DV防止法
7-9回 雇用とジェンダーにかかわる法律【男女雇用機会均等法】【M字型カーブ】
【賃金格差】
10-12回 性と生殖の健康/権利、暴力とジェンダーにかかわる法律 【人工妊娠中絶】
【児童回・児童ポルノ】【デートDV】
13-14回 国連の女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法【国連】【ジェンダー主流化】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と授業態度・発表を総合して評価する。授業態度・発表は2割とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日米文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名
/Instructor

十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態
/Class Format

講義・演習

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースでは講義と受講生のグループ発表を中心に構成している。グループ発表を通して、受講しえには日米の文化を実際に比較してもらう。そこで感じた、比較の面白さと難しさを大切にしてほしい。また、日米の文化的事象について分かりやすい形で伝えるスキルの習得も目指す。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 イントロダクション (成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2 回 グループ発表の準備: プレインストーミング
- 3 回 比較文化に必要な視点: 文化相対主義、多文化主義
- 4 回 日米文化の基礎知識(1): 歴史、価値観
- 5 回 日米文化の基礎知識(2): 歴史、価値観
- 6 回 プレゼンテーション①
- 7 回 プレゼンテーション②
- 8 回 プレゼンテーション③
- 9 回 プレゼンテーション④
- 10 回 プレゼンテーション⑤
- 11 回 プレゼンテーション⑥
- 12 回 プレゼンテーション⑦
- 13 回 プレゼンテーション⑧
- 14 回 プレゼンテーション⑨
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半の講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日仏文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本とフランスの文学作品(エッセイ、短編小説)を読み味わうとともに、幸福の観点からそれぞれの作品世界を比較検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。取り上げる作品のプリントを事前に、あるいは当日配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: モンテーニュ - 1
- 2回: モンテーニュ - 2
- 3回: 兼好法師
- 4回: 鴨長明
- 5回: メリメ - 1
- 6回: メリメ - 2
- 7回: 芥川龍之介
- 8回: モーパッサン - 1
- 9回: モーパッサン - 2
- 10回: 中島敦
- 11回: フィリップ - 1
- 12回: フィリップ - 2
- 13回: 宮沢賢治
- 14回: ドーデ - 1
- 15回: ドーデ - 2

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のレポート...80% 平常点...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回レポート提出。テーマは取り扱った作品から見つけ、考察したことを書く

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と中国は一衣帯水の関係にあり、とりわけ文化の面で密接な関係を持つ一方で相違点も多く見られる。本講義は、異文化交流の視点から、食・衣・民族・伝統芸能について日中の文化比較を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『東方栄養新書』メディカル・ユーコン社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 多民族国家の中国
- 3回 中国の少数民族
- 4回 日本の少数民族・日本と中国の少数民族
- 5回 日中主食の比較
- 6回 日中調理法の比較
- 7回 薬膳・医食同源
- 8回 中国茶
- 9回 日本茶
- 10回 茶法・茶菓子
- 11回 中国歴代服飾の変化
- 12回 和服と中国
- 13回 伝統芸能 - 京劇と歌舞伎
- 14回 伝統芸能 - 京劇と歌舞伎
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文学とは？古典とは？
日本文学は現代まで千数百年の歴史を有するが、そのうち古典と称されるものがこの講義の対象である。その範囲は膨大で多岐にわたるが、系統的に講述する。

教科書 /Textbooks

特に用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学とは？古典とは？その定義について。
- 2回 日本古典文学の領域・範囲とは？
- 3回 古筆・絵詞ほか周辺領域について【古筆切れ】【絵巻】
- 4回 韻文学とは【音数律】
- 5回 和歌【歌語】【歌枕】
- 6回 連歌・俳諧【座の文学】【連衆】【宗匠】
- 7回 狂歌・川柳【俗文学】
- 8回 漢詩文【訓読】
- 9回 散文文学とは
- 10回 神話・伝承・祝詞・宣命【口承文学】
- 11回 物語文学【歌物語】【作り物語】【歴史物語】【軍記】
- 12回 説話文学【口承から書承へ】
- 13回 評論・随筆・日記・紀行【身の上】
- 14回 劇文学-能・狂言・歌舞伎【傾き者】【わざおぎ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 試験 ... 70%
出席が3分の2未満の者は、試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

随時指示する参考文献について入手し読破すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語について、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語という言語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と国語学
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音韻論と文字・五十音図とのかかわり
- 第4回 音節と単音・音素表記
- 第5回 シラブルと撥音・促音・拗音・長音 特殊音の平仮名表記とカタカナ表記
- 第6回 音声器官の構造と役割
- 第7回 有声音と無声音
- 第8回 国際音声記号 母音の無声化
- 第9回 調音点と調音法
- 第10回 硬口蓋化現象と拗音との関連
- 第11回 ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差 連濁現象 四つ仮名の混同
- 第12回 八行子音の歴史の変遷と八行転呼音
- 第13回 五十音図と『醍醐寺蔵孔雀経音義』
- 第14回 撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音 ラ行音と自由異音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事後に必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

語彙・敬語・文字・文法・方言などの観点から日本語を観察することを通して、日本語という言語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語と語彙 語彙の分類と体系 辞書・辞典にみる語彙
- 第2回 理解語彙と使用語彙 基本語と基礎語 単語の種々相
- 第3回 語彙の系統 語彙の量的考察 語彙量と使用率
- 第4回 日本語の語種 語構成 語の位相 意味の諸相
- 第5回 単語の文法的な性質 品詞論と文法化 学校文法と橋本文法
- 第6回 音声と文字とのかかわり 文字の種類
- 第7回 漢字の成立と伝来と享受 万葉仮名と上代特殊仮名遣い
- 第8回 漢字の訓の定着 日本の漢字音 漢字の構成と形と音
- 第9回 ローマ字の伝来と変遷 文字の発達の一般的方向 現代日本語の表記の特徴
- 第10回 標準語と共通語と方言と俚言 方言を生む作用
- 第11回 方言圏論 方言区画論
- 第12回 アクセントの種類
- 第13回 待遇表現と敬語 敬語の三種類 素材敬語と対者敬語
- 第14回 美化語と丁寧語 絶対敬語と相対敬語 敬語の順序 敬意と名詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語学概論II」を既に受講した場合は、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

神道と仏教の交渉：民族宗教とされる神道と外来宗教である仏教は、本来異質な宗教である。しかしながら、日本において二つの宗教は融和し共存することにより独特の宗教風土を育んできたとされる。しかしながら一方において神道と仏教の関係は「神仏習合」と称されるような融合の側面ばかりではなく、反発し忌避する意識も働いていたのである。それゆえにこそ両者は混然一体となることなく、宗教としての自立性を保ち得たと考えられる。この二つの宗教の微妙な関係について、説き明かしていきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高取正男『神道の成立』平凡社
達日出典『神仏習合』臨川書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2回 仏教と東アジア
- 3回 仏教公伝 【仏教】
- 4回 伝来初期の仏教 【渡来人】 【氏寺】
- 5回 仏教伝来以前の神道 【神道】
- 6回 律令国家と神道 【神祇令】
- 7回 道教の伝来をめぐって 【道教】
- 8回 神仏習合思想の発生 【神仏習合】
- 9回 神仏習合と東アジア宗教 【高僧伝】 【中国仏教】
- 10回 奈良時代の神仏隔離【道鏡事件】 【八幡神】
- 11回 平安時代の神仏隔離【伊勢神宮】 【宮廷祭祀】 【延喜式】
- 12回 本地垂迹説の形成
- 13回 本地垂迹説の展開
- 14回 神仏習合と神仏分離
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業へのコメント・レポート含む)...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布された資料や紹介した参考図書はよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の芸能文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本古代の芸能-在来芸能と渡来芸能
日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、ビデオを上映して芸能に対する視聴覚面からの理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらいたい。そのため伝統芸能の鑑賞・見学レポートを提出してもらおう。
(旧カリ科目「日本古代の演劇・芸能」との合併授業になりますので、テーマは古代に限ります。
能・歌舞伎など中世以降の芸能は扱いませんので、事前に承知のうえ受講して下さい。)

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

能史研究会編『日本芸能史 1』法政大学出版○
『日本の古典芸能 2 雅楽』平凡社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要。レポートについて。
- 2回 「芸能」とはなにか。
- 3回 先史時代の芸能-琴・笛・土面・【銅鐸】。
- 4回 靈魂と芸能-【鎮魂】と【神楽】【巫女】。
- 5回 靈魂と芸能-歌垣・田植踊り。
- 6回 神祭りと芸能-記紀・風土記などを例に。
- 7回 喪葬と芸能-殯の儀礼。死と靈魂観。
- 8回 政治と芸能-記紀神話と【真人舞】。国魂。
- 9回 大陸芸能の伝来-【伎楽】。
- 10回 雅楽-【雅楽】とは何か？
- 11回 中国の楽と雅楽。
- 12回 雅楽の受容と展開。
- 13回 雅楽と仏教-中世の展開。
- 14回 散楽と猿楽-【能】【狂言】の源流。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布するプリントを読んでおいてください。
レポートに関する諸注意をよく聞いておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の生活文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人の生活の中心である衣食住の歴史を衣と食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心に見ていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館)○柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫)
○芳賀登編『全集日本の食文化』(雄山閣)石毛直道監修『講座食の文化2 日本の食事文化』(味の素食の文化センター)堀切辰一『布の記憶』(新科学出版社)田中優子『カムイ伝講義』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 江戸時代における衣食住の成立
 - 3回 縄文時代と照葉樹林文化の食文化
 - 4回 室町時代～江戸時代の食文化
 - 5回 外部講師①布の歴史と【小倉織】(予定)
 - 6回 史料に見る【小倉織】
 - 7回 戦国時代の輸入【木綿】
 - 8回 江戸時代の輸入【木綿】
 - 9回 江戸時代のファッション 小袖と化粧
 - 10回 外部講師②【襦袢】が語る庶民の暮らし(予定)
 - 11回 【シュガーロード】の菓子文化①
 - 12回 【シュガーロード】の菓子文化②
 - 13回 【シュガーロード】の菓子文化③
 - 14回 【シュガーロード】の菓子文化④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典文学作品の中から、それぞれの時代とジャンルを代表する作品を、時代を追って鑑賞し、適宜、解説を加えながら、古典文学史の流れを辿る。

教科書 /Textbooks

配布プリント。
『岩波日本古典文学辞典』(久保田淳編、岩波書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本古典文学大系』(高木市之助他監修、岩波書店)
- 『新日本古典文学大系』(佐竹昭広他監修、岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 上代の文学 『万葉集』
- 3回 中古の文学 『古今和歌集』
- 4回 中古の文学 『伊勢物語』
- 5回 中古の文学 『源氏物語』
- 6回 中世の文学 『宇治拾遺物語』(1)【序】
- 7回 中世の文学 『宇治拾遺物語』(2)【巻十五の十二】
- 8回 中世の文学 『平家物語』
- 9回 中世の文学 『徒然草』
- 10回 近世の文学 『仁勢物語』
- 11回 近世の文学 『猿蓑』
- 12回 近世の文学 『世間胸算用』
- 13回 近世の文学 『仮名手本忠臣蔵』
- 14回 近世の文学 『誹風柳多留』
- 15回 近世の文学 『椿説弓張月』

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80%、授業に臨む態度... 20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト等を参考に、それぞれの作品について、各自整理しておくとい良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。本講義では大衆文化史を、大衆芸能のジャンル生成を焦点としながら他分野にも目配せをして概観していく。なお授業では、メディア環境の転換点を見極めつつ、日常生活の変容、思想の変容を関係させながら、来週文化を概観をする。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 第1回 ガイダンス：講義のデザイン
 - 第2回 ●近世●近世都市の大衆【劇場】【寄席】【印刷文化】
 - 第3回 ●近代●幕末・文明開化【芸能統制】【改良言説】
 - 第4回 世紀転換期【言文一致】【レコード】【活動写真】【国家戦争】【民衆芸術】
 - 第5回 両大戦間期【民衆娯楽】【デパート】、【労働問題】【大衆文学】
 - 第6回 ●近代～現代●メディアの浸透【電気吹き込み】【トーキー】【ラジオ】
 - 第7回 総力戦・戦後占領【国家総動員】【GHQ】【軍国主義から民主主義へ】
 - 第8回 ●現代●民主主義の胎動①【民間放送】【グラフィア雑誌】【視聴者参加】
 - 第9回 民主主義の胎動②【大衆芸術】
 - 第10回 高度経済成長①【映画における英雄像】
 - 第11回 高度経済成長②【ナショナルメディアとしてのテレビ】
 - 第12回 高度経済成長③【大衆文化論の系譜】
 - 第13回 大衆文化の現在①【サブカルチャー】【島宇宙】
 - 第14回 大衆文化の現在②【海外消費される〈日本〉】【グローバリズム】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題)…約30%
学期末レポート(試験の場合もあり)約70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学I【昼】

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

豊かな日本近世(江戸時代)の物語を読み、鑑賞することによって、当時のものの考え方、表現のあり方などを学びながら、古典の世界に親しみ、その素晴らしさを味わう。

教科書 /Textbooks

『雨月物語』(稲田篤信編著、勉誠出版)
適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『雨月物語評釈』(鶴月洋、角川書店)
 - 『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』(中村幸彦他編著、日本古典文学全集、小学館)
- ※『雨月物語』は研究の蓄積が多いことで知られています。上記以外にも、雨月物語の研究書が沢山あります。テキストの末尾で「参考文献」として挙げられるものなどを参考に、図書館で探してみましょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 上田秋成について
- 3回 「雨月物語序」
- 4回 「菊花の約」(1) 【鑑賞と解説】
- 5回 「菊花の約」(2) 【鑑賞と解説】
- 6回 「菊花の約」(3) 【鑑賞と解説】
- 7回 「浅茅が宿」(1) 【鑑賞と解説】
- 8回 「浅茅が宿」(2) 【鑑賞と解説】
- 9回 「浅茅が宿」(3) 【鑑賞と解説】
- 10回 「夢応の鯉魚」(1) 【鑑賞と解説】
- 11回 「夢応の鯉魚」(2) 【鑑賞と解説】
- 12回 「夢応の鯉魚」(3) 【鑑賞と解説】
- 13回 「貧福論」(1) 【鑑賞と解説】
- 14回 「貧福論」(2) 【鑑賞と解説】
- 15回 「貧福論」(3) 【鑑賞と解説】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、授業に臨む態度...20%
※適宜、小テストを行いません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館に沢山ある、上田秋成の関連本の中から、少なくとも一冊を読み、秋成の生涯を辿ってみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学II【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 河北 靖 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の基本となる和歌文学について、その特質を考える。

教科書 /Textbooks

『新編国歌大観』本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記「ねらい」を、勅撰三代集から各一名の女流歌人を選び、それぞれの私家集の読解を進めることによって明らかにする。その歌人たちは、伊勢(古今集時代)・檜垣媼(後撰集時代)・和泉式部である。

- 1回 オリエンテーション~三代集とは【勅撰和歌集】
- 2回 私家集とは【いへのしゅう】【撰集】
- 3回 伊勢の生涯【宮仕え】【宮廷文化圏】
- 4回 冒頭歌群の特異性【物語的】
- 5回 仲平・時平との交渉【召し人】
- 6回 名も無き男たちとの贈答【日常詠】
- 7回 帝寵と皇子の生と死【栄光と挫折】
- 8回 温子中宮との交流【主従関係】
- 9回 檜垣媼とは【伝説的歌人】
- 10回 史実と虚構(1)【清原元輔】
- 11回 史実と虚構(2)【落魄説話】
- 12回 和泉式部の世間的評価【浮かれ女】
- 13回 日記と家集【和歌の力】
- 14回 敦道親王の死【挽歌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 試験... 70%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国歌大観本は、ほとんどがかな表記のため、次回予定部分を漢字かな交じりで書き改めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代の文学について、明治から大正にかけての代表的作家・作品とりあげて講義する。近代国家成立と政治・経済・社会・文化等の諸制度との関係のなかで小説表現がどのように模索されたのか、その軌跡を考察していく。文学的文章の高度な読解力・分析力を身につけることをめざす。

教科書 /Textbooks

新聞初出資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『漱石全集』第12巻(岩波書店) ○各種夏目漱石の文庫 ○各種文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 夏目漱石『夢十夜』を精読する。
 - 第1回 日本の近代と文学-文学観・歴史観・宗教観-
 - 第2回 夏目漱石について
 - 第3回 『夢十夜』作品研究史
 - 第4回 『夢十夜』「第一夜」
 - 第5回 『夢十夜』「第二夜」
 - 第6回 『夢十夜』「第三夜」
 - 第7回 『夢十夜』「第四夜」
 - 第8回 『夢十夜』「第五夜」
 - 第9回 『夢十夜』「第六夜」
 - 第10回 『夢十夜』「第七夜」
 - 第11回 『夢十夜』「第八夜」
 - 第12回 『夢十夜』「第九夜」
 - 第13回 『夢十夜』「第十夜」
 - 第14回 『夢十夜』と同時代の文学
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを事前に予習し、自身の解釈を説明できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の現代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代という時代において、現代が抱え持つさまざまな問題を、現代の作家たちはどのように作品として表現しているか。現代文学が現代に対して提起している問題について考察する。

教科書 /Textbooks

いしいしんじ『ぶらんこ乗り』（新潮文庫）
いしいしんじ『トリツカレ男』（新潮文庫）
いしいしんじ『絵描きの植田さん』（新潮文庫）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は配布したプリントで指示する。書名等だけでなく、各文献の必要部分はコピーしてプリントを作成し、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 いししんじとはとは？
- 2回 『ぶらんこ乗り』① 心に残る子供の世界
- 3回 『ぶらんこ乗り』② 動物と話すということ
- 4回 『ぶらんこ乗り』③ なぜ「ぶらんこ」か
- 5回 『ぶらんこ乗り』④ 「死」の意味
- 6回 『トリツカレ男』① 何かに夢中になる、ということ
- 7回 『トリツカレ男』② 障害を持つ主人公設定の意味
- 8回 『トリツカレ男』③ 愛ということ
- 9回 『トリツカレ男』④ 生きるということ
- 10回 『絵描きの植田さん』① 火事という不幸から始まることの意味
- 11回 『絵描きの植田さん』② 絵描きという主人公設定の意味
- 12回 『絵描きの植田さん』③ 都会と田舎
- 13回 『絵描きの植田さん』④ 「こんなすばらしい世界に住んでいる」ことの意味
- 14回 いししんじのその他の作品『麦ふみクーツ工』『プラネタリウムのふたご』『ポーの話』など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト 80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる作品を事前に読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

12世紀(院政時代)に制作された四つの国宝絵巻:「源氏物語絵巻」・「信貴山縁起絵巻」・「伴大納言絵巻」・「鳥獣人物戯画(甲・乙巻)」は、数ある日本の絵巻の中でも優品として知られ、これらを輩出した12世紀は絵巻の黄金時代とも言われる。本講義では、これら四つの絵巻を概観することを通して、絵巻の基本を確認する。異時同図法や時間逆行の手法などといった特徴的な表現や段落式絵巻と連続式絵巻との違いなどを確認する。

昨年度は「伴大納言絵巻」と「鳥獣人物戯画(甲・乙巻)」について講義したので、本年度は、「源氏物語絵巻」と「信貴山縁起絵巻」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 院政期絵巻入門
- 2回 「源氏物語絵巻」概説-制作・構成・描法-①
- 3回 「源氏物語絵巻」概説-制作・構成・描法-②
- 4回 「源氏物語絵巻」の各場面①
- 5回 「源氏物語絵巻」の各場面②
- 6回 「源氏物語絵巻」の各場面③
- 7回 「源氏物語絵巻」の各場面④
- 8回 「信貴山縁起絵巻」の内容①
- 9回 「信貴山縁起絵巻」の内容②
- 10回 「信貴山縁起絵巻」の制作地・制作年代①
- 11回 「信貴山縁起絵巻」の制作地・制作年代②
- 12回 「信貴山縁起絵巻」尼公の巻をめぐる①
- 13回 「信貴山縁起絵巻」尼公の巻をめぐる②
- 14回 異時同図法・時間逆行の手法の諸相
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(場合によっては期末試験) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教と美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名
/Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平安時代は、美術において技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代～鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本(尊像名・描法・修法など)を概観したいと思う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 仏画概説
- 2回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって①
- 3回 青蓮院所蔵「不動明王二童子像(青不動)」をめぐって②
- 4回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって①
- 5回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって②
- 6回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって①
- 7回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって②
- 8回 東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」をめぐって
- 9回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって①
- 10回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって②
- 11回 藤田美術館所蔵「密教両部大経感得図」をめぐって
- 12回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって①
- 13回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって②
- 14回 聖衆来迎寺所蔵「六道絵」をめぐって
- 15回 聖衆来迎寺所蔵「六道絵」をめぐって

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート(場合によっては期末試験) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の都市文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治維新後、日本の大衆文化は西洋文化の影響を受けながらも、基本的には伝統の色を強く残していた。しかし、大正期になると都市化の進行によって大衆文化は大きく変貌した。さらに関東大震災には都市化・大衆社会化・情報化・アメリカニズムを背景に現代社会に通ずる「モダニズム」と呼ばれる現象が起こり、日本人の生活様式も大きく変化した。この講義ではその具体的な実相について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○南博・社会心理研究所編『大正文化』(勁草書房、1987年)
竹村民郎『大正文化』(三元社、2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市文化の研究史【大正文化】【大正デモクラシー】【大正ロマン】
- 2回 都市化の進行とモダニズム(1)【アメリカ化】【モダニズム】
- 3回 都市化の進行とモダニズム(2)【帝都復興】【都市中間層】
- 4回 都市化の進行とモダニズム(3)【鉄道】
- 5回 衣食住の変貌と伝統(1)【洋服】
- 6回 衣食住の変貌と伝統(2)【洋食】
- 7回 衣食住の変貌と伝統(3)【文化住宅】【郊外地住宅】
- 8回 舞台としての都市建築(1)【呉服店】【観工場】
- 9回 舞台としての都市建築(2)【百貨店】
- 10回 舞台としての都市建築(3)【カフェー】【喫茶店】
- 11回 都市と娯楽(1)【ラジオ】
- 12回 都市と娯楽(2)【映画】
- 13回 都市と娯楽(3)【野球】
- 14回 都市と娯楽(4)【競馬】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「手紙」】って何だろう。
- 第2回 文学の中の「手紙」に学ぶ。
- 第3回 「手紙」は、駆逐されるのか。
- 第4回 こんな「手紙」もある。
- 第5回 短さが、豊かさと呼ぶ。
- 第6回 【相手意識】を、確かめる。
- 第7回 「手紙」を読み分ける。
- 第8回 「返事」を、構想する。
- 第9回 「手紙」の形式を、確認する。
- 第10回 演習(1) 豊かな「手紙」に学ぶ。
- 第11回 演習(2) 相手を設定する。
- 第12回 演習(3) 語彙を豊かにする。
- 第13回 演習(4) 構想・形式を工夫する。
- 第14回 ~に宛てて、「手紙」を書く。
- 第15回 ~への「返事」を書く。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講後に「日本語表現法II」を履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 加藤 宏文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

真の「情報化」「国際化」社会に相応しい日本語表現の創造・発信が、求められる。Iでは、生活語による表現の豊かで確かな力の涵養に努め、具体的な「手紙」文での考察・実践を、IIでは、各自の専攻をも考慮に入れ、独自の課題の設定・情報の収集・選択、課題解決への構想・論述法等を、相互批評の中で学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント等、担当者が準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義・演習中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【「情報」】は、真実を伝えるか。
- 第2回 【課題】を、設定する。
- 第3回 情報・資料を【収集・選択】する。
- 第4回 分類し、見出しをつける。
- 第5回 順序を決める。
- 第6回 「起承転結」を再確認する。
- 第7回 【書き出し】をどうするか。
- 第8回 具体から一般へと、どう導くか。
- 第9回 「反極注意」ができるか。
- 第10回 総合の観点を、創造する。
- 第11回 演習(1)「起」を記述する。
- 第12回 演習(2)「承」を記述する。
- 第13回 演習(3)「転」を記述する。
- 第14回 演習(4)「結」を記述する。
- 第15回 まとめ 800字で論述する。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎時具体的な表現活動を求め、「評価」しつゝいき、総合「評価」をする。
演習内容…80% 平常点…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本語表現法I」履修後に受講することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら進めていく。できれば、日本語教育能力検定試験をも意識した話も行いたい。また、共時的な観点のみならず通時的観点からの知識も提供する。

教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが『よくわかる音声』(アルク)を、用語解説書の代わりに使用し、適宜、プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、必要に応じて、提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 あらまし
 - 2回 音韻と音声1【ラング】【パロール】【音素】【単音】
 - 3回 音韻と音声2【特殊拍】【最小対】【異音】
 - 4回 調音音声学的分析1【母音】
 - 5回 調音音声学的分析2【子音】
 - 6回 調音音声学的分析3【調音点】
 - 7回 調音音声学的分析4【調音法】【音声字母表】
 - 8回 日本語の音1【破裂音】
 - 9回 日本語の音2【摩擦音】
 - 10回 日本語の音3【破擦音】
 - 11回 日本語の音4【鼻音】【鼻濁音】
 - 12回 日本語の音5【口蓋化】【無声化】
 - 13回 日本語の音6【同化】【異化】
 - 14回 日本語の音7【五十音図と音】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 75% 出席点... 15% 平常点... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な参加を期待する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育にも役立つような形で日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。学習の理解を助けるために、適宜、音声教材も取り入れながら進めていく。できれば、日本語教育能力検定試験をも意識した話も行いたい。また、共時的な観点のみならず通時的観点からの知識も提供する。

教科書 /Textbooks

主たるテキストではないが『よくわかる音声』(アルク)を、用語解説書の代わりに使用し、適宜、プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、必要に応じて、提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 あらまし
 - 2回 アクセント1【ストレスアクセント】【ピッチアクセント】
 - 3回 アクセント2【共通語のアクセント体系】
 - 4回 アクセント3【方言のアクセント】
 - 5回 アクセント4【複合語のアクセント】
 - 6回 アクセント5【アクセントの機能】
 - 7回 イントネーション
 - 8回 音韻史1【上代特殊仮名遣い】
 - 9回 音韻史2【音価】
 - 10回 音韻史3【八行転呼現象】
 - 11回 音韻史4【才段長音の開合】
 - 12回 音韻史5【四つ仮名】
 - 13回 アクセント史1【中世】
 - 14回 アクセント史2【近世語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 75% 出席点... 15% 平常点... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な参加を期待する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代思想【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の主たる関心は、近代国家形成期における日本の政治家や知識人の立憲政理解のあり方を、現実の明治立憲制の構築とそれをめぐる政治的対立の中から探る。さらにその理解のあり方が、明治立憲制の実際の構造・運用・機能などの上にもどのような刻印を与えたかを考える。このような作業を通じて大日本帝国憲法に対する同時代的な理解と今日的なイメージや評価との齟齬について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』(東京大学出版会、1988年)
○江村栄一校注『憲法構想』(岩波書店、1989年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 明治立憲制の理解と評価【研究動向】
- 2回 幕末における立憲政治論【君民同治】
- 3回 明治初年の立憲政治の理念と構想【五箇条の誓文】【公論】
- 4回 民撰議院設立の建白【有司専制】
- 5回 国会開設運動【立志社】【大阪会議】
- 6回 元老院の国憲案【国憲案】
- 7回 政府内の憲法意見【天皇親裁】
- 8回 大隈重信の憲法意見【明治14年の政変】
- 9回 自由党と立憲改進黨【国会期成同盟】
- 10回 民間の立憲政体構想【私擬憲法】
- 11回 伊藤博文の憲法構想【憲法調査】【立憲カリスマ】
- 12回 宮中改革と太政官制の廃止【華族令】【内閣制度】
- 13回 大日本帝国憲法の発布【君権主義】【立憲主義】
- 14回 明治立憲制の運用をめぐって【明治憲法体制】【超然主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学概論【昼】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、現代の世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として虚無と戦ったHemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズムの文学】を読んでアメリカ文学への理解を深めたい。

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(岩波文庫)
 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)
 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)
 Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、【ポストモダニズム】の作品等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ボールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22の状況とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(1) 【シュールリアリズム】
- 15回 ポストモダニズムの文学(2) 【ブラックユーモア】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ文学を代表する小説家、ジョン・スタインベックの代表作を、具体的に読んでいく。その作業を通して、文学作品を客観的かつ分析的に読解する能力を身につける。また、作品がアメリカ人の価値観や美意識をどのように反映しているかを詳しく考察していく。その作業を通して、文学作品が社会や文化の独自性、特殊性を映し出す鏡となっていることを理解してもらう。他国の文学を読むことが、他国の文化を学ぶことに連なることを実感してもらいたい。

教科書 /Textbooks

John・Steinbeck The Grapes of Wrath 新潮文庫 (大久保康雄訳)
 必要に応じて、レジュメと英語資料の抜粋を配布する。
 参考文献は、初回、授業時にリストを配布して紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション、参考文献の紹介
- 2 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてI
- 3 回複数の作品に共通して見られる現代アメリカ文学の特徴についてII
- 4 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性I
- 5 回現代アメリカ文学の特徴と、アメリカ文化・社会の特殊性との関連性II
- 6 回ビデオによる映画版の鑑賞I
- 7 回ビデオによる映画版の鑑賞II
- 8 回担当教員の視点からの作品分析：女性像の背後に潜む作者の意図
- 9 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性I
- 10 回担当教員の視点からの作品分析：手作業の描写とアメリカ文化との関連性II
- 11 回担当教員の視点からの作品分析：国営キャンプ描写とアメリカ文化との関連性
- 12 回担当教員の視点からの作品分析：自然描写とアメリカ文化との関連性
- 13 回担当教員の視点からの作品分析：銃の描写とアメリカ文化との関連性
- 14 回担当教員の視点からの作品分析：権力描写とアメリカ文化との関連性
- 15 回まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% テキスト、配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーはすべて持ち込み不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、テキストを事前に読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』(岩波文庫)
The Scarlet Letter 『緋文字』(岩波文庫)
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』(新潮文庫)
Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』(新潮文庫)
The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』(岩波文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】の文学
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、レポート(40%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらおうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴と、アメリカ史の関係
- 6回 『フェイス / オフ』、『ターミネーター 2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 全体のまとめ、補足説明
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% 試験は、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達、誰もがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深める。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。アメリカの歴史・文化の特殊性、独自性への理解も深めることができればと思っている。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ的価値観、美意識を考察する。さらに、それらの美意識と過去のアメリカの歴史との関係について考察していきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジユメを配布する。
参考文献は、開講時にプリントを配布して詳しく説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanic とアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mile とキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Inc とアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Wars とアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Ring とアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars EplIII とアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Prada とアメリカ人の個人観
- 11回 Titanic とアメリカ人の個人観
- 12回 A . I とアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator II とアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator IV とアメリカ人の機械観
- 15回 まとめ (絶対に欠席しないこと。)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100% 試験は、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：60% 課題：0% 態度：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの代表的な現代小説を数編取り上げ、テーマなどを分析し、各々の小説およびその作家の特徴を考える。読書の課題を課すことによりなるだけ多くの作品に触れてほしいと考えている。授業を通じて小説を読む醍醐味を一緒に楽しみたい。

教科書 /Textbooks

『ホテル・ワールド』アリ・スミス著・丸洋子訳 (DHC)
Ali Smith, Hotel World (Penguin, 2002)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 『日の名残り』 「1日目・2日目」
- 2回 『日の名残り』 「3日目・4日目」
- 3回 『日の名残り』 「5日目・6日目」
- 4回 『贖罪』 Part 1
- 5回 『贖罪』 Part 2
- 6回 『贖罪』 Part 3
- 7回 『贖罪』 まとめ
- 8回 Hotel World “Past”
- 9回 Hotel World “Present Historic”
- 10回 Hotel World “Future Conditional”
- 11回 Hotel World “Perfect”
- 12回 Hotel World “Future in the Past”
- 13回 Hotel World “Present”
- 14回 Hotel Worldのまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況および課題提出により評価する。試験は行わない。

課題

- (1) 毎回の授業につき6～10行程度の感想文などを書いて提出(課題内容は授業中に指示する)。(40%)
 - (2) Hotel Worldの各章につき、あらずじ400～500字程度、好きな文章(原文)の抜き出し2箇所以上及び簡単な感想を書いて提出(6月第2週の授業時に提出)。(30%)
 - (3) Hotel Worldまたは参考文献の作品どれか1つについて、何か1つテーマを選び、2,000字程度のレポートを書いて提出。重要だと思われる文を適宜引用しながら、作品のテーマについて自分なりの解釈を述べる内容のものが望ましい。(最後の授業時に提出)(30%)
- 全出席および(1),(2),(3)の課題を全部提出した時点で内容の良し悪しにかかわらず70点として評価する。
上記の課題とは別に小説や英語の原文(小説の一部で良い)を読んで自由レポート(あらずじなど)を提出した場合には、必要に応じて加点する(ボーダーに点が少し不足する場合など。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業時に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの大衆文化【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの映画や小説における女性の主体形成の描かれ方を考察する。
 題材は『ジェイン・エア』『ベッカムに恋して』『サルガッソーの広い海』。
 (時間が許せば『ヴェラ・ドレイク』まで。『ヴェラ・ドレイク』については、『朗読者』(独)『チェンジリング』(米)と比較しつつ考察を加える可能性あり。)

映画を見て、原作と比較しつつ、主人公や脇役の女性たちの表象のされ方について分析する。
 ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、階級、職業、植民地主義等の問題にも目配りをする。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリント配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2~5回 『ジェイン・エア』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
 【女家庭教師・移動・インド・西インド諸島・狂気・結婚・遺産・宗教】
- 6~9回 『ベッカムに恋して』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
 【エスニックマイノリティ・ジェンダー・セクシュアリティ・ホモソーシャルバンド・シスターフッド・スポーツ・アメリカ・資本主義・結婚・階級・アイルランド・家族】
- 10~13回 『サルガッソーの広い海』を題材に女性の主体形成の表象について考える。
 【エスニシティ・「屋根裏の狂女」・狂気・セクシュアリティ・ジェンダー・『ジェイン・エア』】
- 14回 予備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習参加・小レポート25~30% 期末レポートまたは試験70~75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『ジェイン・エア』(シャーロット・ブロンテ作)および『サルガッソーの広い海』(ジーン・リース作)は翻訳で構わないので授業開始前までに必ず読了しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの歴史を通時的にたどりながら、各々の時代に深い関連のある文化事象をそのつど取り上げ、解説する。DVDなども教材として用い、興味を持てる授業になるよう心がける。

教科書 /Textbooks

『図説 イギリスの歴史』指昭博著(河出書房新社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1章 「諸民族の興亡」
- 2回 英語の成立
- 3回 第2章 「大陸国家から島国へ」
- 4回 第3章 「王朝の対立」
- 5回 第4章 「テューダー朝の時代」
- 6回 キリスト教とイギリス国教会
- 7回 エリザベス女王とルネサンス
- 8回 第5章 「ステュアート朝の時代」
- 9回 第6章 「ハノーヴァ朝の時代」
- 10回 紅茶の歴史
- 11回 産業革命
- 12回 第7章 「改革の時代」
- 13回 第8章 「大英帝国の繁栄と衰退」
- 14回 第9章 「20世紀のイギリス」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可。主として記号選択問題)100%。平素の授業態度により多少の増減あり。
期末試験の成績が60,70,80,90に不足している場合、その幅が5点以内であれば、レポート(課題は自由)を提出した者に限り、60,70,80,90点に引き上げる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業の前にテキストの該当箇所を通読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化論【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティ
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0-25% 期末試験... 50-75%

イギリス文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- この講義のねらいは次の通りです。
- 1) 作品『星の王子さま』を最初から最後まで読んで味わい、内容理解を深める。
 - 2) 作品が提示しているさまざまなテーマについて自分なりの考えを育てる。
 - 3) 考えたことを文章で表現する力をつける。

教科書 /Textbooks

『星の王子さま』（サン＝テグジュベリ作、河野万里子訳、新潮文庫）
※他の翻訳者によるものも多数出ていて作品名も『小さな王子さま』『ちいさな王子さま』『プティ・フランス』となっていたりもするが、どれも構わない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「サン＝テグジュベリ著作集」（全12巻、みすず書房）
- 『サン＝テグジュベリの生涯』（ステイシー・シフ著、新潮社）
- 『「星の王子さま」の见えない世界』（水本弘文著、大学教育出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：作者と作品の紹介＋作品の「献辞」読解
- 2回：以降、毎回作品の2～3章ほどを取り上げて解説や質疑応答のうちに読み取りを深める。
- 3回：
- 4回：
- 5回：
- 6回：
- 7回：
- 8回：
- 9回：
- 10回：
- 11回：
- 12回：
- 13回：
- 14回：
- 15回：終章の読解＋まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のレポート...80% 平常点...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回レポート提出。テーマは前回取り扱った章から自分で見つけ、考察したことを書く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ文化圏内の世界遺産を手がかりとして、ドイツの歴史とドイツ文化の多様性について考える。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 世界遺産とは何か
- 2回 ドイツ史概観
- 3回 ケルン大聖堂
- 4回 宗教建築の基礎知識
- 5回 危機遺産指定と解除
- 6回 ドレスデン・エルベ渓谷
- 7回 東西ドイツ再統一後の問題
- 8回 危機遺産指定と世界遺産からの削除
- 9回 リューベック・戦災からの復興
- 10回 その他のハンザ都市
- 11回 再統一後のハンザ都市の整備
- 12回 番外編・アウシュヴィッツ
- 13回 その他の強制収容所
- 14回 負の遺産の持つ意味
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。
『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語音声学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語(2)【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 9回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語(2)【借用語】
- 11回 海賊と英語(3)【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回イントロダクション(成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2 回文化(1):文化を定義する
- 3 回文化(2):「異文化」とは
- 4 回コミュニケーション・モデル
- 5 回コミュニケーション・スタイル
- 6 回非言語コミュニケーション
- 7 回ポライトネス・ストラテジー
- 8 回中間のまとめ
- 9 回言葉と文化
- 10 回ジェンダーとコミュニケーション
- 11 回ステレオタイプ
- 12 回パーセプション・ギャップ
- 13 回表象される「異文化」
- 14 回多文化社会
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 60%、 学期末試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
- Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.
*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - b /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
- Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.
*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Greetings - World Greetings, Adverbs of Frequency
2. Explorers - Geography & Occupations, Past Tense, Past Activities
3. Continue chapter-Discussion – Composition Results
4. Inventions - Machines etc., Past Continuous Tense, Discussion – Last Weekend
5. Continue Chapter – Instant Speeches
6. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
7. Weather - Lightening, Will & Going to, Composition- Weekend Plans
8. Continue Chapter – Composition Results
9. Transportation - Can & Could
10. Continue Chapter – Tell Us about Yourself
11. Describing places – Superlatives
12. Continue Chapter –Discussion about Final Exam.
13. Review Grammar Test & Cumulative Dialog Test
14. Major Speeches
15. Summary or Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The same text actually is used for two semesters, because each chapter takes more than one class period, and the speech and questions often take longer than one or two periods.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 3 回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers
- 4 回 Talk about work and free time activities.
- 5 回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 6 回 Video Journal: Hula. Identify Possessions.
- 7 回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 8 回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol.
- 9 回 Talk about food. Order a meal.
- 10 回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 11 回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 12 回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 13 回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 14 回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 15 回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!" /two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends" /gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate" /relative clauses of time/ adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!" / modals & adverbs/ permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future" /time contrasts/ conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/ Eighth oral presentations/ listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing" /passive tense with & w/o by / Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie" /participles as adjectives/ relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15 回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!" /two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends" /gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate" /relative clauses of time/ adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!" / modals & adverbs/ permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future" /time contrasts/ conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/ Eighth oral presentations/ listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing" /passive tense with & w/o by / Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie" /participles as adjectives/ relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15 回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will study the four basic language skills of reading, listening, writing, and speaking, with a main focus on speaking & writing. The reading materials included will give the students something to speak and write about.

教科書 /Textbooks

Check it out! Book 2 by Milada Broukal Heinle Centage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Discussion & Composition about Vacation Activities
2. Sports-Must, Must not, Have to ,etc
3. Continue Chapter/Discussion about Writing from First Class.
4. Health – Food & Drink , Should & Shouldn't
5. Continue Chapter/Instant Speech Assignment
6. Entertainment-Oscars, present perfect tense
7. Continue Chapter/Grammar Review Quiz
8. Desire for chocolate, food, verb + gerund or infinitive
9. Continue Chapter/Write about Food likes and Dislikes
10. Animal communication – conditional if. Final Speech Project Plan
11. Fashion(Passive Voice)
12. Final speech Project
13. Final speech Project
14. Continue Chapter
15. Final Speech Project

成績評価の方法 /Assessment Method

Writing assignments and tests will be averaged to make 50% of the final mark. The other 50% will be from a major speech each student makes and following an outline during that speech.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - e

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & Earning money
- 4 回 Tennis debate & Please let me smoke
- 5 回 Tennis debate & I can't stop
- 6 回 Tennis debate & The shoplifter
- 7 回 Tennis debate & Miss Flower blossom beauty contest
- 8 回 Tennis debate & Who pays
- 9 回 Tennis debate & Cyber love
- 1 0 回 Tennis debate & The boyfriend
- 1 1 回 Tennis debate & Living together before marriage
- 1 2 回 Tennis debate & Housework
- 1 3 回 Tennis debate & Confused
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - f

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - g

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - h

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 2 回Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 3 回Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 4 回Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 5 回Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking
- 6 回Make comparisons. Explain preferences.
- 7 回Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 8 回Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 9 回Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 10 回Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 11 回Talk about today's chores. Interview for a job.
- 12 回Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 13 回Video Journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 14 回Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 15 回Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス AES 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: What is debate?; debate vs. argument and discussion; definitions; derivations
- 2 回 Unit 2: Tennis debate: comparisons, contrasts and conditional statements
- 3 回 Review & Quiz
- 4 回 Unit 3: Resolutions and cases; casing a resolution; brainstorming and paraphrasing
- 5 回 Unit 4: Points; making points; flowing; note-taking; reading back from notes
- 6 回 Unit 5: The First Affirmative Constructive; links; opening speeches; abbreviations
- 7 回 Review & Quiz
- 8 回 Unit 6: The First Negative Constructive; refutation; opening negative speeches
- 9 回 Discover Debate handouts and homework
- 1 0 回 Unit 7: Holistic reasoning; bringing points together in a logical framework
- 1 1 回 Review & Quiz
- 1 2 回 Unit 8: Members' speeches; later speeches; critiquing speeches; notetaking
- 1 3 回 Unit 9: Rebuttals and adjudication; organization of closing speeches; judging
- 1 4 回 Review & Quiz
- 1 5 回 Unit 10: Speaking Style; voice; gestures; body language; word stress; emphasis; resolution brainstorming; team selection; preparation for 2nd semester first debate

成績評価の方法 /Assessment Method

Quizzes over parliamentary debate format and language: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, weekly quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 2, (Macmillan Language

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)	Introduction
第2回	Unit 1: Keeping in touch
第3回	Unit 2: Feeling nostalgic
第4回	Unit 3: School and beyond
第5回	Unit 4: Below the surface
第6回	Unit 5: Going on vacation
第7回	Unit 6: Keeping up to date
第8回	Unit 7: Staying healthy
第9回	Unit 8: An honest life
第10回	Unit 9: That makes me mad
第11回	Unit 10: It's a chore
第12回	Unit 11: Change
第13回	Unit 12: A good life
第14回	Course summary
第15回	Guidance of exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 2 - a
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1stsemester)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The internet, reading, listening, building a paragraph & statistics
- 3 回 NEETs reading, listening, building a paragraph & statistics
- 4 回 Fashion reading, listening, building a paragraph & statistics
- 5 回 Environment reading, listening, building a paragraph & statistics
- 6 回 international marriage reading, listening, building a paragraph & statistics
- 8 回 junk food reading, listening, building a paragraph & statistics
- 9 回 paternity leave reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 0 回 depopulation reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 1 回 examinations reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 2 回 animal testing reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 3 回 temporary workers reading, listening, building a paragraph & statistics
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Would you like beef or fish?
- 第 3回 Can I have your passport, please?
- 第 4回 Do you have any vacancies?
- 第 5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第 6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第 7回 Do you mind if I watch TV?
- 第 8回 How do you feel?
- 第 9回 Are you free this weekend?
- 第 10回 Are you ready to order?
- 第 11回 My father works in a bank.
- 第 12回 Out and About 2: Eating Out
- 第 13回 Important expressions and vocabulary review
- 第 14回 Summary and exam guidance
- 第 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Friends and relationships
- 5回 Vocabulary development for relationships
- 6回 Entertainment
- 7回 Vocabulary development for entertainment
- 8回 Review
- 9回 Socialization
- 10回 Vocabulary development for Socialization
- 11回 Activities
- 12回 Vocabulary development for activities
- 13回 Money and communicating
- 14回 Vocabulary development for communicating
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - d

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (MacMillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Friends and relationships
- 5回 Vocabulary development for relationships
- 6回 Entertainment
- 7回 Vocabulary development for entertainment
- 8回 Review
- 9回 Socialization
- 10回 Vocabulary development for Socialization
- 11回 Activities
- 12回 Vocabulary development for activities
- 13回 Money and communicating
- 14回 Vocabulary development for communicating
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス AES 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on developing students' discussion skills, English speech presentation skills and note-taking skills in an on-your-feet, parliamentary debate format. Students will also learn to brainstorm, pre-write, organize their argumentation, and develop rebuttal skills to support their opinions and debate argumentation skills. Finally, this course will develop critical thinking and listening skills in English so that students feel comfortable when adjudicating their peers.

教科書 /Textbooks

Both Make Your Point! and excerpts from Discover Debate will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 First two debates (over topic selected before summer recess); new topic handouts
- 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 5 回 Two debates in English; new topic handouts
- 6 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 7 回 Two debates in English; new topic handouts
- 8 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 9 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 0 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 1 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 2 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 3 回 Two debates in English; new topic handouts
- 1 4 回 English discussion over new topic; resolution creation, and selection of debate teams, judges, chairperson and timekeeper
- 1 5 回 Two debates in English; new topic handouts

成績評価の方法 /Assessment Method

Debate speeches: 70%; judge, chairperson, timekeeping and flowing participation: 30%
Continual assessment through homework completion, participation in both pre-debate discussions and every-other-week debates. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英会話・英作文 4 【昼】

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス AES 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about English idioms. For students to speak more naturally, idioms can be very helpful. Students will be taught what idioms mean, and given exercises in how to apply them (controlled practice). Then students will be asked to use idioms in their everyday lives and in what situations (free practice). Students will gain a lot of confidence from this course and develop a strong understanding of idiomatic English.

教科書 /Textbooks

Idioms from square one, by Barry Ward (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)	Introduction
第2回	Unit 2: Studying for examinations
第3回	Unit 5: Staying slim
第4回	Unit 8: Vacation
第5回	Unit 10: The party
第6回	Unit 14: The fitness center
第7回	Unit 18: A careful shopper
第8回	Unit 20: How's the new job going?
第9回	Unit 19: A chance meeting
第10回	Unit 16: Time off work
第11回	Unit 15: A letter from a friend
第12回	Unit 13: Business matters
第13回	Unit 12: A new teacher
第14回	Unit 7: New neighbors
第15回	Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - a

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

For and against Expressing opinions and exchanging ideas Flaherty (1st term)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 What does culture mean
- 3 回 Cultural rules for acceptable behavior
- 4 回 Stereotyping
- 5 回 Media and culture
- 6 回 Nonverbal communication
- 7 回 Cultural perspectives of time
- 8 回 Touch and space
- 9 回 Verbal communication norms
- 1 0 回 subcultures
- 1 1 回 status
- 1 2 回 What is the family
- 1 3 回 gender is culture
- 1 4 回 review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2 - b

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第 2回 What's your favourite food?
- 第 3回 What would you like to drink?
- 第 4回 I won't be home for lunch today.
- 第 5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第 6回 How would you like to pay?
- 第 7回 Out and About 3: Getting around
- 第 8回 Can I send this airmail?
- 第 9回 What time does the show start?
- 第 10回 Where did you lose did?
- 第 11回 Goodbye and thanks!
- 第 12回 How many bags do you have?
- 第 13回 Important expressions and vocabulary review
- 第 14回 Summary and exam guidance
- 第 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2 - c

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドロークス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2 - d /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

New Crossroads (Macmillan Publishing)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-introduction
- 2回 What's on the menu?
- 3回 Vocabulary development for food
- 4回 Sports life
- 5回 Vocabulary development for sports
- 6回 Employment issues
- 7回 Vocabulary development for work
- 8回 Review
- 9回 Personalities
- 10回 Vocabulary development for character
- 11回 Exotic lands
- 12回 Vocabulary development for travel
- 13回 Special days
- 14回 Vocabulary development for holidays
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students are expected to have done the reading for the unit prior to each class lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students can learn about presentation skills. The course is divided into
 1. the physical message (gestures/voice inflexion/ posture)
 2. the story message (introduction/ body/ conclusion)
 3. the visual message (charts/ graphs/ photos).
 Students will be asked to practice 1 to 1, 1 to 3, and finally 1 to all presentations about topics that they want to talk about. Students will also be asked to evaluate their peers' performance as a way to receiving feedback.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回(Week 1) Introduction
- 第 2回 Introduction to visual message and story message.
- 第 3回 Posture, eye contact, and voice inflexion.
- 第 4回 Pairwork activity. Gestures.
- 第 5回 The introduction, what, why, and overview.
- 第 6回 Story message, the lay-out and listening activity.
- 第 7回 Finish the visual message. Explain the need of graphs, charts and directions.
- 第 8回 Do an introduction, one-on-one speech.
- 第 9回 Look at transitions, and sequence makers.
- 第10回 How to make a conclusion.
- 第11回 Brainstorming and prioritizing your ideas.
- 第12回 The story message, the body. Making your speech smooth.
- 第13回 Do a one-to-three speech.
- 第14回 A look at possible speech topics, Powerpoint presentation, and contents.
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit. Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course..

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinANAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Getting Acquainted/Student Information Cards
2. Causative Verbs-
3. Imperatives
4. Reported Speech
5. Present Perfect Tense
6. Writing Assignment
7. Present Perfect Tense(for/since)
8. Past Perfect Tense
9. Passive Voice
10. Writing Assignment
11. Subordinate Clauses of Result
12. Relative Clauses
13. Adj. Clauses(why,when)
14. Writing Assignment
15. Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to make one major speech, which other students will ask questions about. The final mark will be made by averaging all of the periodic writing assignments as 50% and the speech & questions as the other 50%. Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The British Isles
- 3 回 Very British
- 4 回 Empire
- 5 回 A world role
- 6 回 Being British
- 7 回 The British year Jan, Feb, March, April
- 8 回 The British year May, June, July, August
- 9 回 The British year Sep, Oct, Nov, Dec
- 1 0 回 Many faiths
- 1 1 回 Coming to Britain
- 1 2 回 At home
- 1 3 回 In the family
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。基本的な事項の説明から始める。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツをつかむ

教科書 /Textbooks

“Total Strategy for the TOEIC Test” by T. Ishii et al. (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Computers and Society
- 3回 Business Transaction
- 4回 At the Office
- 5回 Cars and Society
- 6回 Eating and Drinking
- 7回 Shopping
- 8回 Entertainment
- 9回 Accidents & Crimes
- 10回 Teaching & Learning
- 11回 Finance and Banks
- 12回 Economy and Industry
- 13回 Geography and Travels
- 14回 Weather and Climate
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ...50%、 期末試験 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class AES

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue improving their research and presentation skills learnt in the first semester. In principle, students will be given 2 weeks preparation time to make their presentations, and one lesson to actually present their work to the class. Consequently, students can expect to make three presentations in the second semester.

教科書 /Textbooks

Speaking of Speech, by David Harrington and Charles LeBeau. (Macmillan Language House)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction and course objectives
- 第2回 Form a group of 3: Looking at social issues in the world
- 第3回 Start to research social issues
- 第4回 Expansion and consolidation of social issues
- 第5回 Presentation and Discussion: of social issues
- 第6回 Form a group of 3: Looking at environmental issues in the world
- 第7回 Start to research environmental issues
- 第8回 Expansion and consolidation of environmental issues
- 第9回 Presentation and Discussion: of environmental issues
- 第10回 Form a group of 3: Looking at political issues in the world
- 第11回 Start to research political issues
- 第12回 Expansion and consolidation of political issues
- 第13回 Presentation and Discussion: of political issues
- 第14回 Peer review and teacher feedback.
- 第15回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit. Students are expected to use Microsoft Powerpoint in this course.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will teach all four language skills as well as vocabulary. The main focus will be on speaking and writing.

教科書 /Textbooks

Situational English By NichibeinAN' UN-DO ¥2,500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should prepare for each class by reading the first page of each unit and the story on the following page and checking words they do not understand in the dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. May & Might
2. Should, Ought to & Had better
3. Would(for past repeated actions)
4. Research Project Introduction
5. The First Conditional
6. The Second Conditional
7. Wish
8. Writing Assignment
9. Verbs followed by Subjunctive Noun Clauses
10. Verbs followed by Gerunds
11. Phrasal Verbs
12. Completion Help for Research Project & Write-up of Project
13. Presentation of Research Project
14. Critique of Research Projects
15. Final Speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be required to complete a research project and share it with the class. Other students will be appointed to ask questions about the research project being presented. The final mark will be made by averaging all of the writing assignments as 50% and the speech & Research Project as the other 50%.Unexcused absence will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of British culture and history. Each week a different aspect of British life will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

In Britain. Macmillan

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 At school
- 2 回 At college
- 3 回 Finding a job
- 4 回 The economy
- 5 回 Food
- 6 回 Film and theatre
- 7 回 Music
- 8 回 The classics
- 9 回 Modern life
- 1 0 回 In the news
- 1 1 回 On TV and radio
- 1 2 回 At the shops
- 1 3 回 Sport
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。

1. 語彙を増やす
2. リスニング力を強化する
3. 文法、語法の知識を身につける
4. 速読の能力を高める
5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“THE TOEIC TEST TRAINER Target 780” by B. A. Smith. (センゲージ ラーニング)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Practice Test
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ...50%、 期末試験 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2、1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文化の代表的な側面であるアメリカの小説を取り上げ、時代と照らし合わせながら内容を読み取る。授業では19世紀と20世紀の文学作品を用いる予定である。最後にそれらを合わせて総合的にアメリカという国について考えていくことを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

A College Anthology of American Literature
(郡山直編 北星堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アメリカとは(歴史的側面)
- 2回 アメリカとは(社会的側面)
- 3回 19世紀に関するテキストを読む(小説を中心に)
- 4回 19世紀に関するテキストを読む
- 5回 19世紀に関するテキストを読む
- 6回 内容についてのディスカッション
- 7回 20世紀に関するテキストを読む(小説を中心に)
- 8回 20世紀に関するテキストを読む
- 9回 20世紀に関するテキストを読む
- 10回 内容についてのディスカッション
- 11回 内容についてのディスカッション
- 12回 アメリカについて考える
- 13回 アメリカについての各自の提案
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30 % レポート等 ... 30 % 最終試験 ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の自己学習を必ず行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカの文化をより深く知るために、アメリカの文学作品を材料に用いて、読み解きながら生のアメリカに迫ることを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アメリカを知ろう(歴史的側面)
- 2回 アメリカを知ろう(社会的側面)
- 3回 アメリカはどのような国であろうか(ディスカッション)
- 4回 作品を読む。(17世紀)
- 5回 作品を読む。(18世紀)
- 6回 作品を読む。(19世紀)
- 7回 ディスカッション
- 8回 作品を読む。(19世紀)
- 9回 作品を読む。(20世紀)
- 10回 作品を読む。(20世紀)
- 11回 ディスカッション
- 12回 アメリカとはいかなる国であるのか。
- 13回 アメリカとはいかなる国であるのか。
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% レポートなど ... 30% 最終試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 高本 孝子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年 (1 - 1、1 - 3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリスの服飾史の概説書を読むことにより、イギリスの服飾文化に関する理解を深める。

教科書 /Textbooks

Fashionable England, 細川祐子著 (開文社出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 「まえがき」
- 2 回 Chapter 1
- 3 回 Chapter 2
- 4 回 Chapter 3
- 5 回 Chapter 4
- 6 回 Chapter 5
- 7 回 Chapter 6
- 8 回 Chapter 7
- 9 回 Chapter 8
- 1 0 回 Chapter 9
- 1 1 回 Chapter 10
- 1 2 回 Chapter 11
- 1 3 回 Chapter 12
- 1 4 回 Chapter 13, 14
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80%、 課題提出 20%
その他、レポート (テーマは自由) 提出があれば、ボーダー点に若干足りない場合に評価の対象として考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に先立って単語調べ等の課題を出すので、毎回提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族を問わず世界中どこでも、最も古くから人々に親しまれてきたのが詩歌である。詩を排除すると、イギリスの文学・文化の味わいが貧しいものに思える。本講読では、英詩の基本的な形式から始めて、さまざまな技法を説明する。英文ならではの楽しさを、受講生には体感してほしい。英詩を読むことは、語学力を伸ばすことにとどまらず、イギリスの文学や文化、社会、宗教などへの理解を深めることに繋がるはずである。

教科書 /Textbooks

小林 章夫 著『イギリスの詩を読んでみよう』NHK出版
* 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講すること。
講義中に、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1-2回 リズムと形式： ナーザリー・ライム
- 第3回 韻律： ナーザリー・ライム
- 第4回 技法： ロバート・バーンズ
- 第5回 叙景詩： ウィリアム・ワーズワス
- 第6回 恋愛詩： エドモンド・スペンサー
- 第7回 哀悼の詩： トマス・グレイ
- 第8回 ナンセンス： ナーザリー・ライム
- 第9回 女性詩人： クリスティーナ・ロセッティ
- 第10回 ウィリアム・ブレイク「子羊」
- 第11回 ナーザリー・ライム「誰が駒鳥を殺したの？」
- 第12回 アルフレッド・テニソン「砂州を越えて」
- 第13回 W.シェイクスピア『ソネット集』
- 第14回 W.シェイクスピア『ソネット集』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 20% 小テストと提出物... 20% 定期試験の成績で総合的に評価する... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本文化に係わる英文のエッセイや小説を読み解く中で、改めて英語という媒体を通して日本を考えることを授業の目的とする。その際文学作品を使うことで英語と日本語の翻訳の問題についても合わせて考える。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本の文化をこう考える(イントロダクション)
- 2回 テキストを読む。(文学作品を中心に)
- 3回 テキストを読む。
- 4回 テキストを読む。
- 5回 ディスカッション
- 6回 テキストを読む。(詩などを中心に)
- 7回 テキストを読む。
- 8回 テキストを読む。
- 9回 ディスカッション
- 10回 テキストを読む。
- 11回 日本の文化とはディスカッション
- 12回 日本の文化とはディスカッション
- 13回 翻訳についての一考察
- 14回 授業のまとめ
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% レポート等... 30% 最終試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前、授業後の学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の文献講読【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文献のなかから、おもに近現代の文章について講じる。和・漢・欧文脈が混在する近代日本語によって、いかなる自己認識 / 他者認識が行われているかを考察する。日本語による文章の読解力・考察力・表現力の涵養を目指す。

教科書 /Textbooks

各回で資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：「比較する身体・比較する眼差し」
- 第2回 久米邦武『米欧回覧実記』
- 第3回 森鷗外『航西日記』『独逸日記』
- 第4回 内村鑑三『余は如何にして基督教徒となりし乎』
- 第5回 新渡戸稲造『武士道』
- 第6回 岡倉覚三『東洋の覚醒』『茶の本』
- 第7回 夏目漱石『倫敦消息』
- 第8回 永井荷風『あめりか物語』・『ふらんす物語』
- 第9回 芥川龍之介『上海遊記』
- 第10回 金子光晴『マレー蘭印紀行』
- 第11回 森崎和江『二つのことば・二つのころ-ある殖民二世の戦後』
- 第12回 きだみのる『気違い部落周遊紀行』
- 第13回 藤原新也『インド放浪』
- 第14回 渡辺京二『逝きし世の面影』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点…20% 期末レポート…80%
ただし、欠席が全体の三分の一を超える場合は「不可」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で取り上げるテキストは図書館に複数所蔵されているので、受講前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学講読【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古典文学の二大ジャンルである、和歌と物語の関係を「歌物語」を通じて考える。

教科書 /Textbooks

石田穰二訳注『新版 伊勢物語』（角川ソフィア文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「伊勢物語」の主人公像を探る。
在原業平をモデルとするとされる本物語の主人公は、本当に実在人物業平なのか？そこには史実と虚構の交雑はないのか？どこまでが事実でどこからが創作なのか？主人公は一貫して「みやび」な人物か？変化はないか？あるとすればそれはなぜか？

- 1回 「伊勢物語」について【段階的成立論】
- 2回 在原業平について【三代実録】
- 3回 初冠から辞世まで【一代記的構成】
- 4回 二条后章段における主人公像(1) - 第4段【禁忌】
- 5回 二条后章段における主人公像(2) - 第5段【禁忌】
- 6回 二条后章段における主人公像(3) - 第6段【禁忌】
- 7回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 8回 伊勢斎宮章段における主人公像(1) - 第69段その1【王権侵犯】
- 9回 伊勢斎宮章段における主人公像(2) - 第69段その2【王権侵犯】
- 10回 付随章段群における主人公像【色好み】
- 11回 東下り章段の構造 - 第9段その1【挫折と決意】
- 12回 4つの場面における主人公像 - 第9段その2【望郷】
- 13回 付随章段群における主人公像【流浪と放逸】
- 14回 古今和歌集との関係【史実と虚構】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 30% 試験... 70%
出席が3分の2に満たない者は、試験を受けられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げる章段について、本文を熟読して問題点の所在を確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランスに関する幅広い情報をフランス語で学びます。フランス語レベルは仏検3～2級程度。現在のフランスの姿を知ることができます。キーワード・・・フランスをフランス語で学ぶ。

教科書 /Textbooks

『時事フランス語2010』（クリスチャン・ボームルー著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全20課。現代フランス社会の様々な側面を伝える内容です。フランス語レベルは仏検3～2級程度。進み方は原則1回1課。毎回復習の小テストを実施。

- 1回 顔合わせ。授業のやり方についての打ち合わせ。プリントを用いたの小講読。
- 2回 1課：ブーム！日本文化
- 3回 2課：エッフェル塔 120歳
- 4回 3課：ルノワール 飽くなき探求者
- 5回 4課：点字の発明者 ブラーユ
- 6回 5課：くず屋のシスター
- 7回 6課：ハートのレストラン
- 8回 7課：フランスも当たり年 ノーベル賞
- 9回 8課：ベタンクはいかが？
- 10回 9課：太平洋の楽園
- 11回 10課：シャンパーニュとシャンペン
- 12回 11課：よみがえる巡礼
- 13回 12課：パックスって何？
- 14回 13課：母の名はX・・・
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※履修中に仏検3級合格者には最低Cを、準2級合格者にはBを、2級合格者にはAを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化講読【昼】

担当者名 岩本 真理子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツの社会事情や文化的背景に関するドイツ語テキストを読むことで、ドイツ文化理解を深めると共に、ドイツ語読解力を高める。

教科書 /Textbooks

「太郎のモーゼルの旅」(市川 明 朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 助言を与える・ドイツの食文化
- 2回 相手の発言をさえぎる・ドイツの歴史
- 3回 道を尋ねる・ドイツの思想家
- 4回 訪問の際の会話・ドイツ流礼儀作法
- 5回 自己紹介・人の紹介の仕方
- 6回 お祝いの表現・ドイツの習慣
- 7回 両替・ヨーロッパの通貨
- 8回 切符の購入・ドイツの娯楽
- 9回 経歴の表現・ドイツの学制
- 10回 朝の挨拶・ドイツの家庭やホテル
- 11回 注意と警告・自己責任の国ドイツ
- 12回 別れる際の表現・ドイツの観光スポット
- 13回 丁寧な依頼・ドイツの城
- 14回 連絡の取り方・ドイツの交通機関
- 15回 許可を求める表現・ドイツの文学

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語読解能力があることが前提。必ず独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ文化研究に必要な総合的能力を習得する事を目標とし、ドイツ文化に関する情報収集などの訓練を行う。

教科書 /Textbooks

「授業中にプリントを配布する。」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「授業中にプリントを配布する。」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 ドイツ文化の基礎知識を身に付けよう
- 4～6回 情報の集め方
- 7～8回 研究発表とレポート提出
- 9～11回 資料の読み方
- 12～14回 研究発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本美術史入門書の講読・要約・学習を行うことによって、日本美術史の基礎を通史的に学習する。具体的には、各時代の担当者を決めて、その時代の美術的な特色や代表的な作品について調べて発表してもらう。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の確認、各自の担当箇所決定
- 2回 日本絵画の見方入門
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 5回 四年生の卒論構想発表会への参加
- 6回 飛鳥～白鳳時代の担当者の発表
- 7回 奈良時代の担当者の発表
- 8回 平安時代前期の担当者の発表
- 9回 平安時代中期の担当者の発表
- 10回 平安時代後期の担当者の発表
- 11回 江戸時代前期の担当者の発表
- 12回 江戸時代中期の担当者の発表
- 13回 江戸時代後期の担当書の発表
- 14回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習
- 15回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず事前にテキストを読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学 = 北九州市立自然史・歴史博物館連携の科目として博物館所蔵資料の整理を行うとともに、博物館での展示を企画準備します。また北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料を『スクール・ミュージアム』として学校開放日と授業のために展示し解説を行います。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献のまとめの回に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 博物館でのガイダンス①
- 3回 博物館でのガイダンス②感想レポート提出
- 4回 博物館での資料整理①
- 5回 博物館での資料整理②
- 6回 博物館での資料整理③
- 7回 文献のまとめ
- 8回 4年生の卒論構想発表①
- 9回 4年生の卒論構想発表②
- 10回 博物館での資料整理④
- 11回 博物館での資料整理⑤
- 12回 博物館での資料整理⑥
- 13回 博物館での資料整理⑦
- 14回 小学校でのガイダンス 感想レポート提出
- 15回 学内でのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 発表...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

火曜午前10時に博物館に集合すること。
9月に学外授業として1～2泊で展示のミニ研修と調査を行うので必ず参加して下さい。
8～9月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本文化) 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

年中行事をテーマとする。正月、雛祭り、七夕、お盆、様々な祭りなど、年中行事は今日の我々の生活にとっても親しみ深い習俗である。平安時代の年中行事を中心に、今日に至るまでの各時代の変遷を押さえながら、それぞれの年中行事の意義について考えていきたい。各自、個別の年中行事を担当してもらい、年中行事書・儀式書や民俗学の研究成果などを材料に報告してもらう。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山中裕『平安朝の年中行事』(塙書房・塙選書)
柳田國男『年中行事覚書』(講談社学術文庫)
『平安時代儀式年中行事事典』(東京堂出版)
『全国年中行事事典』(東京堂出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 平安時代の年中行事の概要【年中行事】【祭】【仏事】
- 3回 年中行事の研究方法(1)
- 4回 年中行事の研究方法(2)
- 5回 受講生による研究発表
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
前期は、文献購読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。受講者は、最終的には2学期に取り組みたいテーマの選定を目指す。
ゼミのキーワードは、身体(声)、メディア、コミュニケーション、芸能(演技)、ポピュラーカルチャーなどである。現代の問題にひろく関心を向けながらも、歴史的な視点を重視する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。なお論文には、研究方法を学ぶために英語論文を含むことがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 文献購読 グループ発表
- 9回～14回 文献購読 個人発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「大式三位集」を読む。大式三位とは、かの紫式部の娘で、平安中期の歌人としても名高い。その家集が「大式三位集」あるいは「藤三位集」である。自筆本は現存しないが、近年冷泉家の時雨亭文庫から発見された写本の影印本により、全63首を丁寧に読む。それによって、歌風・表現や人的交流の実態を探る。

教科書 /Textbooks

上記影印本の複写プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記影印本の複写プリント

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業(1・ 2 番歌)
- 3回 担当者による発表と質疑(3・ 4 番)
- 4回 同上(5・ 6 番)
- 5回 同上(7・ 8 番)
- 6回 同上(9・ 10 番)
- 7回 同上(11・ 12 番)
- 8回 同上(13・ 14 番)
- 9回 同上(15・ 16 番)
- 10回 同上(17・ 18 番)
- 11回 同上(19・ 20 番)
- 12回 同上(21・ 22 番)
- 13回 同上(23・ 24 番)
- 14回 同上(25・ 26 番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% レポート 50%
無断欠席は不可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予定部分について予め翻字(第1回に説明)しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近世（江戸時代）初期の小説である仮名草子の中から、『竹斎』を読みます。各回毎に、ゼミ生の皆さんの中から担当を決め、口語訳などのレジュメを作成したものを発表していただきます。
同時に、近世初期の道行文（紀行文）の先駆けであり、『東海道名所記』『東海道中膝栗毛』などに影響を与えた当作品の特徴といえる、作者の狂歌的な発想、修辞によるパロディなどを見ていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。（『假名草子集（日本古典文学大系90）』より抜粋します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「『竹斎』の成立 - 仮名草子の時好性」(松田修、『国語国文』昭和32年3月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仮名草子とは
- 3回 『竹斎』について
- 4回 教員による演習
- 5回～15回 『竹斎 上』ゼミ生による演習発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表...80%、演習に臨む態度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『日本古典文学大辞典』（岩波書店）などで、『竹斎』について調べてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks
ゼミで作成したものを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業中に必要に応じて文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 ガイダンス
2回～15回 4年生の発表を聞き、内容に関して質疑応答をしつつ、研究方法や発表の仕方、発表のポイントなどについて身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method
質疑応答への発言の程度... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の小説を読んでいく。一作ずつ丁寧に読み進めながら、「読解」から「解釈」することにむけてのレベルアップをはかる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的、手順等について概説。語釈担当の順番の決定。
第2回～15回 とりあげた作品についてのコメントを全員述べ、議論していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (日本語学) 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を中心に講義を行ないます。
第1回 演習の運営方針と発表予定について
第2回 国語学・日本語学研究とは
第3回～14回 各人の発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% レポート...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『豚の死なない日A Day No Pigs Would Die』は、【シェーカー教徒】の貧農の家に生まれた少年ロバートが【生きるということ】と家族の絆の大切さを学ぶ作品だ。父は毎日豚を殺す。職業に貴賤はないが、やらなければ生きていけないという状況は辛い。人が【働く】ということとは何か？人はなぜ【働く】のか？現代では、【労働】と呼ばれ、金を稼ぐためのだけの労苦となった。資本主義社会では働くことの意味は危機に瀕している。本来、生きるための労苦だけではなかったはずだ。だが良い仕事とは何か？今、勤勉であることが良い仕事を決定づけるのでもなければ、働くことを意味するのでもない。しかし、今、人は働くことの真の意味について無頓着ではない。『豚の死なない日』で読み解くべき現代的テーマはそこにある。金原氏の翻訳は、原著で醸しだされる雰囲気やリズムをかなりの精度で捉え、素晴らしい日本語として結実させている。だが翻訳は素晴らしい。特に【翻訳】や通訳の仕事をめざそうと考えている人たちに読んでいただきたい作品だ。

教科書 /Textbooks

Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』 (白水社Uブックス) 他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめ—ゼミの発表とレポートの書き方、提出方法など
- 2回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第1～5章
- 3回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第5～10章
- 4回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第11～15章
- 5回 Robert Newton Peck : A Day No Pigs Would Die第16～最終章
- 6回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)序【人間にとって労働とは】
- 7回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)I～II章【労働観の系譜】
- 8回 清水正徳著『働くことの意味』(岩波新書)III～結び【現代社会と働くことの意味】
- 9回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』I～II章【労働倫理】
- 10回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』III～IV章【良い仕事】
- 11回 杉村芳美著『「良い仕事」の思想：新しい仕事倫理のために』V～VI【善い行い】
- 12回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫1～3章【肉、牛、豚】
- 13回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫4～6章【馬、牛肉、牛乳】
- 14回 マーヴィン・ハリス：『食と文化の謎』岩波現代文庫7～9章【昆虫、ペット、人肉】
- 15回 まとめ—最終レポート(小論文)の書き方、提出方法など

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(50%)とレポート(50%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (英米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一緒に語り合います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ（心理、差別、自然、生と死、愛、機械など）に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向を掴むと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。（講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。）

*ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

*ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します（作品は主に翻訳を利用します）。参考文献は適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、今後の流れの説明、その他
- 2回 「振子と陥穽」 by E.A.Poe
- 3回 「インディアン・キャンプ」 by E. Hemingway
- 4回 「若いグッドマン・ブラウン」 by N. Hawthorne
- 5回 「王女の誕生日」 by O. Wilde
- 6回 「プリルさん」 by K. Mansfield
- 7回 「島を愛した男」 by D.H.Lawrence (内容確認など、問題点の確認)
- 8回 「島を愛した男」 (議論)
- 9回 「無蓋ボート」 by S. Crane (内容確認など、問題点の確認)
- 10回 「無蓋ボート」 (議論)
- 11回 「動物農場」 by G. Orwell
- 12回 「笑うサム」 by W. Saroyan
- 13回 「家族の絆」 by 渡邊浩式
- 14回 デイベートの説明 (合宿に備えて)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・30% レポート・・・50% 平常点(発表、討論の参加など)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、議論のための資料、参考文献等を読み、配布資料を準備した上で授業に臨んで下さい。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、昨年は、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ、ロボット』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジュメの作成の仕方の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり
- 3回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 4回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 5回 『ハックルベリー・フィンの冒険』に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を数名割り振り、B4のレジュメを作成してもらった上で、レジュメの解説をゼミの時間をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (フランス文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習のねらいは次の通りです。
 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 2) 幸福について考える。
 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
 キーワードはフランス文化と幸福です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 顔合わせ。演習の進め方、目標、発表割り当て等の打ち合わせ。
- 2回 発表 1
- 3回 発表 2
- 4回 発表 3
- 5回 発表 4
- 6回 発表 5
- 7回 発表 6
- 8回 発表 7
- 9回 発表 8
- 10回 発表 9
- 11回 発表 10
- 12回 発表 11
- 13回 発表 12
- 14回 発表 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは原則各人が決める。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い。
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (スペイン史) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは歴史学からのスペイン研究です。わが国でこれまで蓄積された参考文献案内をはじめ、テキストにそって、多様な地域からなるスペインの歴史や文化に接近し、スペインの理解を深めます。ゼミ参加者の関心あるテーマに関する報告もしていただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
- 福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 スペイン中世における諸地域の形成
- 3回 西欧のなかの中世イベリア世界
- 4回 中世スペイン：テキストの輪読(1)
- 5回 中世スペイン：テキストの輪読(2)
- 6回 近世スペインの国家と地域
- 7回 大航海時代のスペイン
- 8回 近世スペイン：テキストの輪読(1)
- 9回 近世スペイン：テキストの輪読(2)
- 10回 スペイン王国の構造
- 11回 啓蒙の時代
- 12回 近代スペイン：テキストの輪読(1)
- 13回 近代スペイン：テキストの輪読(2)
- 14回 近代の幕開け
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50% 報告など... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に読むこと。授業中は質疑応答などを通して積極的に参加する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多民族社会における多言語・多文化の社会現象、対立や共生について理解を深めること、
研究発表・論文作成のための基本的ルール・技能の習得、を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東照二『バイリンガリズム』講談社、2000年；三浦義孝編著『多言語主義』藤原書店 1997年
宮永國子『グローバル化とアイデンティティ』世界思想社 2000年
『民族に関する基礎研究』I、II 総合研究開発機構、1994年、1996年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 2回 輪読テキストの選択、要約文のまとめ方説明、
- 3回 - 6回 文献の輪読、要約発表
- 7回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 8回 国語教育関係のビデオ鑑賞：内容についての議論
- 9回 - 12回 文献の輪読、要約発表
- 13回 要約発表における重要事項・重要用語のまとめ
- 14回 - 15回 文献・資料検索方法、研究テーマ選択、レポート・論文作成法などの指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会言語学、民族文化関係の書を複数冊読んで、専門用語や内容を理解し、授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (比較ドイツ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 の続き。1 学期に習得した知識を応用し、各人が研究テーマを設定して、ドイツ文化研究を深める訓練を行う。

教科書 /Textbooks

「授業中にプリントを配布する。」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ~ 3 回 ドイツ文化の知識・応用編 1
- 4 ~ 6 回 研究発表とレポート提出
- 7 ~ 8 回 ドイツ文化の知識・応用編 2
- 9 ~ 11 回 資料の利用法研究
- 12 ~ 14 回 研究発表と質疑応答
- 15 回 2 学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に美術史の通史を学習した際に興味をもった作品あるいは画家を各自一つずつ選び、その作品の概要(画像・材質・技法など)・研究史・残された問題点をまとめて発表する。それによって、文献の集め方、先行研究のまとめ方、美術史的研究方法を習得する。また、最後の数は、平安時代の文献の講読を行う。
尚、博物館・美術館への見学も盛り込む予定である。

教科書 /Textbooks

講読について文献は事前にコピーして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の手順の説明、発表する作品あるいは画家の決定
- 2回 夏休みに講読した美術史入門書についての意見交換会
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 博物館あるいは美術館見学
- 5回 発表とディスカッション
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 『七大寺巡礼私記』講読
- 14回 『七大寺巡礼私記』講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、講読については必ず予習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1 北九州市立大学 = 北九州市立自然史・歴史博物館連携の科目として博物館所蔵資料の整理を行うとともに、博物館での展示を企画準備します。また北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料を『スクール・ミュージアム』として学校開放日と授業のために展示し解説を行います。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

展示準備とテーマ報告の2種類を作成する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 学外授業宿題・レポート提出
- 2回 博物館資料の分析①
- 3回 担当コーナーの決定
- 4回 プレゼン準備①
- 5回 博物館課内プレゼン①
- 6回 プレゼン準備②
- 7回 プレゼン準備③
- 8回 4年生卒論経過報告①
- 9回 4年生卒論経過報告②
- 10回 3年生テーマ報告①
- 11回 3年生テーマ報告②
- 12回 プレゼン準備④
- 13回 博物館課内プレゼン②
- 14回 博物館最終プレゼン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 火曜午前10時に博物館に集合すること。
10月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。
2～3月に博物館で展示準備を行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本文化) 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き年中行事をテーマとする。2学期は1学期の成果を踏まえて、さらに問題点を掘り下げていく。また中国の年中行事と日本古代の年中行事の比較にも取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

授業の場で適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中村裕一『中国古代の年中行事』全4冊(汲古書院)
中村裕一・布目潮風・守屋美津雄編『荆楚歳時記』(平凡社・東洋文庫)
渡部武編『四民月令』(同上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の年中行事書について【年中行事】
- 3回 受講生による研究発表
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたっては、事前に発表内容について報告し相談をうけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (メディア文化) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化・民衆文化についての研究レポートを作成することが目標となる。後期は、前期演習をふまえて、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 受講生の発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 20% 発表... 40% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込みます。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の「演習A - 1」に引き続き、「大式三位集」を読む。科目名はA - 1・A - 2と異なるかに見えるが、実際は一連のものであるので注意すること。

教科書 /Textbooks

同じく影印本の複写を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に同じ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者による発表と質疑 (27・28・29番歌)
- 2回 同上 (30・31・32番)
- 3回 同上 (33・34・35番)
- 4回 同上 (36・37・38番)
- 5回 同上 (39・40・41番)
- 6回 同上 (42・43・44番)
- 7回 同上 (45・46・47番)
- 8回 同上 (48・49・50番)
- 9回 同上 (51・52・53番)
- 10回 同上 (54・55・56番)
- 11回 同上 (57・58・59番)
- 12回 同上 (60・61番)
- 13回 同上 (62・63番)
- 14回 後半のまとめ
- 15回 全体の総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

1学期に同じ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これも同様。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本古典文学) 【昼】

担当者名 園田 豊 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近世（江戸時代）初期の小説である仮名草子の中から、『竹斎』を読みます。各回毎に、ゼミ生の皆さんの中から担当を決め、口語訳などのレジュメを作成したものを発表していただきます。
同時に、近世初期の道行文（紀行文）の先駆けであり、『東海道名所記』『東海道中膝栗毛』などに影響を与えた当作品の特徴といえる、作者の狂歌的な発想、修辞によるパロディなどを見ていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

プリント配布。（『仮名草子集（日本古典文学大系90）』より抜粋します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「『竹斎』の成立 - 仮名草子の時好性」（松田修、『国語国文』昭和32年3月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 『竹斎 下』ゼミ生による演習発表
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表... 80%、演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『日本古典文学大辞典』（岩波書店）などで、『竹斎』について調べてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 赤塚 正幸 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究方法の習得

教科書 /Textbooks

加納朋子『ななつのこ』（創元推理文庫）
川上弘美『神様』（中公文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 上記2冊の短篇集から、作品を1編選び選んだ作品に関して発表する。
文学作品を「読む」ということを身につけていく

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 発表にたいする質疑... 20% (すべて予定)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本近代文学) 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治・大正期の文学を主に扱う。一作ずつ丁寧に読み進めながら、研究の基本的な手続きを学ぶことを目的とする。とくに卒論テーマの決定を視野に入れての授業となる。

教科書 /Textbooks

ゼミ生各自が発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史に関する本。
- 「明治文学全集」
- 「新日本古典文学大系 明治編」
- 「編年体大正文学全集」
- 「昭和文学全集」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の目的、手順等について概説。演習担当予定表の作成。
- 第2回 模範演習。
- 第3回～15回 受講者による演習。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (日本語学) 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を中心に講義を行ないます。
第1回 演習の運営方針と発表予定について
第2回 研究論文を執筆すること
第3回～第14回 各人の発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に『豚の死なない日』を読んだのち、【働く】とはどういう意味を持つのか、を議論し、やっと「労働」の対価である食にありつける。『豚の死なない日』で、人間の肉食への異常な欲求と、その反対に屠殺への嫌悪を学ぶと、【肉食】とは何か、その反対の、【菜食】主義とは何かを知りたくなろう。世紀のヒロイン「ダイアナ妃」も菜食主義者であった。彼女は、無差別に人を殺害する非人間的な兵器である地雷の撤去運動に熱心な心優しい人であったが、その一方で、世紀の人殺し、ホロコーストの無情なファシスト、ヒットラーも菜食主義者であった。肉食が人間の闘争心を掻き立てるのも事実だが、菜食がいいというわけでもない。

教科書 /Textbooks

Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』他。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらに必要なものは授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに—論文の書き方
- 2回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 3回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 4回 Chaima Potok (ハイム・ポトク) : Zebra and Other Stories 『ゼブラ』
- 5回 20世紀アメリカ社会と【ファーストフード】と【ディズニーランド】と【アメリカ文化】
- 6回 【ファーストフード】と【マクドナルド】
- 7回 ヨーロッパと【スローフード】運動とカリフォルニアの【有機野菜】と【地産地消】運動
- 8回 イタリアの小さな町のアメリカの【ファーストフード】に対抗した【スローフード】運動
- 9回 【スローフード】運動は単に田舎の【手作り】の食べ物を保守する運動ではなかった。
- 10回 【ファーストフード】のアメリカ機械文明が生み出した社会や文化に対する反対運動の基軸
- 11回 日本の【スローフード】運動と【菜食主義】
- 12回 アメリカの【ベルトコンベア式】大量生産方式と【大量消費】時代の幕開け
- 13回 【冷凍食品】と【価格革命】、【安い肉】(粗悪な肉)、【安い労働力】(パートタイマー)
- 14回 【大量生産】と大農場と安い【パート】や【外国人労働者】
- 15回 まとめ—レポートの書き方から卒論の書き方へ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 (50%) とレポート (50%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献は、図書館の指定図書コーナーにある。さらに必要な参考書はその都度指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (英米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一緒に語り合いたいと思います。工期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自自分にあった方法を見出してもらいたいと思います。最後に卒論について説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。

* ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

* ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

プリントを配布します(作品は主に翻訳を利用しようと考えています)。参考文献は適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
- 2回 作品の第1パートの内容確認と議論
- 3回 作品の第2パートの内容確認と議論
- 4回 作品の第3パートの内容確認と議論
- 5回 作品の第4パートの内容確認と議論
- 6回 作品の第5パートの内容確認と議論
- 7回 作品の第6パートの内容確認と議論
- 8回 作品の第7パートの内容確認と議論
- 9回 作品の第8パートの内容確認と議論
- 10回 作品の第9パートの内容確認と議論
- 11回 作品の第10パートの内容確認と議論
- 12回 作品の第11パートの内容確認と議論
- 13回 作品の第12パートの内容確認と議論
- 14回 論文の書き方、ノート作りについて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備...30% レポート...50% 平常点(発表、討論の参加など)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者になった場合は、議論のための資料、参考文献等を読み、配布資料を準備した上で授業に臨んで下さい。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学、アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究のゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考えていきます。アメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、昨年は、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『アイ・アム・サム』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ、ロボット』、『エリン・ブロコビッチ』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容を各自が発表
- 2回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 8回 キャリアセンターの先生を交えての懇談会
- 9回 4年生を招いての懇談会
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論
- 14回 まとめ、春休みの課題レポートに関する説明
- 15回 卒論執筆に関する指導。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...50% 発表...20% 夏休み明け提出のレポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、担当者を数名割り振り、B4のレジユメを作成してもらった上で、レジユメの解説をゼミの時間をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (フランス文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、演習のねらいは次の通りです。
 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 2) 幸福について考える。
 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
 キーワードはフランス文化と幸福です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 休暇中課題の発表。演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 発表 1
- 3回 発表 2
- 4回 発表 3
- 5回 発表 4
- 6回 発表 5
- 7回 発表 6
- 8回 発表 7
- 9回 発表 8
- 10回 発表 9
- 11回 発表 10
- 12回 発表 11
- 13回 発表 12
- 14回 発表 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 50% レポート・・・ 40% 休暇中の課題・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは原則各人が決める。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (アメリカ文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国の諸問題などについて各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い。
- 2回 卒論の書き方などについての説明。
- 3回 受講者による発表・討議。
- 4回 受講者による発表・討議。
- 5回 受講者による発表・討議。
- 6回 受講者による発表・討議。
- 7回 受講者による発表・討議。
- 8回 受講者による発表・討議。
- 9回 受講者による発表・討議。
- 10回 受講者による発表・討議。
- 11回 受講者による発表・討議。
- 12回 受講者による発表・討議。
- 13回 受講者による発表・討議。
- 14回 受講者による発表・討議。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、授業への貢献度、発表内容で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (スペイン史) 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 A - 1 では、主に近世のスペインを扱いましたが、このゼミでは、近現代のスペインにかかわるテーマに焦点を絞りこみます。テキストに
そってスペインの社会、地域や国家の問題を学びますが、ゼミ参加者の関心にそったテーマについて報告していただきます。

教科書 /Textbooks

- 立石博高ほか編『スペインの歴史』昭和堂、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて文献を紹介します。以下は、授業と関連する有用な本。
○福井憲彦『ヨーロッパの社会史』岩波書店、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的な講義とゼミの進め方
- 2回 19世紀前半のスペイン：自由主義とロマン主義
- 3回 19世紀のスペインの社会・経済
- 4回 テキストの輪読(19世紀)
- 5回 テキストの輪読・コラム欄
- 6回 文献案内
- 7回 スペインの「近代」について
- 8回 ゼミ生の報告会(1)
- 9回 ゼミ生の報告会(2)
- 10回 19世紀末のスペイン
- 11回 地域問題：アンダルシアとカタルーニャ
- 12回 地域問題：バスク(ビデオ)
- 13回 テキストの輪読(20世紀)
- 14回 現代スペイン社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50 % 発表... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは事前に通読する。特殊な歴史学用語は、たとえば、『世界史辞典』(角川)やその他の辞典類で調べること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 (ロシア文化) 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多言語・多文化の社会現象、比較文化に関する研究テーマ選択の指導を行い、論文作成のための基本的ルール・技能の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 3回 夏休み課題レポートの発表
- 4回 課題レポートにおける重要概念について議論
- 5回 - 10回 研究テーマ選択指導、研究テーマ関連の文献資料について指導・報告
- 11回 - 15回 研究テーマの構成・見出し語の立て方、論文作成法指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート・論文作成法に関する書を

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人がテーマを設定してドイツ文化研究を進め、その成果を論文にまとめる準備をする。

教科書 /Textbooks

授業中に随時プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 論文の書き方
- 3～5回 論文テーマ発表と討論
- 6～7回 資料収集と利用法 1
- 8～9回 中間報告会
- 10～11回 資料収集と利用法 2
- 12～14回 研究発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめとレポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自に卒業論文の構想発表を行ってもらい、先行研究にきちんと目を通してあるか、研究史を踏まえた上で明らかにすべき問題を設定しているか等を確認する。

尚、「演習 A - 1」と合同で行うので、卒論構想発表を終えた後は、テキストに基づく発表のディスカッションに参加すること。

教科書 /Textbooks

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論構想発表会の手順の確認
- 2回 卒論構想発表会の準備
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 卒論構想発表会
- 5回 卒論構想発表会
- 6回 三年生の飛鳥～白鳳時代担当者の発表
- 7回 三年生の奈良時代担当者の発表
- 8回 三年生の平安時代前期担当者の発表
- 9回 三年生の平安時代中期担当者の発表
- 10回 三年生の平安時代後期担当者の発表
- 11回 三年生の江戸時代前期担当者の発表
- 12回 三年生の江戸時代中期担当者の発表
- 13回 三年生の江戸時代後期担当書の発表
- 14回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習
- 15回 京都・奈良への見学旅行に向けての事前学習

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容... 60% 数回のレポート... 20% 授業への参加態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自が何について発表するかは周知するので、発表者以外の者も、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、三年生の発表に参加する際には、必ず事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次に行った北九州市立自然史・歴史博物館所蔵資料の展示を完成させるとともに、北九州市立戸畑中央小学校所蔵資料の展示を3年生に引き継ぎます。
さらに卒業論文の準備を行いテーマと題目を決定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の論文を参考にしてください

- 『岩波講座日本歴史』(新旧2種類)(岩波書店)
- 『岩波講座日本通史』(岩波書店)
- 『日本の近世』全18巻(中央公論社)

また各自で卒論に必要な文献目録を作り提出してください

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 大学でのガイダンス
- 2回 博物館でのガイダンス①
- 3回 博物館でのガイダンス②
- 4回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導①
- 5回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導②
- 6回 卒論題目の決定と博物館での資料整理の指導③
- 7回 卒論題目の決定と文献のまとめ 5月下旬より4回個別に行う
- 8回 卒論題目の提出と構想発表①
- 9回 卒論題目の提出と構想発表②
- 10回 博物館での資料整理の指導④
- 11回 博物館での資料整理の指導⑤
- 12回 博物館での資料整理の指導⑥
- 13回 博物館での資料整理の指導⑦
- 14回 小学校でのガイダンスと展示安のまとめ
- 15回 学内でのまとめ プレ卒論(原稿用紙10枚分提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

プレ卒論50% 発表...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

火曜午前10時に博物館に集合すること。

9月に3年生と一緒に学外授業として1~2泊で展示のミニ研修と調査を行います。

8~9月に小学校での展示替えを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。
【日本文化】 【宗教文化】

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学ぶにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒業論文作成にむけての発表
- 15回 まとめ

特になし。昨年度に続き、各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
藤原道信は平安中期に生きた典型的な王朝歌人の一人で、しかも夭折したため、その歌才を惜しまれた。詠作期間は数年にも関わらず、勅撰集に多く入集しているのも頷ける。ではその和歌はどのようなものであり、そこから伺える道信の半生はいかなるものであったかを追究する。

教科書 /Textbooks

榊原家本の影印本のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教員による模範授業 (1・ 2・ 3 番歌)
- 3回 受講生による発表と質疑 (4・ 5・ 6 番) 以下同じ。
- 4回 (7・ 8・ 9 番)
- 5回 (10・ 11・ 12 番)
- 6回 (13・ 14・ 15 番)
- 7回 (16・ 17・ 18 番)
- 8回 (19・ 20・ 21 番)
- 9回 (22・ 23・ 24 番)
- 10回 (25・ 26・ 27 番)
- 11回 (28・ 29・ 30 番)
- 12回 (31・ 32・ 33 番)
- 13回 (34・ 35・ 36 番)
- 14回 (37・ 38・ 39 番)
- 15回 前半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

無断欠席は不許可。発表 = 50% レポート = 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 大場 卓也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

江戸時代前（元禄）期の浮世草子作者井原西鶴の作品を読みます。
キーワードは俳諧的文章、滑稽です。

教科書 /Textbooks

浮橋康彦編『西鶴全作品エッセンス集成』和泉書院（2002年8月）、2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『定本西鶴全集 全14巻』中央公論社
- 『井原西鶴集 ①～③』（日本古典文学全集）小学館
- 『対訳西鶴全集』明治書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 『日本永代蔵』①初午は乗てくる仕合
- 2回 『日本永代蔵』②二代目に破る扇の風
- 3回 『日本永代蔵』③世界の借家大将
- 4回 『日本永代蔵』④世はぬき取の観音の眼
- 9回 『日本永代蔵』⑤茶の十徳も一度に皆
- 10回 『世間胸算用』①鼠の文つかひ
- 11回 『世間胸算用』②訛言も只是かかぬ宿
- 12回 『世間胸算用』③門柱も皆かりの世
- 13回 『世間胸算用』④小判は寝姿の夢
- 14回 『世間胸算用』⑤平太郎殿
- 15回 まとめ

※必ずしもこの通りにゆかない場合もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表... 80% 演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館には西鶴関係の文献がたくさんあります。その中から少なくとも一冊は読むことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近代文学の研究手法の習得と卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

各自が卒業論文で論ずる作家の短編を1篇提出し、提出された作品を印刷してテキストとして作成しゼミ生全員に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

3年生、4年生合同で実施する

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 卒業論文を見据えつつ、自分が論ずる作家の作品を資料として、作家研究、作品研究などについて発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 質疑への応答... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回～第8回 各人の発表
- 第9回 資料編の作成方法
- 第10回～第14回 各人発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年演習で、『No Pigs Would Die豚の死なない日』を読み、豚学について学んだ。豚（イノシシ）は本来森にすみ（今でも、最高級の豚は森（林）で飼われている。豚は、人類が最もよく食べ、愛した肉であった。欧米人はハムとソーセージを愛し、アメリカでは20世紀初頭までは、豚肉が牛肉よりも好まれて食べられていた。豚肉の生産量の方が牛肉の生産量より多かった。それを変えたのは、ハーバークなどファーストフードである。

教科書 /Textbooks

必要な「資料」は毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の指定図書コーナーにあり、さらに必要な参考文献はその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期は3年ゼミの「食」の延長で、食文化等を学ぶ。
- 第2回 中国（中華料理）やアジア料理は【豚肉】によって発達したと言っても過言ではない。
- 第3回 一方、【聖書】が豚を忌まわしいものとし、ユダヤ教徒やイスラム教徒では豚は嫌われた。
- 第4回 人類は【Hunting（殺戮）】なしには古代では生きられなかった。
- 第5回 現代でも人は狩猟と【農作】なしには生きられない。多数の人はサラリーを貰って生きているが、実は、代わりに農業と水産と牧畜業をしてくれているのである。
- 第6回 生きていくための最低限のラインがそこにある。【食文化】こそが生命である。
- 第7回 【食文化】において、今最も重要な運動が【スローフード】運動である。
- 第8回 『食と文化の謎』を通して、世界の食と文化のタブー（最大のタブーであるカーニバルを含む）について学ぶ。
- 第9回 それはイタリアの小さな町から世界に向かって発信された食文化運動であると言うだけでなく、反米・反【ファーストフード】運動でもあった。
- 第10回 必然的に【スローフード】運動は、反【大量生産】・反【大量消費】運動である。
- 第11回 また、反【機械文明】運動であり、【伝統的な食】の保守、【小さな生産農家】の保護、【小さな消費】を目指す運動であった。
- 第12回 【巨大な企業】より、【小さな生産】を大事にするのがその基本姿勢である。
- 第13回 各自が自分の町の【食文化】について調査、発表する。
- 第14回 そして、徐々に「卒論」指導へと移行していきたい。
- 第15回 まとめ「卒論の書き方」

成績評価の方法 /Assessment Method

発表（40%）とレポート（60%）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんとじっくり語り合いたいと思います。4年次では、大学4年間の総決算ともいえるべき卒論の指導をします。1学期には、9月に行う中間発表を目指して、原則として個別（あるいはグループ）指導で、扱いたいテーマ、作品を決定し、おおまかなレポートを提出してもらいます。この学期は、9月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。（講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。）

*ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*コンピュータを用いてゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマや作家に応じて3～4名程度のグループ分けをし、前期の方針の確認をします。
(グループ毎に日程を調整して、毎週集まります。)
- 2回 それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表します。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 7回 グループ毎の活動を通して卒論の題目の決定。
- 8回 各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ、決定します。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論をします。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 14回 夏休み期間の過ごし方について、また、中間発表の準備をします。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 対面式 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

春休み明けに提出してもらう卒論の構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせて、個別指導を行ないます。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。卒論執筆に関して疑問が生じた際には、いつでも、指導を行います。就職活動に関する相談にも、知識のおよぶ限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 2回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 3回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 4回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 5回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 6回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 7回 卒論のテーマの決定に関する個別指導
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 11回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 12回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 13回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 14回 卒論の全体的構成に関する個別指導
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習のねらいは3年次と変わりませんが、卒論に向けた勉強が主になります。

- 1) フランス文化について知識、理解を深める。
 - 2) 幸福について考える。
 - 3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
- キーワードは、「フランス文化と幸福を卒論に」です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 休暇中課題の発表。演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 全員、卒論テーマの予定(二つ以内に絞って)の発表。一人5分程度。
- 3回 発表1
- 4回 発表2
- 5回 発表3
- 6回 発表4
- 7回 発表5
- 8回 発表6
- 9回 発表7
- 10回 発表8
- 11回 発表9
- 12回 発表10
- 13回 発表11
- 14回 発表12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・ 50% レポート・ 40% 休暇中課題・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは卒論テーマと関連するもの。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミは、歴史学からの「スペイン研究」です。比較史の視点からスペインと同じラテン系のイタリア・フランスの近代も扱います。とくにゼミ生の卒業論文のテーマを考慮に入れて、柔軟に授業を進めます。できるだけ共通のテーマに関する論文を読み、論文作成の作法も習得します。

教科書 /Textbooks

最初の授業でプリントおよび「論文の書き方マニュアル」を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○関哲行ほか編『スペイン史2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的講義：プリント配布と文献案内・ゼミの進め方
- 2回 論文の書き方について（形式）
- 3回 いくつかのモデル論文（配布）：論文構成
- 4回 論文を読む（1）形態
- 5回 論文を読む（2）構造分析
- 6回 論文を読む（3）註など
- 7回 ゼミ生の個別報告（1）
- 8回 ゼミ生の個別報告（2）
- 9回 ゼミ生の個別報告（3）
- 10回 報告会の検証（反省会）
- 11回 卒業論文作成に向けての文献収集について
- 12回 文献表を作成
- 13回 卒業論文の序論を書いてみる
- 14回 ゼミ生のテーマを相互に話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別報告 70% レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の質疑応答には積極的に発言する。資料収集を夏休み前までに済ませる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 4回 卒論テーマの最終的確認、春休み課題発表
- 5回 - 6回 卒論の構成・見出し語の立て方、論文作成法、調査研究方法指導
- 7回 - 15回 卒論テーマ関連の資料収集の発表、資料分析、資料批判

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

教科書 /Textbooks

各人のドイツ文化研究を、論文としてまとめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 論文執筆状況報告会 1
- 3～5回 資料の収集と整理の方法
- 6～7回 論文執筆状況報告会 2
- 8～9回 論文に関する意見交換
- 10～11回 資料収集と整理の方法 2
- 12～14回 論文執筆状況報告会 3
- 15回 最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...60% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「演習A - 2」と合同で行うので、三年生の発表に対するディスカッションに参加すること。
但し、四年生は、それとは別に、卒業論文を書き始め、10月中頃・11月中頃・12月中頃の少なくとも三回以上は提出し、添削・コメントを受けながら、卒業論文の完成を目指してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業論文の進展状況の確認
- 2回 卒業論文の進展状況の確認
- 3回 博物館あるいは美術館見学
- 4回 博物館あるいは美術館見学
- 5回 発表とディスカッション
- 6回 発表とディスカッション
- 7回 発表とディスカッション
- 8回 発表とディスカッション
- 9回 発表とディスカッション
- 10回 発表とディスカッション
- 11回 発表とディスカッション
- 12回 発表とディスカッション
- 13回 『七大寺巡礼私記』講読
- 14回 『七大寺巡礼私記』講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

添削・コメントを踏まえて改善されているかどうか... 60% 数回のレポート... 20%
授業への参加態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

三年生の発表に参加する際には、どのような作品あるいは画家であるか事前に確認しておくこと。また、購読については必ず予習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に演習 B - 1 で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成、提出してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 以後2週間に1度のペースで卒論の経過報告
- 2回 卒論の経過報告①
- 3回 小学校の展示作業指導
- 4回 卒論の経過報告②
- 5回 3年生のプレゼン指導①
- 6回 卒論の経過報告③
- 7回 3年生のプレゼン指導②
- 8回 3年生への卒論経過報告①
- 9回 3年生への卒論経過報告②
- 10回 3年生テーマ報告①
- 11回 3年生テーマ報告②
- 12回 卒論原稿チェック
- 13回 卒論原稿最終チェック
- 14回 博物館最終プレゼン
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

3年生へのコメント・指導50% 卒論準備状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

10月に小学校での展示替えを行うので必ず参加して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世の宗教文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。
【日本文化】 【宗教文化】

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表と討議
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒業論文作成にむけての発表
- 15回 まとめ

特になし。昨年度に続き、各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 河北 靖 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「道信集」を読む。
1学期に引き続き道信の和歌、それを通じて伺える道信の半生を追究する。

教科書 /Textbooks

B - 1を参照

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同前

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者の発表と質疑(40・41・42番歌)以降同様。
- 2回 同上(43・44・45番)
- 3回 同上(46・47・48番)
- 4回 同上(49・50・51番)
- 5回 同上(52・53・54番)
- 6回 同上(55・56・57番)
- 7回 同上(58・59・60番)
- 8回 同上(61・62・63番)
- 9回 同上(64・65・66番)
- 10回 同上(67・68・69番)
- 11回 同上(70・71・72番)
- 12回 同上(73・74・75番)
- 13回 同上(76・77・78番)
- 14回 同上(79・80・81番)
- 15回 後半部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 50% レポート... 50%
無断欠席は不許可

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回分の翻字を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 園田 豊 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に向けての、ゼミ生各自による研究発表と質疑応答。

教科書 /Textbooks

ゼミ生各自のレジユメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ生各自により挙げていただきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 ゼミ生各自の卒業論文研究発表
※必ずしもこの通りにゆかない場合もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表... 80% 演習に臨む態度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館の文献を使って、各自のテーマを見つけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

習得した日本近代文学の研究手法の卒業論文への応用

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4年生のみの卒論指導

1回 ガイダンス

2回～15回 卒業論文で自分が論ずる作家やその作品をもとに、どのように卒業論文を書こうとしているか発表する

成績評価の方法 /Assessment Method

発表の内容... 80% 質疑への応答... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習においては、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。国語学・日本語学についての基礎的な知識や実証的論証方法を習得することを目指します。主に、文法や語義の研究を中心に扱う予定ですが、受講者の興味や関心に従って授業の方針を決定していく予定です。授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なっていく予定です。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、討議を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回～第8回 各人の発表
- 第9回 資料編の作成方法
- 第10回～第14回 各人発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 討議...20% 課題...30%
その他、出席を重視します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期の4年演習は、實際上、卒論指導が主となる。卒論の準備に追われる。卒論は、まず6月に「卒論題目届け」を提出しなければならない。卒論の題目は、基本的には3年の終わり頃までにはほぼ決めておいた方がよい。当ゼミは、基本的にアメリカの文化・文学を主として、日米の文学比較、日米の文化比較をテーマに卒論を書くものが多い。これらの大枠の中で、中枠を決め、そして最終的な「卒論テーマ」を絞り込まねばならない。一見簡単そうだが、比較文化はそもそも大枠が広いので、結構難しい作業である。

教科書 /Textbooks

「卒業論文の書き方」に関する参考文献を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 卒論を書くに当たって—【資料を集める】のが難儀だが、そのコツは。
- 第2回 図書館等(大学、他大学、県立・市立図書館)で【第一次資料】を探す。
- 第3回 自分が決めた【テーマ】に関係する【直接の生の資料】を探す。コピーでも可。
- 第4回 ナマ資料が英語文献であれば、英語の【原書】を収集する。翻訳はできる限り避ける。
- 第5回 他人が本で引いた【引用】の中から、それをまた「引用」するのはできるだけ避ける。
- 第6回 卒論の資料がそろい、いざ書き始めるが、これがなかなか【テーマ】に届かない。
- 第7回 【卒論テーマ】はいわば「城」の天守閣である。そう簡単に攻め落とせるものではない。
- 第8回 まず、お堀を埋めて、そして城壁の石垣を登り、ときに落下し、また、登り...
- 第9回 やっと、【城=卒論テーマ】に入れる。しかし、目指す本丸はまだまだである。
- 第10回 本丸に入るには、まずルールがある。一つ、「服装=【論文の形式】」を整える。
- 第11回 自分のナマの言葉(内容)をそのまま書き殴っても【論文】にはならない。それは感想文かせいぜい普段のリポートに過ぎない。
- 第12回 「内容=中味(心・精神)」のない論文は、【形式】が整っていても読めない。
しかし、一朝一夕に中味(心・精神)はできない。
- 第13回 そういふときの便法は、①基本的な型を覚える。卒論の関する他の研究者の論文を沢山学び、模倣(盗作ではない)すること
- 第14回 ②その際、最低限それらの【論文】に対する賛否をはっきり書き、できれば数行のメモ・コメントを書き残しておく。あとで【卒論】を纏めるとき、コメントが大変役に立つ
- 第15回 ③まず、序論と結論を先に書く。それから本論へと進む。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミにおける発表(50%)とレポート(50%)で判定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。9月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。2学期も、1学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読みあい、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿をより完成度の高い卒論に仕上げていきます。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

- *ゼミ通信や4年生の卒論中間発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。
- *コンピュータを用いてゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認
- 2回 各グループの第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 各グループの第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 各グループの第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 各グループの第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 各グループの第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 各グループの第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 8回 各グループの第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 9回 各グループの第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 各グループの第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 各グループの第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 卒論の内容要約の作成。
- 13回 論集作りについての議論。
- 14回 論集作りについての議論。
- 15回 最終発表会の準備。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを、卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出した卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日時は、ゼミ生の都合に合わせて。日時等は、メールをやり取りすることにより決定します。指導に沿って卒論の下書きを改訂することにより、自然に無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。併せて、就職活動に関する相談にも知識の及ぶ限り応じます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階、階段を上がってすぐのところにある、指定図書コーナー(前田譲治のところ)に多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 章レベルでの個別指導
- 2回 章レベルでの個別指導
- 3回 章レベルでの個別指導
- 4回 章レベルでの個別指導
- 5回 章レベルでの個別指導
- 6回 段落レベルでの個別指導
- 7回 段落レベルでの個別指導
- 8回 段落レベルでの個別指導
- 9回 センテンスレベルでの個別指導
- 10回 センテンスレベルでの個別指導
- 11回 センテンスレベルでの個別指導
- 12回 単語レベルでの個別指導
- 13回 単語レベルでの個別指導
- 14回 単語レベルでの個別指導
- 15回 提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒論指導を受ける前に、メールでアポを取ってください。また、卒論指導に沿って、卒論原稿に加筆修正を加えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 水本 弘文 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き卒論に向けた勉強が主になります。
1) フランス文化について知識、理解を深める。
2) 幸福について考える。
3) テーマに沿って調べ、考え、まとめ、発表する力を養う。
キーワードは、「フランス文化と幸福を卒論に」です。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。必要な場合はプリント配布。各人の発表をもとに進めます

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての打ち合わせ。
- 2回 発表1
- 3回 発表2
- 4回 発表3
- 5回 発表4
- 6回 発表5
- 7回 発表6
- 8回 発表7
- 9回 発表8
- 10回 発表9
- 11回 発表10
- 12回 発表11
- 13回 発表12
- 14回 発表13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2回目以降は一人または二人の発表者(ゼミの人数次第)が一人約20分の発表を行い、その後は質疑応答。発表テーマは卒論テーマと関連するもの。翌週には全員、発表テーマの一つを選んで自分が考えたことをレポートにして提出。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この2学期のゼミは、基本的には卒業論文の経過報告（発表会）です。ゼミ生には3回ほど報告してもらいます。それぞれ異なるテーマの寄せ集めになりますが、このゼミの共同財産という自覚を持ちましょう。

教科書 /Textbooks

B - 1の演習で配布した「論文の書き方」、モデル論文など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ生による卒業論文の進捗状況報告
- 2回 ゼミ生による各自の「序論」の相互発表
- 3回 モデル論文を読む(1)
- 4回 モデル論文を読む(2)
- 5回 個別発表(1)
- 6回 個別発表(2)
- 7回 個別発表(3)
- 8回 論文作成指導(1)
- 9回 論文作成指導(2)
- 10回 個別発表(4)
- 11回 個別発表(5)
- 12回 個別発表(6)
- 13回 教員による個別支援
- 14回 教員による個別支援
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

個別発表の内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の間で相互に刺激しあって、強い意志で卒業論文完成にまい進する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ生が自らの関心により研究課題を見出すこと、そして自ら自身で考え分析し調べる方法を編み出すことが授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 - 4回 夏休み課題発表
- 5回 - 15回 卒論関連の資料収集発表、卒論執筆の点検

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文【昼】

担当者名 未定
/Instructor

履修年次 4年次 単位 6単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義ではまず「文学」という言葉を広義に解釈し、いわゆる詩や劇、小説、散文はもちろんのこと、様々な人間の生き方を包括的に描いているものであれば、漫画や映画をも含めて論じていき、「文学」の堅いイメージを覆し、文学の面白さを共有します。学際的な文学は、多くの読者（鑑賞者）に感動を与えつつ、人間の様々な問題について考えさせてくれる、いわば生きる糧なのです。また、研究姿勢の基盤ともいえるべき「疑うことの必要性」から説き起こし、研究に必要不可欠な2つの方法論-比較と分析-と、更にそれを総合へと展開させてゆくことの重要性についても説明します。比較文学の実践については、まず二つの方法論の特長を簡単に見、具体的に様々なテーマ毎に文学の比較をしていきます。様々な問題が生じている今日にあって、日本だけでなく外国文学を通じて異文化をも理解することで、人間の在り方を問い直してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

コピーを利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 研究の方法論について(「絶対」の否定、【比較と分析】)
- 2回 文学とは：文学の面白さ、文学は感動、文学は倫理...
- 3回 文学とは：文学は想像力 (The Missing Piece)、文学は鏡(『緋文字』)...
- 4回 文学の必要性：【無用の用】(『星の王子様』)
- 5回 文学は反体制：物質主義批判(『アメリカの悲劇』)、科学文明批判(「あざ」)、ルール 批判
- 6回 文学は反体制：メディア批判(『トゥルーマンショー』)、教育批判(『女王の教室』)...
- 7回 文学の読み方、読みの多様性
- 8回 比較文学とは、目的と意義
- 9回 比較文学の方法1(フランス派)：『七人の侍』と『荒野の七人』、
比較文学の方法2(アメリカ派)
- 10回 比較文学の実践：時代比較、国(地域)比較
- 11回 比較文学の実践：ジャンル比較：小説と映画
- 12回 比較文学の実践：翻訳の問題：俳句とその訳(松尾芭蕉とその翻訳)
- 13回 比較文学の実践：テーマ比較：日米の集団主義と個人主義(『わたしは貝になりたい』と『坩堝』)
- 14回 比較文学の実践：テーマ比較：母性比較(『ピラヴド』『マザー&ラヴァー』)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験かレポート...90% 出席点(課題など)...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で提示する様々な作品に積極的に接してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア文化概論【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を講義するなかでメディア論的な思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学史と視点① W.ベンヤミン【複製技術】
- 第3回 学史と視点② M.マクルーハン【メディア / メッセージ】
- 第4回 学史と視点③ R.シャルチエ【読書論】【物質性】
- 第5回 メディア史① 身振りと言葉(1)【身近なメディア】【文明史】
- 第6回 メディア史② 身振りと言葉(2)【象徴】【コミュニケーション】
- 第7回 メディア史③ 印刷技術【グーテンベルグ】
- 第8回 メディア史④ 音声(1)電話【家庭】【個人】
- 第9回 メディア史⑤ 音声(2)レコード・ラジオ【マスメディア】
- 第10回 メディア史⑥ 音声(3)ウォークマン【都市の風景】
- 第11回 メディア史⑦ 映像(1)映画【活動写真】【トーキー】
- 第12回 メディア史⑧ 映像(2)テレビ【メディアイベント】
- 第13回 学史と視点④ S.ホール【カルチュラルスタディーズ】【オーディエンス】
- 第14回 学史と視点⑤ 再びメディアとは何か【インターネット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、小テスト、課題など)...約30% 学期末試験約70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【昼】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校国語科書写の教育内容を正しく理解し、指導に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

全国大学書写書道教育学会編 『明解 書写指導』 萱原書房 平成21年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」国語科編 文部省、その他(プリント配布)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講基礎調査I・II、筆順について
- 第 2 回 書写・書道教育史、用具用材と基本用筆①
- 第 3 回 学習指導要領(国語科書写)、基本用筆の習得②
- 第 4 回 基本用筆の習得③・④
- 第 5 回 楷書の学習と許容体
- 第 6 回 行書の成立、行書の学習①、
- 第 7 回 授業研究①、行書の学習②
- 第 8 回 授業研究②、行書の学習③、
- 第 9 回 授業研究③、行書の学習④
- 第 10 回 授業研究④、行書の学習⑤
- 第 11 回 授業研究⑤、生活の中の書①(細字)
- 第 12 回 授業研究⑥、生活の中の書②(細字)
- 第 13 回 授業研究⑦、仮名の歴史、基礎的な仮名の書き方
- 第 14 回 授業研究⑧、書体の変遷
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...50%(課題I...25% 課題II...25%) レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限られた時間の中での活動となりますので、特に毛筆の技術面において、授業時に習得できなかった場合は、自宅にて復習することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語教育に限らず、広く第2言語（外国語）教育における複雑で多用な要素に気づくことを第一のねらいとする。教師、学習者、授業、教えること、学ぶこと等を通して、日本語教育の現状を知り、それにどのように関わるかを考え、行動できるようになることを願う。そのため、話し合いを中心としたペア、グループ形式での活動を多く行う予定である。授業では構成的グループ・エンカウンターを用いて、クラス内の人間関係作りから行う。

教科書 /Textbooks

○青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

春原憲一郎他編『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社
高松里『日本に住む外国人留学生Q & A』解放出版社
小林浩明『留学生初心者のためのハンドブック』←配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
- 2回 日本語教育とは何か【言語教育】【コミュニケーション能力】
- 3回 日本語能力とは何か【日本語能力試験】【文法】【談話】【社会言語学】【ストラテジー】
- 4回 学習能力とは何か【学習ストラテジー】【認知】【メタ認知】
- 5回 教師の役割【教育の目的】【学習者オートノミー】
- 6回 教師の仕事【教師の一日】【カウンセラー】【コーディネーター】【アドバイザー】
- 7回 教師の養成【教師トレーニング】【教師の成長】【教師オートノミー】
- 8回 アクション・リサーチ【自己研修型教師】
- 9回 教師オートノミー【内省的実践】【教師の実践知】【ナラティブ】
- 10回 ジャーナル・アプローチ【ジャーナル】【教師同士の対話】
- 11回 日本語教育と文化【文化の定義】【多文化主義】【複文化主義】【多文化共生】
- 12回 日本語教育のスタンダード【CEFR】【JFスタンダード】【ACTFL-OPI】
- 13回 評価とは何か【学習者評価】【ポートフォリオ評価】
- 14回 試験
- 15回 総括【リフレクション】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 試験 ... 30 % 自己評価 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では多くの課題が出ると思ってください。また、学生による授業への積極的な参加を求めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国語 / 第二言語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。日本語教師（日本語学習支援者）を目指す者がまず知らなければならないのが、どのように言葉が学習されるのかであり、どのように言語学習を支援できるのかである。そこで、自らの外国語学習経験を通して、第二言語習得研究から俗説や思い込みを検証する。

教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中望他『日本語教育の理論と実際：学習支援システムの開発』大修館書店
 ○大津由紀雄著『英語学習7つの誤解』生活人新書(NHK)
 西村淳子『多言語多文化学習のすすめ』朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回授業オリエンテーション&複言語のすすめ【複言語】
- 2回一斉授業の問題点【学習者オートノミー】【自律学習】【ポートフォリオ】
- 3回チュートリアル【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 4回リソースを考える【リソース】
- 5回学習計画を立てる【学習目標】【学習方法】【評価方法】【リソース】【ポートフォリオ】
- 6～8回学習を振り返り、学習計画を修正する【リフレクション】
- 9回全体リフレクション【学習の変化】【学習観】【ピリーフス】
- 11回自律学習の問題点【カウンセリング】【アドバイジング】【ピア・ラーニング】
- 12回自律学習の応用【チュートリアルの応用】
- 13回日本社会と日本語教育と学習者オートノミー【多文化共生】【地域日本語学習】
- 14回学習者オートノミーについてさらに考える【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 15回振り返り総括:日本語教師になること・私たちにできること

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ...80 % 試験 ...20 %
 (授業態度には、学習活動に対する自己評価40%を含みます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講希望者は、「未習の外国語」または「未体験の学習方法で既習の外国語」を学習者オートノミーを発揮した学習(自律学習)をしてもらいます。テキスト以外に、そのための教材を用意してもらうことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【昼】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯学習社会への移行が叫ばれる現代、生涯にわたって私たちが主体的に学んでいくことの重要性が認識され、そうした学びをサポートする職員・指導者・リーダー・機関・施設・制度など条件整備が問われています。

本講義では、社会教育の法制度、国際的な生涯教育論の展開なども視野に入れつつ、生涯学習を支援・推進する制度・システムについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 『講座 主体形成の社会教育学』1～4巻、山田定市監修、北樹出版
- 『新社会教育講義』小川利夫編、大空社
- 雑誌『月刊 社会教育』国土社
- 雑誌『社会教育』全日本社会教育連合会
- 雑誌『月刊 公民館』全国公民館連合会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 2回 社会教育行政と生涯学習関連行政-教育行政と一般行政
- 3回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 4回 生涯学習施設
- 5回 生涯学習関連施策の動向
- 6回 学習者の特性と学習の継続発展-学習相談、サービス、学習情報
- 7回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 8回 社会教育及び生涯学習関連の指導者とボランティア
- 9回 社会教育施設-公民館
- 10回 社会教育施設-博物館
- 11回 社会教育施設-図書館
- 12回 大都市における公民館-北九州市
- 13回 生涯学習社会の学習システム
- 14回 成人教育の国際的動向
- 15回 生涯学習、社会教育、学校教育、家庭教育

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(授業中の小レポートを含みます。)…80% レポート…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学芸員資格や社会教育主事の必修科目の基本科目として、この授業を先に受講するか、あわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館概論 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代博物館の目的と機能について考究し、現代博物館はいかにあるべきかを講義する。
博物館学の領域と学的体系について講義するとともに、わが国における博物館の法的意味について講義する博物館の目的と社会的機能の変遷を欧米における博物館史、および日本の博物館史を通して明らかにする。
また、博物館の発達史から博物館の系統分類を行いその特性を解説すると共に博物館の専門職員（学芸員）としての必要な基礎知識を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集（日本博物館協会編）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学講座 1～10（雄山閣出版）、日本の自然史博物館(糸魚川淳二著、東京大学出版会)、新しい自然史博物館（糸魚川淳二著、東京大学出版会）、博物館学（倉田公裕著、東京堂出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とは
- 2、博物館に対する考え方
- 3、博物館学の領域と体系
- 4、博物館の定義（博物館法の定義、国際博物館会議（ICOM）の定義）
- 5、現代博物館の主な機能
- 6、日本における博物館の法的位置づけ Ⅰ
- 7、日本における博物館の法的位置づけ Ⅱ
- 8、世界史における博物館の成立とその歴史 Ⅰ
- 9、世界史における博物館の成立とその歴史 Ⅱ
- 10、日本における博物館の歴史
- 11、博物館の事業
- 12、専門職としての学芸員の役割
- 13、博物館資料について
- 14、博物館資料の登録事項について
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館経営論・博物館情報論【昼】

担当者名 太田 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館経営論・博物館情報論においては現代博物館の社会的機能を達成するための理論を講義する。博物館の構成、事業、必要な施設等、博物館経営・情報に必要な内容を講義する。専門職として学芸員に求められる資料の登録事業、展示活動、ミュージアム・マネージメント、ミュージアム・マーケティング、マルチメディア、インターネットなどの情報論の基礎を講義する。

教科書 /Textbooks

博物館関係法令集 (日本博物館協会編)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博物館学教程 (大堀 哲 編著、東京堂出版)、博物館学経営論 (諸岡 博 著、信山社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、博物館とその機能
- 2、博物館資料と博物館の種類
- 3、博物館の構成要素、博物館位置論
- 4、博物館の業務と組織
- 5、博物館資料の収集から登録、保管まで
- 6、博物館の施設
- 7、ミュージアム・マネージメント I
- 8、ミュージアム・マネージメント II
- 9、ミュージアム・マーケティング I
- 10、ミュージアム・マーケティング II
- 11、マルチメディア
- 12、博物館インターネット
- 13、アウトリーチ
- 14、ボランティアと博物館
- 15、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館法が提唱する「博物館」に対する最低限の共通認識を養うために、博物館法を理解し、さらに博物館資料と関連の深い文化財保護法などの諸法令の要点を学習する。
ついで、ビデオなどを通して個別博物館の活動例を紹介しながら、博物館資料の保存と活用に関する、学芸員としての心構えと最低限の知識を習得する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

網干善教編『博物館学概説』 関西大学出版 1998
『文化財保護行政ハンドブック - 美術工芸編 -』 ぎょうせい 1998

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての博物館【博物館法】
- 2回 博物館の建設事情について【日本の博物館建設】
- 3回 最近の博物館を取り巻く諸問題【博物館の現状】
- 4回 博物館資料の保存環境【施設の立地と周囲の環境】
- 5回 博物館資料の劣化と対策(1)【物理・化学的要因】
- 6回 博物館資料の劣化と対策(2)【生物的要因】
- 7回 博物館資料の保存施設【施設内部の環境】
- 8回 博物館学芸員の仕事(1)【資料の調査と収集】
- 9回 博物館学芸員の仕事(2)【資料の整理】
- 10回 博物館学芸員の仕事(3)【資料の展示】
- 11回 文化財保護法と博物館【文化財の保護】
- 12回 博物館資料の取扱い(1)【仏像・彫刻】
- 13回 博物館資料の取扱い(2)【軸物・屏風】
- 14回 博物館資料の調査と整理【古文書】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・20% 期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

どこかの博物館(美術館)を見学し、博物館の雰囲気や展示方法・構成・内容など、自分なりの印象を描いてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教授法I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 矢野 花織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国内における日本語教育(学習支援)の方法について、学習者を学習目的別に「留学生・就学生」、「生活者としての外国人」、「多文化の子ども」と大きく3タイプに分け、それぞれの背景や現状について概観した上で、学習動機や学習環境に応じたコースデザインを学ぶ。

教科書 /Textbooks

田中望『日本語教育の方法-コースデザインの実際-』大修館書店

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田中望・斉藤里美著『日本語教育の理論と実際』大修館書店
河野俊之・小河原義郎『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ。』アルク
河野俊之『Teach Japanese日本語を教えよう第2版』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【構成的ファシリテータ】【エクササイズ】【シェアリング】
- 2回 留学生・就学生に対するコースデザイン【ニーズ分析】【レディネス分析】
- 3回 シラバスとテキスト【言語的シラバス】【内容的シラバス】
- 4回 カリキュラムデザイン【教授法】【教材】【教具】
- 5回 授業計画【準備】【教案】【教室活動】【引継ぎ】
- 6回 コースデザイン分析【チームティーチング】【批判的思考】
- 7回 協働学習【ジグソー法】【振り返り】
- 8回 評価法【客観的テスト】【主観的テスト】【妥当性】【信頼性】
- 9回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(1)【ファシリテータ】【多文化共生】
- 10回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(2)【地域日本語教育】【社会的ニーズ】
- 11回 「生活者としての外国人」に対する学習支援(3)【コーディネータ】【システム構築】
- 12回 「多文化の子ども」に対する学習支援(1)【生活・学習環境】【発達段階と言語習得】
- 13回 「多文化の子ども」に対する学習支援(2)【JSLカリキュラム】【進路】
- 14回 言語生活支援としての教室活動【言語保障】【エンパワーメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業では自由に意見を述べることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教授法II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の教授法に依拠して教えることはなくても、各教授法によって推奨される学習活動を応用することは多い。しかし、そのためには、基盤となる言語理論や学習理論を理解する必要がある。その上で、学習者に対して適切な選択肢を提示することができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

リチャーズ&ロジャーズ『アプローチ&メソッド世界の言語教授・指導法』東京書籍

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鎌田修他『日本語教授法ワークショップ(増補版)』凡人社
 ○ビデオ有り
 ラーセン-フリーマン『外国語の教え方』玉川大学出版部

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【アプローチ】【メソッド】
- 2回 言語教育の歴史【言語教育改革】【メソッド時代】
- 3回 オーラル・アプローチ【場面教授法】
- 4回 オーディオリンガル・メソッド
- 5回 全身反応法
- 6回 サイレント・ウェイ
- 7回 コミュニティ・ランゲージ・ラーニング
- 8回 サジェストペディア
- 9回 コミュニカティブ言語教授法
- 10回 OPI
- 11回 SAPL
- 12回 VT法
- 13回 コンピテンシー重視の言語教授法、協同言語学習法
- 14回 内容重視の指導法、タスク重視の言語教授法
- 15回 まとめと自己評価

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(発表を含む) ... 50 % 試験 ... 20 % 自己評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各教授法については学生による授業(発表を含む)の形式をとる。教育実習へ向けての準備としたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学演習I【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中・上級日本語教育におけるいろいろな局面を理論と実践の両面から学習すし、「誰のために」「何のために」「何を」「どう教えるか」を追及する。

教科書 /Textbooks

丸山敬介『日本語教育学演習シリーズ⑥教え方の基本』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中望『日本語教育の方法 - コースデザインの実際』大修館書店
- 名柄迪監修『実践日本語教授法』バベル・プレス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨン
- 2回 基本事項の確認
- 3回 初級と中上級の相違 1
- 4回 初級と中上級の相違 2
- 5回 中上級の教材と指導法
- 6回 読解指導 1
- 7回 読解指導 2
- 8回 談話指導 1
- 9回 談話指導 2
- 10回 プロジェクトワークの指導
- 11回 課題発表の指導
- 12回 ビデオ教材の利用
- 13回 教材作成 1
- 14回 教材作成 2
- 15回 評価

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題提出を含む)...30% 課題作成...20%、期末試験...50%
演習科目であるから授業時間の3分の1以上の欠席者には単位は与えられない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでから授業に参加すること。又授業では扱わない初級部分にも目を通しておくこと。書物や新聞を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学演習II 【昼】

担当者名 横林 宙世 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中上級の文法にはどんなものがあるか、それらの意味、機能、用法について日本語能力試験問題1、2級を基に概略知識を得た後、テキストからいくつかの項目を取り上げ、演習形式で検討していく。レポート担当者は担当部分を調べてきて発表する。

教科書 /Textbooks

友松悦子他『どんなとき使う日本語表現文型500』（アルク）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 白川博之監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーイーネットワーク）
- グループジャマシイ『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 中上級の文法とは 1 (group work)
- 3回 中上級の文法とは 2 (group work)
- 4回 中上級の文法とは 3
- 5回 課題発表 1
- 6回 課題発表 2
- 7回 課題発表 3
- 8回 課題発表 4
- 9回 課題発表 5
- 10回 課題発表 6
- 11回 課題発表 7
- 12回 課題発表 8
- 13回 課題発表 9
- 14回 課題発表 10
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度(授業中の積極的な発言を含む)・・・20%、 課題提出・・・10% 発表(含むレジュメ)・・・25%
最終レポート・・・45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をして授業に参加すること。書物、新聞などを読んで、語彙量を増やし、日々自身の日本語力を高める努力を重ねること。外国人に説明し、適切な例文が作れるように日本語を意識的に外から眺める努力を続けること。中・上級の表現文型を用いて例文を沢山作る努力を続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧に詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。また、実習成果の一つとして簡易な報告書の作成を行う。

教科書 /Textbooks

桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』凡人社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストに多くの文献が紹介されています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】
- 3回 チュートリアルとは何か【個別対応】【学習者オートノミー】
- 4回 チュートリアルとは何か【リソース】【ポートフォリオ】
- 5回 実習(1)【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 再び、チュートリアルとは何か【教師オートノミー】【自己主導型学習】
- 13回 総括【教師の成長】【多文化共生社会】
- 14回 報告書の作成(1)
- 15回 報告書の作成(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習は外国人留学生特別科目「日本語A」(週2回ペア2クラス)のチュートリアルで実習を行います。
実習期間はほとんど毎日実習準備のために大学に来る心積もりでいてください。
実習準備に参加しない人の実習参加は認められないことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語学習者(留学生)のための短期集中コースをデザインし、それを実行する。コースを設計し、その運営を行うことは決して易しいことではないが、日本語教師の専門性には欠かすことのできない能力である。
平成21年度は、「留学生のための就職活動支援講座」を行った。

教科書 /Textbooks

田中望他『日本語教育の理論と実践：学習支援システムの開発』大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅倉美波他『日本語教師必携ハート&テクニク』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び教育実習計画について【コースデザイン】
- 2回 コースデザイン【ニーズ調査】【レディネス調査】【言語学習適性調査】【学習条件調査】
- 3回 ニーズ分析
- 4回 目標言語調査及び言語資料分析
- 5回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン(1)
- 6回 シラバスデザイン及びカリキュラムデザイン(2)
- 7回 実習(1)振り返り及び学習者評価
- 8回 実習(2)振り返り及び学習者評価
- 9回 実習(3)振り返り及び学習者評価
- 10回 実習(4)振り返り及び学習者評価
- 11回 実習(5)振り返り及び学習者評価
- 12回 実習に対する評価
- 13回 総括
- 14回 報告書の作成(1)【報告書の目的】【章建て】【役割分担】
- 15回 報告書の作成(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習は必ずしも授業時間に行えるとは限りません。実習協力者の都合によります。
実習期間はほとんど毎日実習の準備のために大学に来る心積もりでいてください。
実習準備に参加しない人の実習参加は認められないことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習I【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「博物館実習I」は「博物館実習II」の事前教育である。
実際の館務実習である「博物館実習II」の教育効果を高めるために文学部の担当教員のほか、各種の博物館・美術館で実際に勤務している学芸員の方々をも講師に招き、学内における講義・実習と学外の諸施設および展示の見学とを組合わせて行う。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として隔週ごとの土曜日3, 4限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を日曜や休日、休暇期間中に変更することもある。
歴史・民族・考古・美術・自然史・文学等の博物館を訪れる予定。
最初の授業の折にそのおよその授業の計画を説明するので、必ず出席のこと。
学外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
また見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

博物館実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館務実習です。実習は本学が委託した博物館・美術館で実施されますが、指導学芸員はじめ館員の方すべてが、激務のなかで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しており、決して迷惑を掛けるようなことがあってはなりません。ことに取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品です。当然慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれます。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分2週間を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行います。
「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位を修得していなければなりません。

イ、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論
ロ、教育原理(比較文化学科の学生)・教育学概論(人間関係学科の学生)
ハ、選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行います。説明会に欠席した場合は履修できません。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事があります。館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとします。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度及び日誌、レポートの結果を総合的に判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラジエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【規範の特性】【法の機能】【法存在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'10』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド) (1)
- 3回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド) (2)
- 4回 ストロークの基礎練習 (バックハンド) (3)
- 5回 ストロークの基礎練習 (バックハンド) (4)
- 6回 サービスの基礎練習 (1)
- 7回 サービスの基礎練習 (2)
- 8回 ポレーやスマッシュの基礎練習 (1)
- 9回 ポレーやスマッシュの基礎練習 (2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (1)
- 14回 ダブルスゲーム (2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム(1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム(2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム(3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム(4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシシン.....史上最強の毒物【ダイオキシシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、ト・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、
定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1)【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2)【国連】
- 4回 人権概念の整理(1)【国家】【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2)【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1)【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2)【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1)【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2)【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1)【国籍】
- 13回 外国人の人権(2)【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキン グ】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】 【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値（4）【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値（5）【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題（3）【種差別】
- 10回 現代における差別の問題（4）【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小レポート含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロナリズムの思想課題】 【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2) 【ポストコロナリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】 【植民地主義】
- 【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】 【ナショナリズム】
- 【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】 【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解読』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|--------------|---|------------------------|
| 第1回 | 憲法の意義 | - | 【国家権力の授権と制限】 |
| 第2回 | 憲法の展開 | - | 【近代から現代、そして未来へ】 |
| 第3回 | 人権総論 | - | 【自由の保障と制約】 |
| 第4回 | 人権各論①（幸福追求権） | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 人権各論②（平等原則） | - | 【人種・性と平等】 |
| 第6回 | 人権各論③（信教の自由） | - | 【信教の自由と政教分離】 |
| 第7回 | 人権各論④（表現の自由） | - | 【プライバシー・名誉・性表現】 |
| 第8回 | 国民主権論 | - | 【国民主権の意義】 |
| 第9回 | 日本の政治制度 | - | 【議院内閣制の本質】 |
| 第10回 | 平和主義論① | - | 【憲法9条の制定・意義】 |
| 第11回 | 平和主義論② | - | 【平和主義の現実と未来】 |
| 第12回 | 平和主義論③ | - | 【憲法9条と裁判所】 |
| 第13回 | 日本憲法史 | - | 【大日本帝国憲法と日本国憲法】 |
| 第14回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況に関して概説する |
| 第15回 | 総括 | - | 講義を踏まえたくえで憲法状況について概説する |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理(4) ユダヤ-キリスト教の倫理(補足)
- 9回 近代倫理学の誕生(1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生(2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展(1) カント
- 12回 近代倫理学の発展(2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判(1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判(2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

宮崎充保(他)『Intensive Training for the TOEIC Test』 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Preliminary Lesson
- 3回 Part 1 対策
- 4回 Part 2 対策
- 5回 Part 2 対策
- 6回 Part 3 対策
- 7回 Part 3 対策
- 8回 Part 4 対策
- 9回 Part 4 対策
- 10回 Part 5 対策
- 11回 Part 5 対策
- 12回 Part 6 対策
- 13回 Part 7 対策
- 14回 Part 7 対策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...50% 期末試験...50%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、指定された箇所の予習をして授業に出席すること。基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ① "Word Master Approach for the TOEIC Test" <Word Book> Published by Seibido
- ② "The Heinle Picture Dictionary English/日本語", Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson
- ③ 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するテストとしてのTOEICの重要性は近年ますます高まってきている。TOEIC受験を奨励する企業も多く、就職対策としてスコア向上は急務である。そこで授業ではTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い(目標500点)、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また1学期は、Reader Explorer 1という写真や図表が効果的に用いられているテキストを使い、世界の異なる文化に触れ、興味深いトピックを発見しながら、特にリーディングの強化をはかる。

教科書 /Textbooks

『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』(Conquering the TOEIC Test)
著者：河原真也・野上良子
発行所：朝日出版社 (ISBN978-4-255-15458-9)
Reading Explorer 1
発行所：センテージ ラーニングELT(ISBN978-1-4240-0637-3)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Ch.1 【写真描写問題】	Reading Explorer Unit 1: Amazing Animals
2回	TOEIC Ch.2 【応答問題】	R E Unit 2: Travel and Adventure
3回	TOEIC Ch.3 【会話問題】	R E Unit 3: Music and Festivals
4回	TOEIC Ch.4 【説明文問題】	R E Review 1
5回	TOEIC 【Practice for Listening Parts】	R E Unit 4: Other Worlds
6回	TOEIC Ch.5 【短文穴埋め問題】	R E Unit 5: City Living
7回	TOEIC Ch.6 【長文穴埋め問題】	R E Unit 6: Clothing and Fashion
8回	TOEIC Ch.7 【読解問題】	R E Review 2
9回	TOEIC 【Practice for Reading Parts】	R E Unit 7: Dinosaurs Come Alive
10回	TOEIC Ch.8 【Mini Test 1】	R E Unit 8: Stories and Storytellers
11回	TOEIC Ch.9 【Mini Test 2】	RE Unit 9: Tough Jobs
12回	TOEIC Ch.10 【Mini Test 3】	R E Review 3
13回	TOEIC Ch.11 【Mini Test 4】	R E Unit 10: Pyramid Builders
14回	TOEIC Ch.12 【Mini Test 5】	R E Unit 11: Legends of the Sea
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
Practical Tips for the TOEIC Test 杉田麻哉 他 著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Getting Ready for a Business Trip/Chapter 1
- 3回 Departure/Chapter2
- 4回 On a Plane/Chapter3
- 5回 Arrival/Chapter4
- 6回 Meeting People/Chapter5
- 7回 Mini-test 1/Chapter6
- 8回 Making an Appointment/Chapter7
- 9回 At a Hotel/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Visiting a Company/Chapter9
- 12回 Small Talk (1)/Chapter10
- 13回 Negotiation/Chapter11
- 14回 Mini-Test 2/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course will focus on ways of helping students improve their confidence and skills with general English. One of the key aims is to help students improve their performance in general proficiency tests such as the TOEIC test. Each class will include segments for homework review, vocabulary consolidation and test preparation strategies.

教科書 /Textbooks

To be announced

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary, access to the internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and goal setting
- 2 回 Mini test for listening and review
- 3 回 Mini test for reading and review
- 4 回 Core Unit 1 Focus on questions # 1
- 5 回 Core Unit 2 Focus on dialogues #1
- 6 回 Core Unit 3 Focus on monologues #1
- 7 回 Core Unit 4 Grammar workshop
- 8 回 Mid- semester review
- 9 回 Core Unit 5 Introduction to tests other than TOEIC
- 1 0 回 Core Unit 6 Using the web for independent study
- 1 1 回 Core Unit 7 Focus on questions #2
- 1 2 回 Core Unit 8 Focus on dialogs #2
- 1 3 回 Core Unit 9 Focus on monologs #2
- 1 4 回 End-of-semester review
- 1 5 回 Course Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance 25% Task completion 40% Listening and Reading Tests 35%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to follow the study plan we will design in the goal setting session.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are listening, reading and writing English. The class is taught in English. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to communicate confidently when they spend time studying, working or traveling in English.

教科書 /Textbooks

- ①“Word Master Approach for the TOEIC Test” <Word Book> Published by Seibido
- ②“The Heinle Picture Dictionary English/日本語”, Audio CDs and Interactive CD-ROM Published by Thomson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course will help the students to increase their English vocabulary while listening to English speakers and looking at pictures in the text book. We will also use software to polish students' English ability.

- 1回 Introduction
- 2回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 3回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 4回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 5回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 6回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 7回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 8回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 9回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 10回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 11回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 12回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 13回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 14回 Word Master Approach for the TOEIC Test / The Heinle Picture Dictionary / u-CAT
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on five factors: attendance, effort in class, completion of homework, in-class assignment, tests and final examination. Complete breakdowns of score percentage for the final grade on the basis of your performance in classroom activities and on the results of tests. participation in class 15% completion of homework and in-class assignment 58% final exam 27%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The students must be prepared to listen to and memorize the sounds they hear on Audio CDs, as well as to be able to spell the words they hear. The students must also use Interactive CD-ROM for homework. Student must ask questions in class.
第1回目の授業にすべてのテキストを必ず持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続きTOEIC対策として、テスト形式と連動して作成されたテキストを用い、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していく。また文学部比較文化学科における授業ということを考え、2学期は Discover Great Britain and Ireland というイギリスに焦点を当てたテキストを用いる。England, Wales, Scotland, Ireland それぞれの土地にまつわる興味深いエピソードを読みながら、建築、音楽、文学、演劇、食生活などへの関心を深め、リーディングの強化をはかりたい。

教科書 /Textbooks

Power Charge for the TOEIC Test
著者：Harumi Nishida 他
発行所：金星堂 (ISBN978-4-7647-3874-4)
Discover Great Britain and Ireland
著者：Scott Berlin, Chisako Nakayama
発行所：金星堂 (ISBN978-4-7647-3864-5)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	TOEIC Unit 1 【文の構造】	Discover Ch.1 【Introduction】
2回	TOEIC Unit 2 【名詞I: 名詞・代名詞】	Discover Ch.2 【London I】
3回	TOEIC Unit 3 【名詞II: 可算/不可算名詞】	Discover Ch.3 【London II】
4回	TOEIC Unit 4 【形容詞・副詞】	Discover Ch.4 【Wales】
5回	TOEIC Unit 5 【動詞・助動詞】	Discover Ch.5 【A Special Bridge】
6回	TOEIC Unit 6 【時制】	Discover Ch.6 【Accommodations】
7回	TOEIC Unit 7 【イディオムI】	Discover Ch.7 【Making Cheese】
8回	TOEIC Unit 8 【一致】	Discover Ch.8 【Ancient Stones】
9回	TOEIC Unit 9 【分詞・動名詞・不定詞】	Discover Ch.9 【Still More To See】
10回	TOEIC Unit 10 【関係詞】	Discover Ch.10 【Scotland】
11回	TOEIC Unit 11 【接続詞・前置詞】	Discover Ch.11 【Kilts & Tartans】
12回	TOEIC Unit 12 【特殊構文】	Discover Ch.12 【Bagpipes & Whiskey】
13回	TOEIC Unit 13 【比較】	Discover Ch.13 【Ireland】
14回	TOEIC Unit 14 【仮定法】	Discover Ch.14 【The “Star” Of Ireland】
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

本学の英語教育基本方針により、少なくとも年1回のTOEIC受験が義務付けられている。成績評価は「個別教員による評価」+「TOEIC到達度」からなる。個別教員の評価は、定期試験(50%)、小テストの成績(25%)、課題(25%)及び出席状況や授業中の態度などを総合的に判断してなされる。

TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 新藤 照夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

A Strategic Approach to the TOEIC Test Listening 西陰浩子 他 著 (成美堂)
TOEIC Test: On Target <Book1> 大賀リ工 他 著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sickness and Injury/Chapter 1
- 3回 Transportation/Chapter2
- 4回 Presentation/Chapter3
- 5回 Trouble/Chapter4
- 6回 Small Talk 2/Chapter5
- 7回 Mini-test 3/Chapter6
- 8回 At a Restaurant/Chapter7
- 9回 Making a Complaint/Chapter8
- 10回 TOEIC 模擬テスト
- 11回 Shopping/Chapter9
- 12回 Sightseeing/Chapter10
- 13回 Returning Home/Chapter11
- 14回 Mini-Test 4/Chapter12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 比1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh'questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to' and 'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

1単位

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 演習
/Class Format

演習

クラス 比 1 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Would you like beef or fish?
- 第3回 Can I have your passport, please?
- 第4回 Do you have any vacancies?
- 第5回 Go straight along Seventh Avenue
- 第6回 Out and About 1: Sightseeing
- 第7回 Do you mind if I watch TV?
- 第8回 How do you feel?
- 第9回 Are you free this weekend?
- 第10回 Are you ready to order?
- 第11回 My father works in a bank.
- 第12回 Out and About 2: Eating Out
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Identity
- 3 回 Identity
- 4 回 Values
- 5 回 Values
- 6 回 Culture Shock
- 7 回 Culture Shock
- 8 回 Culture in Language
- 9 回 Culture in Language
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Body Language and Customs
- 1 4 回 Body Language and Customs (make-up class)
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6回 Giving compliments & replying to compliments
- 7回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses/ Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/pastmodals
- 10回 Getting people's attention and interrupting/ Eighth oral presentations/ listening test
- 11回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by/ Writing: paragraph---a country you know
- 12回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/ relative clauses
- 13回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14回 "Explaining "things Japanese"+ Getting information & Controlling the conversation
- 15回 Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語Ⅳ class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 1 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn English to help them travel abroad. Listening and speaking are important components of the course. There will be many opportunities to practise the target language and get a good understanding of what is expected when travelling abroad. Hopefully this course will give students the confidence to travel later in life.

教科書 /Textbooks

Passport: Second Edition LEVEL 2 by Angela Buckingham and Lewis Lansford (published by Oxford university press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course objectives and a progress review
- 第2回 What's your favourite food?
- 第3回 What would you like to drink?
- 第4回 I won't be home for lunch today.
- 第5回 Could you tell me when we'll there please?
- 第6回 How would you like to pay?
- 第7回 Out and About 3: Getting around
- 第8回 Can I send this airmail?
- 第9回 What time does the show start?
- 第10回 Where did you lose did?
- 第11回 Goodbye and thanks!
- 第12回 How many bags do you have?
- 第13回 Important expressions and vocabulary review
- 第14回 Summary and exam guidance
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor Stephanie A.Houghton / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス 比 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an intercultural communication course that also develops the four English language skills of listening, speaking, reading and writing. The main objectives of this course are to help you understand intercultural interaction and overcome cultural difference in real life.

教科書 /Textbooks

Identity by Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka and Miyuki Iida. Oxford University Press.
ISBN: 0-19-438574-4 (2003年10月)、2439 円 (当時)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Teacher and student self-introductions, and course overview
- 2 回 Individualism
- 3 回 Individualism
- 4 回 Politeness
- 5 回 Politeness
- 6 回 Communication Styles
- 7 回 Communication Styles
- 8 回 Gender and Culture
- 9 回 Gender and Culture
- 1 0 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 1 回 Film Review (Cultural Difference)
- 1 2 回 Group Work: Discussion Skills
- 1 3 回 Diversity
- 1 4 回 Diversity
- 1 5 回 Review (make-up class)

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking Ability 50% Writing Ability 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 比 1 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、具体的にある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

Target on the TOEIC Test Starter 水本篤 著 (金星堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Daily Life [品詞 1 品詞の違い]
- 3回 Unit 2 Shopping [品詞 2 接頭辞・接尾辞]
- 4回 Unit 3 Restaurant [品詞 3 数量の表し方]
- 5回 Unit 4 Travel [主語と動詞の一致]
- 6回 Unit 5 People and Professions [動詞の形 1 時制・活用形]
- 7回 Unit 6 Office [動詞の形 2 自動詞・他動詞]
- 8回 Unit 7 Recruitment [動詞の形 3 不定詞・動名詞]
- 9回 Unit 8 Manufacturing [代名詞]
- 10回 Unit 9 Marketing [前置詞]
- 11回 Unit 10 Business Finance and Economy [接続詞 1 相関接続詞]
- 13回 Unit 11 Weather Forecast [接続詞 2 前置詞と接続詞の違い]
- 12回 Unit 12 Government and Other Organizations [関係詞 1 関係代名詞]
- 14回 Unit 13 Social and Environmental Issues [関係詞 2 関係副詞, その他]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 (小テスト含む) 40% + 学期末試験60%、TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の準備を毎回十分にやること。
日頃から英語に親しむ・学習する機会を出来るだけ作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 比2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : 時事英語を読み、世界情勢を知ると共にReadingのスピードアップをめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "Practical Tips for the TOEIC Test"成美堂
Reading : "The Half-Edition of English through the News Media 2010" 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリントによるListening演習
- 2回 授業前半 : TOEIC : Chapter1から順次進める。
授業後半 : Unit 1 から順次進める。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Development of TOEIC skills, with particular emphasis on Listening and Reading.

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test: Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Pre-test
- 3 回 Units 1,2,&5.
- 4 回 Units 3,&6.
- 5 回 Units 4,&7.
- 6 回 Units 8,9&12.
- 7 回 Units 10,&13.
- 8 回 Units 11,&14.
- 9 回 Units 15,16,&19.
- 1 0 回 Units 17,&20.
- 1 1 回 Units 18,&21.
- 1 2 回 Units 22,23,&26.
- 1 3 回 Units 24,&27.
- 1 4 回 Units 25,&28
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : 時事英語を読み、世界情勢を知ると共にReadingのスピードアップをめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : "Practical Tips for the TOEIC Test"成美堂
Reading : "The Half-Edition of English through the News Media 2010" 朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期同様、
授業前半 : TOEIC : 1学期の続きから(予定 : Chapter 7)順次進める。
授業後半 : Reading : 1学期の続きから(予定 : Chapter 7)順次進める。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 比2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation format
- 2 回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation matter
- 3 回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact
- 4 回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation
- 5 回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;
- 6 回 Second speech presentation/ student evaluation and questions
- 7 回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and clustering; listening for stress; present perfect verb form;
- 8 回 Third speech presentation/ student evaluation and questions
- 9 回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions & connectors; talking about process; strong adjectives
- 1 0 回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 1 回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; informing; intonation for listing; past progressive verb form; Fifth speech presentation
- 1 2 回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions; talking about current events; simple connectors
- 1 3 回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 4 回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structures for cause and effect
- 1 5 回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 比2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students` English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Orientation
- 2 回 Timed English Speeches and Q&A sessions
- 3 回 Unit 1 and discussion in English
- 4 回 Unit 2 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 3 and discussion in English
- 7 回 Unit 4 and discussion in English
- 8 回 Unit 5 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 6 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 7 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 8 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

Listening : “TOEIC Test : To the Point”南雲堂
Reading : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリントによるListening演習
- 2回 授業前半 : TOEIC : Lesson1から順次進める。
授業後半 : Reading : Unit 1 から順次進める。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義・演習 /Lecture・Workshop クラス /Class 比2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks
Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 0 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 1 1 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 2 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 1 3 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 4 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 1 5 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method
Speech Presentations: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・他

クラス 比2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance=50%, Class Participation=10%, Final Test=40%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical comprehension and speaking skills developed through study of various English materials. Students will also have opportunities to practice academic presentation. Keywords for the course: Communicate, make friends, have fun.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (Pre-Intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Timed Speeches and Q&A sessions
- 2 回 Unit 9 and discussion in English
- 3 回 Unit 10 and discussion in English
- 4 回 Unit 11 and discussion in English
- 5 回 Presentations in class
- 6 回 Unit 12 and discussion in English
- 7 回 Unit 13 and discussion in English
- 8 回 Unit 14 and discussion in English
- 9 回 Presentations in class
- 1 0 回 Unit 15 and discussion in English
- 1 1 回 Unit 16 and discussion in English
- 1 2 回 Unit 17 and discussion in English
- 1 3 回 Presentations in class
- 1 4 回 End of semester review
- 1 5 回 Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance ... 30% Homework ... 30% Examination ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Deeper Understanding Framework を使い、各テーマの意義の深いところまで理解でき、的確な表現で自分の進路に合った英語プレゼンテーションが出来るようになる。プレゼンテーション内容の多くは学生が自ら責任を持って決めることになる。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels, Fun Flavor, Book 1
Optimal Levels PROJECT BOOK

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction - Getting to know you.
- 2 回 Chapter 1. Movies: Introduction
- 3 回 Chapter 1. Movies: Building your understanding
- 4 回 Chapter 1. Movies: Presentation preparation
- 5 回 Chapter 1. Movies: Presentation day
- 6 回 Chapter 2. Travel: Introduction
- 7 回 Chapter 2. Travel: Building your understanding
- 8 回 Chapter 2. Travel: Presentation preparation
- 9 回 Chapter 2. Travel: Presentation day
- 1 0 回 Chapter 3. Shopping!: Introduction
- 1 1 回 Chapter 3. Shopping!: Building your understanding
- 1 2 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation preparation
- 1 3 回 Chapter 3. Shopping!: Presentation day
- 1 4 回 Semester review
- 1 5 回 Semester review continued

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション ... 60% 試験 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 暁芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、丁寧形1【합나다体】
- 2回 助詞1、漢数字1【1～、分数・小数】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号】【年月日】【誕生日】
- 4回 時制表現【昨日・今日・明日】【四季】【毎週・毎月・毎年】
- 5回 丁寧形2【해요体】文法説明
- 6回 丁寧形2【해요体】ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【年齢】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】及びドリル
- 10回 数量単位名詞【漢数字の場合】【固有数字の場合】
- 11回 希望及び願望【～たい】【～たがる】
- 12回 否定形、不可能形【안～,～지 않습니다】【못～,～지 못합니다】
- 13回 過去形【합나다体の過去】【해요体の過去】【日記】
- 14回 過去形の否定及び不可能【～지 않았습니다.】【～지 못했습니다.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語IVの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 比1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

比文1年生はこの講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 比1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks
金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字2【おいつつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ペアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済誉比人 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語表現の基礎の習得

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口 一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツ語の綴りと発音
- 2回 コミュニケーションの第一歩
- 3回 ドイツ語での自己紹介
- 4回 ホテルに泊まる
- 5回 名詞の「性」と冠詞
- 6回 ミュンヘンの名所へ行く
- 7回 知人を訪ねる
- 8回 友達同士の話し方
- 9回 買い物をする
- 10回 分離動詞の使い方
- 11回 列車に乗る
- 12回 前置詞の使い方
- 13回 大学での1日
- 14回 助動詞の使い方1
- 15回 助動詞の使い方2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語Ⅲの続き・ドイツ語表現の基礎の習得

教科書 /Textbooks

「ハロー・ミュンヘン・ノイ」 (関口 一郎、白水社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 形容詞の使い方
- 2回 色の表現
- 3回 過去表現は現在完了形で
- 4回 昨日何をしましたか?
- 5回 過去形
- 6回 ドイツの歴史を過去形で説明
- 7回 再帰動詞と再帰代名詞
- 8回 1日の行動を再帰動詞で表現
- 9回 副文と接続詞
- 10回 関係代名詞
- 11回 関係代名詞を使った表現
- 12回 接続法の種類
- 13回 接続法第二式
- 14回 非現実話法の練習
- 15回 全体の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独和辞書(出版社は問わない)を準備しておくこと。電子辞書でも可。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すととき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス 比 1年 /Class							
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラピッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の「音」についての復習
- 2回 再帰代名詞
- 3回 再帰代名詞の複合過去
- 4回 過去分詞の一致のまとめ
- 5回 半過去と大過去
- 6回 半過去と複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 補語人称代名詞
- 9回 命令法と補語人称代名詞
- 10回 現在分詞とジェロンデフ(1)
- 11回 現在分詞とジェロンデフ(2)
- 12回 疑問代名詞 le quel
- 13回 受動態
- 14回 最上級と副詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏検3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標にしています。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 強調構文
- 2回 中性代名詞(1)
- 3回 中性代名詞(2)
- 4回 条件法現在
- 5回 条件法過去
- 6回 接続法現在
- 7回 接続法過去
- 8回 直接話法と間接話法
- 9回 時制の一致(1)
- 10回 時制の一致(2)
- 11回 前置詞と接続詞(時の表現)
- 12回 前置詞と接続詞(場所の表現)
- 13回 前置詞と接続詞(論理の表現)
- 14回 単純過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検3級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは3級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検2級の問題を解いて行きます。しかし、仏検対策を主たる目的としているわけではありません。既習の文法事項や語彙等を確認し発展させるのが目的です。仏検の厳選された問題群は、そのような目的のための宝の山と言えます。レベルは2級から始めますが、柔軟に対応します。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない(適宜プリント使用)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：実用フランス語技能検定試験問題を解く。【仏検】【文法】【語彙】
- 2回：同上。
- 3回：同上。
- 4回：同上。
- 5回：同上。
- 6回：同上。
- 7回：同上。
- 8回：同上。
- 9回：同上。
- 10回：同上。
- 11回：同上。
- 12回：同上。
- 13回：同上。
- 14回：同上。
- 15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 25% 課題... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には必ず1年次使用の文法テキストおよび仏和辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第一言語・母語として、中国語に次ぎ世界第2の話者人口を持つスペイン語の学習を通して、言葉とその文化(圏)を少しでも理解するのがねらいです。*我が国ではスペイン語は普通、西語、と表記されます。

教科書 /Textbooks

青木・辻・マリア J. H. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典または電子辞書必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のアルファベット・発音
- 2回 発音・アクセント
- 3回 名詞の性と数・冠詞
- 4回 主格人称代名詞・動詞について
- 5回 直説法現在規則活用
- 6回 基本的な文章(肯定・否定・疑問)
- 7回 疑問詞(QUE・QUIEN・DONDE)・国々とその言語
- 8回 不規則活用(主要三動詞、SER・ESTAR・HABER)
- 9回 形容詞の性・数と主要三動詞例文
- 10回 疑問詞(COMO)・指示詞・所有形容詞
- 11回 他の不規則動詞
- 12回 不定詞の用法
- 13回 不規則動詞例文
- 14回 代名詞(与格・対格・前置詞格)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

西語の発音は、日本語を母語とする者にとっては、非常に容易です。逆に、文法や動詞の活用は、難解で複雑です。特に、初歩段階が肝腎です。欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

西語 I を継続し、ほぼ初級の文法を終えます。

教科書 /Textbooks

西語 I と同じ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典必携

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不定過去・不完了過去・現在完了(規則活用)
- 2回 動詞の意味上の分類
- 3回 不定語と例文
- 4回 天候・季節の表現と例文
- 5回 不定過去・不完了過去(不規則活用)
- 6回 現在分詞と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節と例文
- 8回 未来・条件未来・過去完了の活用と用法
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞と用法
- 12回 接続法現在の活用
- 13回 比較級と最上級
- 14回 接続法(過去・現在完了・過去完了)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

西語 I 同様、欠席は好ましくありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(同僚の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較宗教・思想【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アイヌなどの縄文信仰と【神道】、インド・中国・朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】、神道と融合した神仏習合、中国の【儒教】と【道教】、西洋に目を向ければ、前2000年頃からのギリシャとローマでのアポロ神など神々への信仰がある一方、中東ではベルシャヤやユダヤの宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】の一神教があった。ユダヤ教はイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀にローマ帝国が国教として以降、西洋で勢力をもった。さらに、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。

教科書 /Textbooks

テキスト 『資料』は作成した「プリント教材」を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(参考書) ウィリアム・M・ギャロット : 『新約聖書』 (角川文庫)
加地伸行 : 『儒教とは何か』 (中公新書)
小杉 泰 : 『イスラームとは何か』 (講談社現代新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日米宗教比較--「日本人は無宗教か？信仰心が篤いのか！」
- 第2回 中東の宗教思想--ユダヤ教とキリスト教【一神教】
- 第3回 ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
- 第4回 仏教誕生前夜【キリスト教と古代インド宗教哲学(ウパニシャッド)】
- 第5回 仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
- 第6回 仏教【日本における展開(神道との衝突・習合)】
- 第7回 縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
- 第8回 神道の形成【禊ぎと祓え】
- 第9回 アイヌや沖縄などの縄文信仰+弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道
- 第10回 イスラム教【ムハンマド誕生】
- 第11回 イスラム教【ユダヤ教とキリスト教】
- 第12回 儒教【孔子誕生】
- 第13回 儒教【古い価値感からの脱皮】
- 第14回 儒教【現代的意味】
- 第15回 比較宗教・思想 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小レポート(70%)と期末試験(全体のレポート、30%)によって評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較歴史・文化【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀から20世紀にかけて、大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の抗議行動をとりあげ、なぜ人々は「抗議」という行動を選んだのかを、様々な角度から考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ①：近代イギリスにおける女房売りの事例。
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ②：近代イギリスにおけるスキントンの事例。
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ③：近代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例。
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ④：現代アメリカ合衆国における魔女狩りの事例。
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑥：【モラル・エコノミー】とは何か。
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑦：近代イギリスにおける【食糧一揆】の事例。
- 8回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑧：近代イギリスにおける【法の代執行】の意味。
- 9回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑨：現代アメリカ合衆国における【食糧暴動】の事例。
- 10回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑩：現代アメリカ合衆国における【法の代執行】の意味。
- 11回 【制裁の儀礼】とコミュニティ⑪：2～11回の授業の小括。
- 12回 【労働争議】とコミュニティ①：アメリカ合衆国における【労働運動】の事例。
- 13回 【労働争議】とコミュニティ②：アメリカ合衆国における【反貧困】の取り組み
- 14回 【労働争議】とコミュニティ③：1960年代アメリカ合衆国における鉱山労働者の事例。
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介した参考文献等を積極的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の近代文学を、明治以降の各時代における表現を比較しながら、文学というものについて理解を深める。従来の文学への接し方とは違う方法を提示し、文学というものが様々なアプロ一チ、楽しみ方のあることを伝えていく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本文学に描かれた橋について、その概観を述べる
- 2回 明治時代の橋① 樋口一葉「にごりえ」
- 3回 明治時代の橋② 泉鏡花の文学における橋
- 4回 明治時代の橋③ 夏目漱石の描く橋
- 5回 明治時代の橋④ 森鷗外の描く橋
- 6回 大正時代の橋① 佐藤春夫の見た橋
- 7回 大正時代の橋② 有島武郎の書いた橋
- 8回 大正時代の橋③ 志賀直哉の橋
- 9回 昭和時代の橋① 川端康成の橋
- 10回 昭和時代の橋② 永井荷風「遷東綺譚」の橋
- 11回 昭和時代の橋③ 太宰治の橋
- 12回 昭和時代の橋④ 火野葦平の橋
- 13回 平成時代の橋① 石田衣良の橋
- 14回 平成時代の橋② 鷺沢萌の橋
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる作品をできるだけ事前に読んでおくように

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較民族学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義且つ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロニアル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、現物を直に見てもらうことで学生諸君に判断を委ねたい。ここで言う「現物」とは世界各地の音楽PVである。これらのPVを「Hip-hopの感染力」・「アイドルの普遍性」・「Rockの浸透力」のコンセプトのもとに特集して鑑賞するが、その目的は「グローバル化」の実態への理解を深めることである。このPVの上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。

今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回はジェンダーに関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュディス・バトラー 1999年 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社.
Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press..
Marilyn Strathern 1988 The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press
Tambiah, S. J. 1985 Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~3回 象徴論からみた文化の概念の解説とジェンダーの概念の解説【シンボル】【ジェンダー】
 - 4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ・DVD【女子割礼】【伝統】
 - 5回~7回 ジェンダー パート1:ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって【バックラッシュ】【家長制】
 - 8回 グローバル化を考える1:ヒップホップの感染力【政教分離】
 - 9回~11回 ジェンダー パート2:脱エスノセントリズムの試み-ポスト構造主義フェミニズムとポストコロニアル・フェミニズム【生物学的基盤主義】【身体】【社会構築主義】
 - 12回 グローバル化を考える2:世界のアイドル【美の基準】
 - 13回~14回 ジェンダー パート3:民族誌を読む。マダガスカルとタイの民族誌を予定。【パフォーマティブ】【反相対主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の点数(95%)。出席(5%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較表象文化 【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では声・身体を人間の最も身近なメディアとして位置づけプロフェッショナルな表現行為の分析を講義する。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発話の重層性① 落語 (1) 【ひとり語り】
 - 第3回 発話の重層性② 落語 (2) 【言葉と身体】
 - 第4回 発話の重層性② 文楽【多声性】【語り物】
 - 第5回 発話の重層性③ 漫才【ダイアログ】【宗教性】
 - 第6回 発話の重層性④ 紙芝居【大道】【教育】
 - 第7回 ジャンルの連鎖①浪花節 (1) 【物語の構造】
 - 第8回 ジャンルの連鎖②浪花節 (2) 【盛衰】【メディア】
 - 第9回 声のメディア性②ニュースとは何か【日常会話化】【アナウンス】
 - 第10回 声のメディア性①深夜放送【若者文化】
 - 第11回 声のメディア性③ラジオ深夜便 (1) 【高齢者文化】
 - 第12回 声のメディア性④ラジオ深夜便 (2) 【記憶】【共感】
 - 第13回 交差するジェンダー②【声優】【語り物】【JPOP】
 - 第14回 補論 身体の現前性 見せ物・サーカス【現前性】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (コメントカード、小テスト、課題、授業態度など) ...約 30% 学期末レポート約 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では、誰もがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせで、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行いたい。この形で比較という作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような、文化の一面が明らかになるのかを確かめたい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを実感してもらいたい。アメリカと日本、アメリカとイギリスの文化の違いに関する理解も深めたい

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメ等の資料を配布する。参考図書も、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較1
- 3回 アメリカ版ゴジラ(1988年)と、日本版ゴジラ(1954年)を比較2
- 4回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか1
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているか2
- 6回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較1
- 7回 『宇宙戦争』と『インデペンデンス・デイ』を比較2
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図を分析1
- 9回 上記二作品の映画製作者の意図を分析2
- 10回 『ロード・オブ・ザ・リング』の映画版と原作との比較
- 11回 上記によって明らかになる、映画製作者の意図について
- 12回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
- 14回 以上によって明らかになる、英米の文化の違い
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
自筆ノート持込可(ただし、コピーノートは不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の前に指定した映画を可能な限り見ておくようにしてください。
講義中には、重要な場面を断片的にのみ見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会意識 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の思考の多くの部分が言語によって支配されていることから分かるように、個人的なもののように見える、人間の意識も実は集会的なものである。本講義においては、特に現代社会における意識、特に「個人主義」の様々な有り様についての議論を取り扱う。

教科書 /Textbooks

特になし(レジュメ資料を配付)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版(2008年5月)2500円
J・リッツァ『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版会(1999年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 【意識】とは何か
 - 2回 【イデオロギー】とは何か
 - 3回 現象学は意識をどう捉えてきたか
 - 4回 構成主義、【構築主義】の社会学は意識をどう捉えてきたのか
 - 5回 【近代化】と意識1(ウェーバーとデュルケム)
 - 6回 近代化と意識2(ウェーバー、)
 - 7回 【個人主義化】と意識1(フロム、リースマン、ベラー論)
 - 8回 【ポストモダン】化と意識(ポストモダニズム論)
 - 9回 日本人と意識の歴史1(戦後~70年代)
 - 10回 日本人と意識の歴史2(70年代以降)
 - 11回 【消費社会化】と意識1
 - 12回 消費社会化と意識2
 - 13回 メディアの変容と意識1
 - 14回 メディアの変容と意識2
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題40% 試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期に文化社会学の授業を受けていると理解がより深まる(必須ではないが)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会文化 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の前半においては現代文化の特徴についての諸理論を解説し、後半はその応用領域として観光文化について講義をする。本講義では文化を、「真/偽」「美/酬」「善/悪」等の基準はカッコに入れ、それらの基準を成り立たせているメカニズムとして分析的に考える。

教科書 /Textbooks

特になし (レジユメ資料を配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣『観光化する社会』ナカニシヤ出版 (2008年5月) 2500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 【文化】とは何か (【イメージ】の生産とイメージの解釈・消費のしくみについて)
 - 2回 【近代化】と文化1 (M・ウェーバーの近代化論を中心に)
 - 3回 儀礼と世俗化 (V・ターナーの通過儀礼論、PLバーガーの世俗化論を中心に)
 - 4回 【マクドナルド化】マクドナルド化と消費社会化 (イメージの生産とイメージの消費について)
 - 5回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化1 建築、絵画
 - 6回 【ポスト・モダニズム】と【消費文化】消費文化2 映画
 - 7回 【観光】とは何か (近・現代社会と場所の消費としての観光について)
 - 8回 ホストの文化とゲストの文化 (湯布院の観光文化、門司港の観光文化を中心に)
 - 9回 日常世界の観光化と観光の日常化 (テーマパークとモールについて)
 - 10回 観光とメディア (ハワイの観光化過程を中心に)
 - 11回 観光とアイデンティティの政治学
 - 12回 グローバリゼーションと文化
 - 13回 観光と文化のグローバリゼーション
 - 14回 ティズニー化と観光文化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 40% 試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

7回以降では、指定されたテキストを読むことを前提に授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 (近現代) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本近現代文学の散文・韻文の特徴について、表現・形式・内容およびメディアとの関係を中心に概説する。作品を自身で読解し、その解釈を他者へ伝えるための、基本的な研究の態度を身につける。具体的な作品にふれつつ、日本近現代文学を学ぶための入門となることを目指す。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○各種日本文学史。他は授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学という制度-芸術・美術・文学-
- 第2回 表現論① 文学の文体
- 第3回 表現論② 文学とメディア
- 第4回 小説論① 主人公と語り手I 三人称小説
- 第5回 小説論② 主人公と語り手II 一人称小説
- 第6回 小説論③ 構成とは何かI ストーリーとプロット
- 第7回 小説論④ 構成とは何かII 時間
- 第8回 小説論⑤ 構成とは何かIII 空間
- 第9回 小説論⑥ 描写とは何かI 自然と風景
- 第10回 小説論⑦ 描写とは何かII 人事
- 第11回 韻文論① 詩のかたち
- 第12回 韻文論② 詩のことはI 感覚
- 第13回 韻文論③ 詩のことはII 思想
- 第14回 読者論と読書論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・・・20% 期末試験・・・80%
ただし、欠席が全体の三分之一を超えた場合は「不可」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

近代文学史上の主たる作品を読むことをこころがけること(とくに国語科教員を目指す者)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侑『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 【近世】という時代
 - 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
 - 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
 - 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
 - 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
 - 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
 - 8回 【好色物】と女性の社会進出
 - 9回 【縁切寺】の歴史
 - 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
 - 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
 - 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
 - 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
 - 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (近現代) 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目

担当者名 赤塚 正幸 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の明治以降の日本近代文学について、従来の近代文学史を基礎としながらも「私」「われわれ」「風俗」の観点から新たな文学史の可能性を探る。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配布するプリントにおいて、必要なものは指示し、必要な部分をコピーしてプリントを作成、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 従来の近代文学史の概観
- 2回 日本の近代文学の発祥 近代文学の理論 坪内逍遙 二葉亭四迷
- 3回 「私」を巡る問題① 森鷗外 樋口一葉
- 4回 「私」を巡る問題② 夏目漱石 志賀直哉 芥川龍之介
- 5回 「私」を巡る問題③ 堀辰雄 中島敦
- 6回 「私」を巡る問題④ 宮本輝 村上春樹
- 7回 「私」を巡る問題⑤ 鷲沢筋
- 8回 「われわれ」という発想① 小林多喜二「蟹工船」
- 9回 「われわれ」という発想② 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
- 10回 「われわれ」という発想③ 中野重治「鉄の話」
- 11回 風俗を描く① 古き良き東京を舞台として 永井荷風 谷崎潤一郎
- 12回 風俗を描く② 川端康成「浅草紅団」 梶井基次郎「檸檬」
浅草、京都といった都市を描くことの意味
- 13回 風俗を描く③ 松本清張「点と線」「時間の習俗」 戦後という時代風景
- 14回 風俗を描く④ 池袋という「都市」を描く 石田衣良
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト80% 平常点20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

『孫子』は、いわゆる「兵法書」の最高傑作とされるが、その内容は、単なる戦略・戦術論にとどまるものではなく、そこには古代中国の深い叡智が含まれている。その影響は、中国や日本はもとより、今や欧米を含む全世界に及んでいると言ってもよい。この講義では、『孫子』というテキストそのものを読み解くと共に、これまでこの書物がどのように読まれ、歴史や文化にどのような影響を与えてきたかについても学ぶことによって、『孫子』の世界の奥深さを窺うよすがとしたい。

教科書 /Textbooks

金谷治『新訂 孫子』（岩波文庫、岩波書店、2000年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに【孫子】
- 2回 二人の「孫子」と時代背景 【孫武】【孫ピン】【銀雀山竹簡】
- 3回 『孫子』の思想①【兵とは国の大事なり】
- 4回 『孫子』の思想②【国を全うするを上と為す】
- 5回 『孫子』の思想③【兵の形は水に象る】
- 6回 『孫子』の思想④【敵の情を知る】
- 7回 『孫子』と諸子百家①【老子】
- 8回 『孫子』と諸子百家②【莊子】
- 9回 『孫子』と他の兵法書①【武経七書】
- 10回 『孫子』と他の兵法書②【武経七書】
- 11回 『孫子』と曹操【魏武注孫子】
- 12回 『孫子』はどう読まれてきたか
- 13回 日本人と『孫子』①【山鹿素行】
- 14回 日本人と『孫子』②【荻生徂徠】
- 15回 現代と『孫子』

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど)... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの解説文や、授業で配布するレジюмеなどに、目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリス文学の流れを追いつつ、具体的な作品の内容にまで踏み込むことで、文学の面白さを皆さんと共有します。イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、更に具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。伝統あるイギリス文学の作品を文化事項と絡めながら見ていき、その面白さを共に味わえればと思います。また同時に本講義においては、人間に関する様々なテーマについて問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 導入(文学の勤め、【文学の面白さ】、イギリスについて、評価方法などの説明)
 - 2回 『ベオウルフ』(古英語) 【想像力】と文学、頭韻など
 - 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
 - 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
 - 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
 - 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
 - 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
 - 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
 - 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
 - 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (【風刺文学】)
 - 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング
 - 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
 - 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)
 - 14回 ドラブル、イングリク(伝統回帰)
 - 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 【詩】→【劇】→【小説】、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)...90%、平常点(課題、授業への参加度等)...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通して下さい。本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んで下さい。イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

The course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to aid student review.
The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.
Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの生活文化【夜】

担当者名 /Instructor 田宮 晴彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀から現代までのアメリカ合衆国での一般大衆の生活を、生産・消費、政治、経済、治安、福祉などの多角的な視点から考察する。また、そうしたアメリカ合衆国の生活文化・様式が広く現代世界に及ぼしている影響についても考察する。

講義ごとに、生活文化と深く関わる文学作品・映像などについても折に触れて考察する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 - 3回 19世紀アメリカの農業と農村の暮らし:【市場革命】【西部開拓】【大草原の小さな家】
- 4回 - 6回 大衆消費社会の到来【アメリカ的生活水準】【生活資金】【金ぴか時代】
- 7回 - 9回 20世紀初頭の大都市の暮らし【ボス政治】【革新主義】【ジャングル】
- 10回 - 12回 恐慌の嵐の中で。【住宅ローンと投機】【怒りのブドウ】【ブリキの太鼓】
【ニューディール】
- 13回 1950年代から60年代アメリカの生活【アメリカ的生活】【郊外化】【反共主義】
- 14回 現代アメリカの生活習慣【ビタミン熱】【マクドナルド化】【禁煙運動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題・小テストを含む)...40% テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの18-19世紀文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。その理由は、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちだからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
本講義では、イギリスの18-19世紀文学から、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

日本イギリス文学・文化研究所編『イギリス文学ガイド』荒地出版社
* 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講すること。
授業中に随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ダニエル・デフォー (5 2)
- 第3回 ジョナサン・スウィフト (5 8)
- 第4回 ジェイン・オースティン (6 6)
- 第5回 ウィリアム・ワーズワス (7 2)
- 第6回 チャールズ・ディケンズ (8 8)
- 第7回 シャーロット・ブロンテ (9 8)
- 第8回 エミリー・ブロンテ (10 4)
- 第9回 ジョージ・エリオット (11 2)
- 第10回 トマス・ハーディ (11 8)
- 第11回 ルイス・キャロル (13 0)
- 第12回 ジョージ・マクドナルド (14 2)
- 第13回 コナン・ドイル (14 8)
- 第14回 オスカー・ワイルド (15 4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 20% 小テストと提出物... 20% 定期試験の成績で総合的に評価する... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、指定されたテキストの箇所を読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化論【夜】

担当者名 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特に中心とするテキストはないが、必要に応じてプリント資料を用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員が、各テーマ毎に参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その1) ジェンダーとセクシュアリティ
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 2回 映画『キンキーブーツ』を題材にジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その2) ファッション
【ジェンダー】【セクシュアリティ】【ファッション】【市場経済】
- 3回 映画『キンキーブーツ』を題材に、ジェンダー / セクシュアリティとイギリス経済について考える。(その3) 経済
- 4回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その1) カトリックと中世
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 5回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その2) プロテスタントと資本主義
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 6回 イギリスにおける宗教その歴史と現代。
(その3) エスニックマイノリティとイスラム教
【プロテスタント】【カトリック】【イスラム】【資本主義】【中世】【近代】【現代】
- 7回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その1) 階級
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 8回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その2) 労働者と言語
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 9回 『プラス!』(あるいは『リトルダンサー』)を題材にイギリスの炭鉱問題、労働者問題について考える。(その3) 石炭経済
【炭鉱経済】【労働者】【階級】【言語】
- 10回 イギリスの王室とメディアについて考える。
【王室】【大衆】【新聞】【テレビ】
- 11回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その1) ロンドンオリンピック、ロンドン万博
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 12回 「ロンドンに世界を集めること」の意味について考える。
(その2) デパート、ロンドン動物園、キューガーデン、図鑑
【オリンピック】【万博】【デパート】【動植物園】【図鑑】
- 13回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その1) エスニシティ
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 14回 映画『ベッカムに恋して』を題材にイギリス社会とエスニシティの問題について考える。(その2) ホモソーシャルボンド
【エスニシティ】【ホモソーシャルボンド】【ジェンダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業コメント含む)... 25% 課題... 0-25% 期末試験... 50-75%

イギリス文化論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

K. Takami(1992)等。講義中に別途指示、またはプリントを配布する。
『英語学へのファーストステップ』有村(他)英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明(規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1(品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2(生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論(オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明(前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造(不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語音声学【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。
英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい英語の音声について明らかにする。

教科書 /Textbooks

堀口俊一監修、加賀屋弘司、矢田裕士、野田哲雄著 『現代英語音声学』 英潮社ファニックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA
- 2回 発声メカニズム、母音の種類(1)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音
- 5回 子音の種類(2)摩擦音
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢
- 9回 音の縮小、同時調音
- 10回 リズム
- 11回 イントネーション(1)
- 12回 イントネーション(2)
- 13回 音響音声学
- 14回 音変化
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、提出物 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープおよびUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生(5世紀)から近世(16世紀)に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる(1)語彙の豊富さ(2)語尾変化の少なさを、この2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達史の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

見馬修『ファンダメンタル英語史』ひつじ書房、1996年、1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観(1)【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観(2)【ケルト人】
- 5回 印欧祖語(1)【ウィリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語(2)【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字(1)【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字(2)【古英語】
- 9回 海賊と英語(1)【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語(2)【借用語】
- 11回 海賊と英語(3)【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語(1)【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語(2)【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語(3)【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法I【夜】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目

担当者名 /Instructor 田村 水幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Types of sentences
- 3 回 Clause types
- 4 回 The verb element, The subject element
- 5 回 The object element, The complement element
- 6 回 The adverbial element
- 7 回 Verb phrase structure
- 8 回 Finite and nonfinite
- 9 回 Auxiliary verbs
- 1 0 回 The moods of the verb phrase
- 1 1 回 Active and passive
- 1 2 回 Verb tenses
- 1 3 回 Verb aspects
- 1 4 回 Modal meanings
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 80% 参加状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Conversation framework
- 2回 First oral presentations and listening test
- 3回 Unit 1 "A Time to Remember"/Past tense/ "Used to"/writing paragraphs
- 4回 Unit 12 "It's Been a Long Time!"/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5回 Introductions and address systems/ Second oral presentations/ listening test
- 6回 Unit 4 "I've Never Heard of That!"/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7回 Unit 16 "What's Your Excuse?"/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9回 Third oral presentations/ listening test
- 10回 Unit 3 "Time for a Change!"/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 11回 Unit 7 "What's this for?"/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 12回 Thanking people and replying to thanks/ Fourth oral presentations/listening test
- 13回 Unit 2 "Caught in the Rush"/Indirect questions from 'Wh' questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 "Going Places"/ Future tense with 'going to'and'will'
- 14回 Apologizing: making apologies and responding
- 15回 Fifth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語III class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【夜】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

New Interchange 2 (Cambridge University Press) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "Sure, No Problem!"/two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends"/gerunds-/ clause with 'because'; Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ Sixth oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate"/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!"/ modals & adverbs/permission, obligation, prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 Seventh oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future"/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?"/ unreal conditional sentences w/ if clauses/ past modals
- 10 回 Getting people's attention and interrupting/Eighth oral presentations/ listening test
- 11 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing"/passive tense with & w/o by / Writing: paragraph---a country you know
- 12 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie"/participles as adjectives/ relative clauses
- 13 回 Agreeing and disagreeing/ Ninth oral presentations/ listening test
- 14 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 15 回; Tenth oral presentations/ listening test

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (5-6 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

*Since students will meet twice a week, in coordination with an 英語IV class, a single grade will be assigned for a student's work in both classes.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation	format
2回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation	matter
3回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact	
4回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation	
5回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;	
6回 Second speech presentation/ student evaluation and questions	
7回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and	clustering; listening for stress; present perfect verb form;
8回 Third speech presentation/ student evaluation and questions	
9回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions &	connectors;talking about process; strong adjectives
10回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions	
11回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; form; Fifth speech presentation	informing;intonation for listing; past progressive verb
12回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions;	talking about current events; simple connectors
13回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions	
14回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structuresfor cause and effect	
15回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback	

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥2000 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Comparative culture speech presentations (from summer homework)/Video feedback
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 10 回 Unit 13: "Lies and Statistics..."; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 11 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 12 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 13 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 14 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 15 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Comparing activities. Regional Foods. Traditional Dishes.
- 3 回 Food Through History. Video Journal: Forbidden Fruit.
- 4 回 Intercultural Communication. Making Small Talk.
- 5 回 Breaking the Ice. Video Journal: Orangutan Language
- 6 回 Describing Cities. Explaining a good neighborhood.
- 7 回 Action Plans. Megacities.
- 8 回 Video Journal: Fes. Health Issues.
- 9 回 Discussing Lifestyles. Natural Remedies.
- 1 0 回 Germs and the Human Body. Video Journal: The Human Body.
- 1 1 回 Facing Challenges. Past Accomplishments.
- 1 2 回 Talk about abilities. Describe a Personal Challenge.
- 1 3 回 Video Journal: The Megatransect Project. Milestones in Our Life.
- 1 4 回 Ideal Age. Getting more information.
- 1 5 回 Describing Important Transitions. Video Journal: Nubian Wedding.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the four skills of English speaking, listening, reading and writing. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World English 2: Heinle Cengage Learning. 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Source of Luxury Items. Discussing Needs and Wants.
- 2 回 Improving People's Lives. Creating Desire Through Advertising.
- 3 回 Video Journal: Coober Pedy Opals. Conditionals and Real Situations.
- 4 回 Discussing Possible Future Situations. Describing Animal Actions.
- 5 回 Giving an Opinion. Video Journal: Happy Elephants.
- 6 回 Discussing Life in the Past. Daily Lives of Grandparents.
- 7 回 Comparing Past and Present. Considering Impact of Past Events.
- 8 回 Video Journal: Columbus and the New World. Preparing for a Trip.
- 9 回 Variety of Vacations. English at the Airport
- 10 回 Pros and Cons of Tourism. Video Journal: Adventure Capital of the World.
- 11 回 Career Choices. Job-related Questions.
- 12 回 Career Planning. Identifying Career Qualifications.
- 13 回 Video Journal: Trinidad Bird Man. Describing a Festival.
- 14 回 Holidays in Different Countries. Personal Celebrations.
- 15 回 Sharing Holiday Traditions. Video Journal: Young Riders of Mongolia.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review materials from the previous week for use in class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ社会の特質や、アメリカ人の美意識や価値観やアメリカ文化の特質について論じた英文を購読することにより、アメリカ社会・文化の独自性や特質に対する理解を深める。精読や多読を織り交ぜて英文を読むことによって、英語の読解力を向上させる。

教科書 /Textbooks

英文のプリントを適宜、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本語文献のコピーを適宜、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明。
- 2回 アメリカ人の個人主義に関する英文の購読
- 3回 アメリカ人の平等主義に関する英文の購読
- 4回 アメリカ人の時間に対する感覚に関する英文の購読
- 5回 アメリカ人の社交に対する見方に関する英文の購読
- 6回 アメリカ人の未来観に関する英文の購読
- 7回 アメリカ人の善悪の観念に関する英文の購読
- 8回 アメリカ人の自己主張に関する英文の購読
- 9回 アメリカ人の物質主義に関する英文の購読
- 10回 アメリカ人の論考の仕方に関する英文の購読
- 11回 アメリカ人のコミュニケーションに関する英文の購読
- 12回 アメリカのテレビ文化に関する英文の購読I
- 13回 アメリカのテレビ文化に関する英文の購読II
- 14回 アメリカのスポーツ文化に関する英文の購読
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、発表状況...30%、試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、次回、購読する箇所を指定しておくので、前もって購読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当スケジュールの作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への意欲的な参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 B - 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんといっしょに語り合います。同時に、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。1学期には、扱いたいテーマ、作品を英米文学、英米文化の中から選び、決定し、各自、毎回課題を決め、それをこなしていくことで、約6000字の原稿を作成することを目指します。この学期は、自分の課題を発表し、他者の課題の発表を聞き、意見交換をすることで広い視野をもち、2学期に備える、卒論作成の予備段階です。(授業全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介。各自のテーマや扱う作家、作品を決定します。
- 2回 メンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表し、意見交換をします。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 7回 卒論の題目の決定します。
- 8回 前々回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ、決定します。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論をします。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 14回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題についての報告をします。
- 15回 6000字の中間発表用原稿を仕上げる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が扱いたい卒論のテーマを温めておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者各自の卒業論文のテーマにあわせて演習発表をする。
作品を解釈し、かつ評価する行為を通じて、思考することの大切さを学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自が担当する作品本文および発表用資料を用意して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習担当予定表の作成
第2回～15回 受講者による演習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業への意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B - 2 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。同時に、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。2学期は1学期の作業を通じて作成した原稿をお互いに読み合い、詳細に至るまでコメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の原稿をより完成度の高い卒論に上げていきます。(講義全体のキーワードは「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」です。)

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認
- 2回 第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 第6発表者のプレゼンと議論。
- 8回 論文の書き方指導。
- 9回 第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 13回 第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 14回 第6発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など)...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 1 (日本) 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義形式の回と1クラス10名前後のクラスに分かれたクラスセミナーの回とを組み合わせ進めます。
 講義形式の回では、日本文化系の全教員の専門分野(文学、芸術、宗教、歴史等)に関する講義に触れてもらうことにより、日本文化系の専門教育への導入を図ります。
 クラスセミナーでは、少人数の演習形式の授業への導入を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各教員による講義の際、担当教員の専門分野に関連した書物を3冊程度紹介します。紹介された書物は、図書館の指定図書のコナーに置かれる予定です。また、各教員によるそれらの書物の紹介文をまとめた「比較文化入門ブックガイド」を配布する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較文化学科への招待 佐藤 真人
- 2回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 3回 講義 1
- 4回 講義 2
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 3
- 7回 講義 4
- 8回 講義 5
- 9回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 10回 講義 6
- 11回 講義 7
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化入門 2 (欧米) 【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 比較文化学科の欧米文化関係の教員が、それぞれの研究分野や関心のある領域について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。またそれ以外の時間には、クラス担任制を活用し、皆さんの関心領域を明確化するために各自発表してもらい、関心をより深いものにするために、意見交換などを行います。将来のゼミ選択や卒業論文作成の基盤となる授業です。

教科書 /Textbooks
 使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 2回 講義 1
- 3回 講義 2
- 4回 講義 3
- 5回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 6回 講義 4
- 7回 講義 5
- 8回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 9回 講義 6
- 10回 講義 7
- 11回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 12回 講義 8
- 13回 講義 9
- 14回 クラスセミナー各クラス担当教員
- 15回 まとめ各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常点 ...50% レポート ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールをお知らせしますので、それを参照してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化概論 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

稲作、米と魚の食生活、日本語、神社や神祭りなどを古代に形成された文化はその後の日本文化の基盤をなしている。そもそも文化の特色・独自性というものは、決して本来的に固有なものではなく、外来文化の受容・選択・消化・変容によって形作られてきたものである。しかも外来文化といっても決して「大陸文化」とひとくくりに語れるような一様なものではない。時代としては古代に焦点を当てて講義を進めていくが、日本文化を考えていく上での基本的視点を身につけてもらうことがねらいである。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐原真『魏志倭人伝の考古学』（岩波現代文庫）
 鯖田豊之『肉食の思想』（中公文庫）
 嶋田義仁『稲作文化の世界観』（平凡社）
 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文化と文明 【文化】【文明】
- 3回 文化の受容と変容 【クリスマス】【復活祭】【来訪神】
- 4回 日本文化の重層構造
- 5回 縄文時代 狩猟採集の文化 【狩猟採集文化】
- 6回 弥生時代 稲作文化の普及 【稲作文化】
- 7回 卑弥呼の時代の文化 倭人と国家形成 【卑弥呼】【邪馬台国】
- 8回 騎馬民族征服王朝説をめぐって 【騎馬民族】【古墳】
- 9回 牧畜文化と日本 【牧畜文化】
- 10回 ヨーロッパ文化と日本文化 農業の形態をめぐって 【天水農業】【灌漑農業】
- 11回 渡来人と日本文化 【渡来人】【秦氏】
- 12回 隋唐文化の受容 【遣唐使】【仏教】【道教】
- 13回 国風文化について 【仮名文字】【神国思想】【女流文学】
- 14回 日本の古代文化と中世～近代
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で示した参考図書を、出来る限り自分で読み進めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

欧米文化概論 【夜】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米文化（欧米文化）を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。「キリスト教」、「ギリシア神話」、そして「マザーグース（あるいは伝承童謡、わらべ唄）」の3つです。これらは英米（欧米）の様々な文化現象（新聞、雑誌、映画、文学、歌などなど）の中に、誰もが知っていて当然のこととして内在していることがよくあります。幼い頃から日々の生活の中にこれら「三種の神器」がしみ込んでいる英（欧）米の文化を本当の意味で理解するのは、これらになじみのない我々日本人にとっては甚だ厄介なことです。そこで本講義ではこれら3つに焦点を当て、その間隙を少しでも埋めることで、異文化理解の礎を築きます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要な資料は毎回授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ウィリアム・M・ギャロット（西南学院理事長）監修『新約聖書』（角川文庫）、トマス・ブルフィンチ『「完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)』(角川文庫)、○オウイディウス『変身物語』（岩波文庫）、The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ユダヤ・キリスト教（旧約聖書の世界）と欧米文化序論【ユダヤ教】【一神教】
 - 2回 ユダヤ・キリスト教（イエス・キリスト誕生）と欧米文化【神人・イエス・キリスト】
 - 3回 キリスト教（宗教改革と大航海時代）のグローバル化【キリスト教の世界化】【植民地化】
 - 4回 キリスト教（民主主義と人権思想）【ローマ法王・一極支配】⇒【王権支配・多極化】
 - 5回 キリスト教と欧米文化の諸問題【グローバル化】と【文化的諸問題】
 - 6回 ギリシアの神々の系譜
 - 7回 文学、芸術の中のギリシア神話(1)
 - 8回 文学、芸術の中のギリシア神話(2)
 - 9回 トロイ戦争と「イーリアス」
 - 10回 トロイ戦争と「オデュッセイア」
 - 11回 Mother Goose の成り立ちと概略
 - 12回 Let's play with Mother Goose (1) Humpty Dumpty 他
 - 13回 Let's play with Mother Goose (2) Mary Had a Little Lamb 他
 - 14回 Mother Goose の影響（『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響）
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（25%）、レポート（25%）、期末試験（50%）で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布される資料には、よく目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田憲太郎『香料の歴史』(紀伊国屋新書)○白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』(中公新書)○W・シヴェルブシュ『楽園・味覚・理性』(法政大学出版局)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス 【社会革命】とは
 - 2回 事例としての「ルネサンスの三大発明」
 - 3回 【香料革命】①香料とは
 - 4回 【香料革命】②中国の【香料革命】
 - 5回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
 - 6回 17世紀オランダ絵画に見る食文化
 - 7回 大航海時代
 - 8回 【香料革命】と【銀革命】
 - 9回 大航海時代と【鉄砲革命】①南蛮貿易
 - 10回 大航海時代と【鉄砲革命】②鉄砲伝来
 - 11回 大航海時代と【鉄砲革命】③火薬の製法
 - 12回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒーとチョコレート
 - 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレートとキリスト教
 - 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】③チョコレートの大衆化
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【夜】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校国語科書写の教育内容を正しく理解し、指導に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

全国大学書写書道教育学会編 『明解 書写指導』 萱原書房 平成21年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」国語科編 文部省、その他(プリント配布)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 受講基礎調査I・II、筆順について
- 第 2 回 書写・書道教育史、用具用材と基本用筆①
- 第 3 回 学習指導要領(国語科書写)、基本用筆の習得②
- 第 4 回 基本用筆の習得③・④
- 第 5 回 楷書の学習と許容体
- 第 6 回 行書の成立、行書の学習①、
- 第 7 回 授業研究①、行書の学習②
- 第 8 回 授業研究②、行書の学習③、
- 第 9 回 授業研究③、行書の学習④
- 第 10 回 授業研究④、行書の学習⑤
- 第 11 回 授業研究⑤、生活の中の書①(細字)
- 第 12 回 授業研究⑥、生活の中の書②(細字)
- 第 13 回 授業研究⑦、仮名の歴史、基礎的な仮名の書き方
- 第 14 回 授業研究⑧、書体の変遷
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...50%(課題I...25% 課題II...25%) レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

限られた時間の中での活動となりますので、特に毛筆の技術面において、授業時に習得できなかった場合は、自宅にて復習することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然科学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「市民活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 市民活動の戦後史
 - 4回～5回 市民活動の現代史
 - 6回～7回 市民活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 市民活動の争点①
 - 11回～12回 市民活動の争点②
 - 13回～14回 市民活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加も求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Under the Blossoms By Kaori Shoji
- "
- 第3回 "Essay - 2 The Edo Spirit By Kaori Shoji
- "
- 第4回 "Essay - 3 Tough to Swallow By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 Caveat Emptor By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第6回 "Essay - 5 I will survive By Anita Lee
- "
- 第7回 "Essay - 6 Going on ten ... By Anita Lee
- "
- 第8回 "Essay - 7 Honing Appreciation By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第9回 "Essay - 8 Leaving it all behind By Samantha Loong
- "
- 第10回 "Essay - 9 The Halloween Exorcise Plan By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 Promoting reading By Joel Assogba
- "
- 第12回 "Essay - 11 Abandoned buildings By Samantha Loong
- "
- 第13回 "Essay - 12 History, is it worth it? By Garry Bassin
- "
- 第14回 "Essay - 13 No ifs, ands, or butts By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are reading and discussing essays. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors.

教科書 /Textbooks

All written materials will be furnished by the teacher. Written materials for the next class will be handed to student by the teacher at the end of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 "Essay - 1 Earthquake Weather By Samantha Loong
- "
- 第3回 "Essay - 2 Enjoy Every Sandwich By Steve Ford
- "
- 第4回 "Essay - 3 Summer Preserves By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第5回 "Essay - 4 The Island Monologues By Garry Bassin
- "
- 第6回 "Essay - 5 It's tough being a man, but it's a whole new ball game By Kaori Shoji
- "
- 第7回 "Essay - 6 Thriller By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第8回 "Essay - 7 Dialect Diversity By Samantha Loong
- "
- 第9回 "Essay - 8 Fear of the Unknown By Garry Bassin
- "
- 第10回 "Essay - 9 Flee! Fly! Flu! By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第11回 "Essay - 10 The Birds By Garry Bassin
- "
- 第12回 "Essay - 11 Blowing smoke By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第13回 "Essay - 12 Don't Kill the Messenger By Kit Pancoast Nagamura
- "
- 第14回 "Essay - 13 Restore, Not Raze By Karen Severns
- "
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亚洲国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亚洲国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 英比人夜 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか？」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか？」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 英比人夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks
 「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
 - 2回 一学期に習ったことの復習(2)
 - 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
 - 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
 - 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
 - 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
 - 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
 - 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
 - 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
 - 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
 - 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
 - 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
 - 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
 - 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
 (出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・ 仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラピッド・フランス語会話I (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords